

十 全 會 雜 誌

第三十六卷第一號(第三百一號)

昭和六年一月一日發行

原 著

各種疾患並ニ中毒ノ際ニ於ケル腎臟 殊ニ其ノ含有脂肪體ノ形態學的研究

附 胎兒腎ノ脂肪體

(昭和五年八月二十九日受附)

金澤醫科大學病理學教室(主任中村教授)

專 攻 生 岡 部 博

目 次

- | | |
|---------------------------|---------------------------|
| 緒 論 | 第二章 急性疾患ノ際ニ於ケル腎臟殊ニ其ノ含有脂肪體 |
| 第一章 慢性疾患ノ際ニ於ケル腎臟殊ニ其ノ含有脂肪體 | 第一節 材料並ニ検査方法 |
| 第一節 材料並ニ検査方法 | 第二節 急性疾患例ノ検査所見 |
| 第二節 慢性疾患例ノ検査所見 | 第三節 急性疾患例ノ所見概括並ニ考察 |
| 第三節 慢性疾患例ノ所見概括並ニ考察 | 第一項 丹毒症並ニ敗血症 |
| 第一項 結核症 | 第二項 腸チフス |
| 第二項 悪性腫瘍 | 第三項 急性膜膜炎並ニ腦脊髓膜炎及ピ
腦炎 |
| 第三項 精神病 | 第四項 破傷風 |
| 第四項 動脈硬化症 | 第五項 子癇 |
| 第五項 脚氣症 | 第六項 急性出血死 |
| 第六項 心臟瓣膜病 | 第七項 急性腹膜炎 |
| 第七項 Banti 氏病 | 第八項 初生兒メレナ |
| 第八項 白血病 | 第九項 小兒消化不良症 |
| 第九項 再生不能性貧血 | 第十項 初生兒鞏硬浮腫症 |
| 第十項 出血性紫斑病 | 第十一項 火傷死 |
| 第十一項 黄疸並ニ膽石症 | 第三章 急性中毒ノ際ニ於ケル腎臟殊ニ其ノ含有脂肪體 |
| 第十二項 肝臟硬變症 | 第一節 材料並ニ検査方法 |
| 第十三項 糖尿病及尿崩症 | 第二節 急性中毒例ノ検査所見 |
| 第十四項 放線狀菌病 | 第三節 急性中毒例ノ所見概括並ニ考察 |
| 第十五項 黴毒 | 第一項 磷中毒 |
| 第十六項 脊髓癆 | |
| 第十七項 腎臟炎 | |

第二項 砒素中毒
第四章 總括的記載
第一節 出現脂肪體ニ關スル考察
第一項 中性脂肪
第二項 狹義ノ「リポイド物質
第三項 重屈折性物質
第四項 類脂肪性色素顆粒

第二節 脂肪體出現部位ニ關スル考察
第三節 年齡的關係
結 論
文 獻
附 圖
附圖説明

緒 論

Aschoff⁽⁸⁾, 川村⁽⁷⁹⁾等ノ廣汎ナル業績ニヨリ其組織内脂肪體ノ顯微化學的研究ニ一新生面ヲ拓キシ以來, 輒近ニ至リ各臟器内脂肪代謝ノ形態學的研究ノ勃興ヲ促シ, 諸家ノ是ニ關スル研究業績ノ發表セラルルモノ相踵グニ至レリ. 而シテハ其臟器機能トノ相互關係ヲ窺ヒ, 他ハ化學的定量成績ト他方其顯微化學的検査成績ニヨル形態學の所見トノ合致ヲ覓メ, 其臟器内ニ於ケル脂肪代謝關係ヲ知悉セント企ツルモノアリ.

是等體內ニ於ケル脂肪代謝關係研究ノ目的ニハ, 腎臟ノ如キ體內代謝産物ノ排泄ヲ營ム臟器ハ最も好適ナルモノト思惟セラル, 然レドモ, 是ガ脂肪代謝ノ形態學的研究ハ未ダ甚ダ多シト言フベカラズ. 加之 Fischer⁽³⁴⁾, Prym⁽¹³⁶⁾, 瀨川⁽¹⁵⁸⁾, Iwantscheff⁽⁷⁰⁾等ノ各種疾患ノ際ニ於ケル腎臟組織内脂肪體ノ形態學的研究業績ノ存スルモノアリト雖モ, 其疾患ト腎臟ノ脂肪代謝關係ニ關シテハ尙所説一致ヲ缺キ, 隔靴搔痒ノ感ナキ能ハザルモノアリ.

而シテ余ハ茲ニ各種疾患並ニ中毒ノ際ニ於ケル體內病的代謝關係ガ腎臟組織内含有脂肪ニ如何ナル影響ヲ惹起スベキカヲ形態學的ニ闡明セント欲シ本研究ニ從事セリ. 茲ニ其研究成績ヲ記述シテ聊カ腎臟組織内脂肪體ノ形態學上ノ知見ニ補遺セント欲スルモノナリ.

第一章 慢性疾患ノ際ニ於ケル腎臟殊ニ其ノ含有脂肪體

第一節 材料並ニ検査方法

材料トシテハ本學病理學教室貯藏ノ研究用臟器標本中ヨリ比較的新鮮ナルモノヲ選擇セリ, 其總數150例ニシテ結核症等17種ノ慢性疾患ニ就テ検査セリ.

検査方法 研究用貯藏臟器標本中ノ左右兩側ノ腎臟(數例ニ於テハ一側ノミノコトアリ)ノ數ヶ所ヨリ適當ナル組織片ヲ採取シ, 其5%ノ「フォルマリン液中ニ固定セラレシモノヲ更ニ10%ノ「フォルマリン液中ニ48時間以上固定シ, 水洗ノ後一汎ニ同厚サノ(15%)氷結切片ヲ作り, 其組織片ノ一部ハ「ツェロイデン包埋法ニヨリ切片ヲ作製シ, 組織の檢索ニ供セリ.

染色法ハ「ヘマトキシリン」-「エオジン複染色, van Gieson氏染色, Turnbells 靑靨反應検査, Weigert氏彈力纖維染色法等ヲ適宜ニ施シタリ. 脂肪體染色ニハ氷結切片ヲ用ヒ, 「ズダン」III, 「ニールブラウズルフアート」, 「ノイトラールロート」, Fischler氏法, Smith-Dietrich氏法, Ciaccio氏法ヲ施セリ. 而シテFischler氏法, Smith-Dietrich氏法ニ於テハ「ズダン」後染色ヲナシ, 「ノイトラールロート」ニ於テハ加温染色ヲナセリ.

尙脂肪體ノ理學の性質ノ検査ニ對シテハ分極裝置顯微鏡ヲ使用セリ。而シテ之ガ檢索ニハ無染色標本、「ヘマトキシリン」單染色標本、「ニールブラウズルファート」染色標本等ヲ用ヒ、尙ラ川村氏ノ濃厚苛性加里液注加試驗法ヲモ併用セリ。

類脂肪性色素顆粒ハ無染色標本及各脂肪染色標本ニヨリテ檢索シ、而シテ鐵反應檢査ヲ用ヒ「ヘモジエリン」色素顆粒等ト鑑別セリ。

第二節 慢性疾患例ノ検査所見

余ガ檢査セル結核症等17種ノ慢性疾患ニ就キテ其組織所見並ニ脂肪體檢査所見ノ要項ヲ表示スレバ第1表ノ如シ(附表第1表參照)。

表中(卅)ハ極メテ多量、(卅)ハ多量、(卅)ハ中等量、(+)ハ少量、(±)ハ痕跡量ヲ示シ、「加温消失」トハ加温ニヨリ重屈折性ノ消失シ、冷却後再現セルヲ示セルナリ。

尙「蹄係」ハ Henle 氏蹄係ヲ示シ、「上行」ハ Henle 氏蹄係上行脚、「下行」ハ其下行脚ヲ示スモノナリ。

第三節 慢性疾患例ノ所見概括並ニ考察

第一項 結核症

余ガ檢索セシ症例ハ全例ニ於テ33例ヲ算シ、臨床上肺結核、腸結核、腹膜結核及全身粟粒結核症ト診斷セラレシモノニシテ、病理解剖上其結核性病變ノ廣汎ニ亘レル重症結核ト認ムベキモノヲ選擇セリ。各例ニ於ケル要項ハ第1表ニ記載シタルガ如シ。

1. 性及年齡

男性22例、女性11例、年齡ハ4歳ヨリ67歳ニ亘リ、就中18歳ヨリ25歳ノモノ最モ多數ヲ占ム。

2. 組織所見

全身粟粒結核症ノ際腎臟ニモ粟粒結核ノ來ル事ハ周知ノ事實ニシテ、余ガ檢索例ニ於テモ定型的結核結節竝ニ存スルモノ8例ヲ認メタリ。Fischer⁽³³⁾ハ慢性肺結核例ノ約半數ニ於テ腎ノ結核性結節形成ヲ認メタリト、又同氏ハ腎結核症ニ於ケル癥瘕形成及萎縮性病變ハ其結核性病變ニヨリテ來ルナラント言ヘリ、Orth⁽¹³¹⁾ハ結核症ニ於ケル腎臟ノ萎縮性病變ニ關シテ其發生機轉ヲ説クニ、腎ノ動脈管ノ結核ニヨリテ全閉塞ヲ來セル結果當該組織ノ壞死(梗塞)ヲ惹起シ其閉塞高度ナラザル時ハ周圍組織ニ播種性ニ粟粒結核ヲ、時ニ又該領域ニ於ケル細尿管ノ萎縮ヲ認ムトセリ。

之ニ反シ Heyn⁽⁵³⁾ハ結核菌ヲ認メ且萎縮性變化ヲ呈スル腎ニ就テ曰ク、血管ニ結核性變化存セザルモ結核菌ニヨリ炎症性變化ガ乾酪性壞死ニ陥ラズシテ、癥瘕性治癒ヲ呈シ萎縮腎ヲ來スモノナリトセリ。

Schönberg⁽¹⁵⁵⁾、Ceelen⁽²⁵⁾ハ結核性病變ヲ呈スル腎血管ノ閉塞ト又肉芽性間質炎並ニ實質組織ノ退行性變化ガ所謂結核性萎縮腎ノ像ニ移行シ得ト稱セリ。Wegelin und Wildbolz⁽¹³²⁾同様ノ所見ヲ認メ、Kirch⁽⁸⁷⁾又肉芽性炎ヨリ萎縮腎ニ移行スルコトヲ稱セリ。上述諸家ノ説ク所ヲ綜合スルニ腎臟ノ結核ハ所謂結核性萎縮腎ヲ將來スルコト事實ナルガ如シ。

余ノ檢索例ニ於テモ比較的若年期ノ18歳、25歳、15歳(第2、第15、第20例)ニ於テ、萎縮腎ニ移行シ得ベキ肉芽性間質炎ノ像ヲ呈スルヲ認メタリ。

慢性肺結核ニ於テ結核菌毒素ノ持續的刺戟ニヨリ、又全身粟粒結核症ノ如キ菌血症ニ於テ實質性細胞ニ變性ヲ惹起スベキ事ハ容易ニ思惟シ得ラルル所ナリ。余ガ例ニ於テモ約半數(16例)ニ於テ細尿管上皮細胞ニ潤濁腫脹ヲ認メタリ。

變性セル細尿管上皮細胞殊ニ集合管ニ於テ粒狀又ハ塊狀ヲ呈シ「ヘマトキシリン」ニ濃染セル石灰ノ沈着ヲ認メ、又7例ニ於テ輕キ嚢血ノ像ヲ認メタリ。

3. 脂肪體所見

結核症ノ際ニ於ケル腎臟組織内脂肪沈着ニ關シテハ、Prym (前出) ハ15例ノ検査例中 曲細尿管上皮細胞ニハ一汎ニ脂肪ヲ認メズ、唯僅ニ其間質炎ノ像ヲ呈スル一例ニ於テ脂肪滴ノ存在ヲ認メタリ。而シテ6例ニ於テ潤管及 Henle 氏蹄係ニ著明ニ3例ニ於テ少量ニ5例ニ於テ何レノ部位ニモ脂肪沈着ヲ認メザリキト。Fischer (前出) ハ潤管及 Henle 氏蹄係ニ於テ脂肪沈着ヲ認メ曲細尿管ニ於テハ其炎性變化ノ存セザル際ハ常ニ其上皮細胞内ニ脂肪滴ヲ認メズト、瀨川 (前出) ハ19例ニ於テ其中6例ハ生理的脂肪沈着ヲ呈シ殘餘ノ13例ニ於テ潤管部並ニ Henle 氏蹄係上皮細胞内ニ著シキ脂肪沈着ヲ認メ、此13例中5例ハ炎症及變性ヲ呈シ、カカル例ニ於テハ曲細尿管ニ中等量ノ沈着ヲ証明セリ。

Iwantschew (前出) ハ22例ノ慢性結核症ノ際ニ於ケル腎臟組織ニ於テ上述諸家ノ認メタル部位ニ「グリセリノエステル」及「ケファリン」時ニ脂肪酸ヲ檢出シタリ。Kahlden (73) ハ曲細尿管上皮細胞ノ脂肪沈着ヲ認メ、或ハ屢血管内腔ニ稍形態ノ大ナル脂肪變性ニ陥レル細胞ヲ認メ、是等細胞ノ一部ハ他ノ臟器殊ニ肺實質細胞ノ損傷セラレテ循環系統ヲ通ジテ來レルモノナリト稱セリ。

次デ余ガ検査成績ヲ綜合スルニ、

イ. 絲綫體ニ於ケル脂肪沈着

絲綫體ニ於テ脂肪沈着ヲ認ムルモノハ全例中5例ニシテ、第1例ニ於テハ其結核性肉芽ノ部ニ存シ變性セル絲綫體ニ於テ、其他一汎ニ輸入毛細管及血管蹄係ニ塊狀又ハ微細滴狀ヲ呈シテ脂肪沈着ヲ認ム。

ロ. 細尿管ニ於ケル脂肪沈着

主管上皮細胞ニ於テ脂肪沈着ヲ認メタルハ5例ニシテ、主トシテ細胞基底部分ニ粗大ナル滴狀ヲナシテ存ス。是等ノ例ハ一汎ニ其上皮細胞ニハ核ノ性状等ニ觀ルモ著明ナル變性ヲ呈ス。サレド1例ニ於テハ其上皮細胞ノ變性著明ナラザルモノアリ。

Henle 氏蹄係、潤管、集合管ニ於テハ Henle 氏蹄係上皮細胞ニ脂肪沈着ヲ認ムルモノ總數31例、潤管部上皮細胞ニ認ムルモノ13例、集合管上皮細胞ニ認ムルモノ5例ニシテ、一汎ニ Henle 氏蹄係及集合管ニ於テハ其上皮細胞基底部分ニ大小ノ滴狀ヲナシテ存在セリ。

潤管部ニ於テハ其細胞体内ニ比較的平等瀰漫性ニ分布セリ。

ハ. 間質結締織ニ於ケル脂肪沈着

總數8例ニ於テ脂肪ヲ認メ、一汎ニ隨質鬆粗結締織殊ニ錐體部ニ於テ著明ニシテ、細尿管壁ニ沿フテ索狀ニ浸潤性沈着ヲ呈セリ。

ニ. 血管ニ於ケル脂肪沈着

血管壁ニ於テ脂肪沈着アルハ3例ニシテ、葉間腎動脈ノ細枝ノ内膜ニ小ナル塊狀又ハ壁ヲ圍繞シテ半月狀ヲ呈シテ沈着シ、一汎ニ是等血管壁ノ肥厚シ硝子樣ヲ呈セルモノニ多シ。

ホ. 脂肪體ノ種類及量的關係

中性脂肪 最モ多量ニシテ26例ニ於テ認ム、絲綫體其他各部位ニ於テ存在ス。

狹義ノ「リポイド物質」 3例ニ於テ認メ、其量ハ少クシテ Henle 氏蹄係、潤管、間質ニ於テ存在ス。

重屈折性物質 3例ニ於テ少量ニ認メ、單屈折性脂肪量ニ比例シテ存在ス。

ヘ. 組織變化ト脂肪沈着トノ關係

組織變化ト脂肪沈着トノ相互關係ヲ觀察スルニ、余ガ檢索例中概シテ慢性間質炎ノ像ヲ呈スルモノ(第2, 第14例)ニ於テ間質ニ著明ノ「リポイド物質(狹義ノ)」ヲ認メタリ。重屈折性物質ハ31歳ノ女性ニシテ肺結核ニ漿液性腹膜炎及肉荳蔻肝ヲ有スルモノ男性及女性ノ脂肪肝ヲ有スルモノ2例ニ於テ認ム、一汎ニ結核症ニ於テハ其血液内「ヒヨレストリン」量ノ低下スルコトハ Beumer⁽¹⁷⁾ 其他ニヨリテ唱ヘラルル所ナルガ、如斯重屈折性脂肪ノ出現ハ其肝臟ニ於ケル病變ガ原因ヲナスナランカ。

ト. 類脂肪性色素顆粒ノ沈着

全例33例中22例(67%)ニ於テ之ヲ認メタリ。性ハ男性16例(73%), 女性6例(55%)ニシテ、年齢ハ18歳ヨリ67歳ノ老年ニ達セルモノニ於テモ存在ス。其沈着部位ハ主トシテ Henle 氏蹄係下行脚ニシテ、之ニ亞クニ潤管、Henle 氏蹄係上行脚或ハ集合管ニ於テ認メ、而シテ Henle 氏蹄係下行脚ニ於テハ上皮細胞核ノ近クニ略ホ同一高サニ存セリ。其他ノ部位ニ於テモ主トシテ其上皮細胞核ノ周邊ニ集シテ沈着セリ。

要之ニ結核症ノ際ニ於ケル腎臟組織内ニ出現スル脂肪體ハ主トシテ中性脂肪ニシテ、曲細尿管上皮細胞ニハ高度ノ退行性變化ノ存セザル際ニハ脂肪沈着ハ認メラレズ。即チ生理的脂肪沈着ヨリモ一汎ニ脂肪含有量ノ減少ヲ認メ、重屈折性脂肪ハ其肝臟ニ變化ノ存スル際ニ於テノミ發現スルモノニシテ、一汎ニ消耗性色素顆粒トシテ認識セラルル類脂肪性色素顆粒ハ比較的多量ニ存在スルヲ認メタリ。

第二項 惡性腫瘍

余ガ檢索セルハ總數25例ニシテ、癌腫21例、肉腫4例ヲ算ス。

1. 性及年齢

男性19例、女性6例、年齢ハ27歳1例、30歳以上40歳以下8例、41歳以上70歳以下15例、71歳以上1例トス。

2. 組織所見

組織所見ヲ總括スルニ、細尿管上皮細胞ノ潤濁腫脹ヲ呈スルモノ7例、絲綫體荒蕪シテ纖維性ニ變ジ、皮質間質結締織ノ増殖並ニ小圓形細胞ノ浸潤、細尿管ノ萎縮ニ陷レル即チ動脈硬化性萎縮管ノ像ヲ呈スルモノ6例、其他實質性炎ノ像ヲ呈スルモノ1例ヲ認メ、尙黃疸腎2例、「ハマルトーム」ヲ有スルモノ1例ヲ認メタリ。4例ニ於テ高度ノ葉間腎動脈ノ管壁ノ肥厚及硬變性變ヲ認メタリ、一汎ニ年齢的關係ヨリスル腎臟ノ變化ヲ認メタリ。

3. 脂肪體所見

瀬川^(前田)ハ惡性腫瘍ノ際ニ於ケル腎臟22例(中2例ハ丹毒症ヲ合併セルモノ)ヲ檢索シ、Henle 氏蹄係及潤管部ニ中性脂肪及狹義ノ「リポイド物質」ヲ認メ、絲綫體及集合管、間質ニ於テ少量ノ脂肪ノ存在ヲ証セリ、Prym^(前田)ハ惡性腫瘍ノ際ニ於ケル腎8例ニ於テ絲綫體血管蹄係ノ内被細胞核ノ周圍ニ微細ナル脂肪滴ヲ認メ、細尿管上皮細胞ノ脂肪沈着ハ皮質表層部ヨリ深層部ニ於テ著明ナリト、間質ニモ多量ノ脂肪沈着ヲ認ムト稱セリ。Fischer^(前田)ハHenle 氏蹄係及潤管部ニ多量ノ脂肪ヲ認メ、此脂肪沈着異常ハ惡液質ニ因リテ來ルナラントセリ。Iwantschew^(前田)亦結核症ト同様、主トシテ「グリセリンエステル」ヲ其凡テニ於テ檢出シ、或ハ「ケファリン」時ニハ脂肪酸ヲモ認ムト言ヘリ。

次デ余ガ檢査成績ハ次ノ如シ。

イ. 絲綫體ニ於ケル脂肪沈着

輸入毛細管壁ニ小ナル塊狀ヲ呈シテ脂肪浸潤ヲ認ムルモノ(第47例), 血管蹄係内被細胞核ノ周邊ニ微細ナル脂肪顆粒ノ沈着ヲ認ムルモノ6例, 絲髓體ノ荒蕪シテ結締織様ニ變セルモノニ滴狀ニ脂肪沈着ヲ呈セルモノ3例, 其他 Bowman 氏囊壁上皮細胞並ニ血管蹄係面ノ上皮細胞ニ於テ核ノ周圍ニ微細ナル脂肪滴ノ集在スルヲ認ムルモノ1例ヲ得タリ.

ロ. 細尿管ニ於ケル脂肪沈着

主管上皮細胞ニ單屈折性脂肪及重屈折性脂肪ヲ認ムルモノ總數ニ於テ10例ヲ算シ, 一汎ニ主管上皮細胞ニ於テハ脂肪沈着ヲ認メザルカ認ムルモノ極メテ僅少量ナリ. 唯2例(第37, 第38例)ニ於テ粗大ナル脂肪滴ノ上皮細胞體內ニ充盈セルヲ認ムルニ過ギズ.

Henle 氏蹄係, 潤管, 集合管ニ於テハ, Henle 氏蹄係殊ニ上行脚ノ上皮細胞内ノ脂肪沈着ハ24例ニ於テ認メ, 主トシテ細胞基底部分ニ大小ノ滴狀ヲナシテ沈着シ, 潤管部ニ於テモ同様24例ニ於テ脂肪沈着ヲ認メ, 上皮細胞體內ニ比較的平等ニ微細ナル滴狀又ハ顆粒狀ヲナシテ分布セリ. 集合管ニ於テハ其上上皮細胞基底部分ニ散在性ニ沈着ヲ認メ, 總數12例ニ於テ証明セリ.

ハ. 間質結締織ニ於ケル脂肪沈着

髓質鬆粗結締織内殊ニ錐體ニ接近シ, 時ニ皮髓兩質境界部ニ細尿管壁ニ沿ヒテ微細顆粒狀ノ集塊ヲナシテ浸潤セルヲ認ム.

ニ. 血管ニ於ケル脂肪沈着

血管壁ニ脂肪沈着ヲ認ムルモノハ全例中14例ニシテ, 主トシテ内膜ニ塊狀, 半月狀, 環狀ヲ呈シテ沈着セリ.

ホ. 脂肪體ノ種類及量的關係

中性脂肪 最モ多量ニシテ絲髓體, 主管及ヒ Henle 氏蹄係ニ於テ認ム.

狹義ノ「リポイド物質」主トシテ Henle 氏蹄係, 潤管ニ於テ認ム, 其量ハ中性脂肪ニ次グ.

重屈折性物質 一汎ニ其量多カラザルモ, 絲髓體ニ於テ6例, 主管ニ於テ9例, Henle 氏蹄係ニ於テ6例ニ之ヲ認メタリ.

ヘ. 組織變化ト脂肪沈着トノ關係

悪性腫瘍ニ於テハ其全身ノ消耗ヲ來シ惡液質ニ陷ル關係ハ前項ノ結核症ト同一ニシテ, 從テ其代謝關係ニ於テモ殆ド類似ノ所見ヲ呈スレドモ, 一汎ニ脂肪體ノ比較的其量的ニ又質的ニ多キハ, 前項ノ場合ヨリ年齢的ニ高キト, 其腎組織ニ萎縮性病變ニ高度ナルト, 尙悪性腫瘍ノ際ニ於ケル血液内「ヒョロステリン」含有量ノ正常ヨリ高キ事ニ基因スルナラン.

殊ニ稍興味ヲ惹クベキハ第37, 第38ノ2例ニ瀰漫性脂肪浸潤ノ像ヲ呈シ, 而シテ兩者トモ病理解剖上原發性肝臟癌ナルハ, 前項ニ於テ特記セル如ク, 腎臟ト肝臟トノ代謝的關係ヲ示スベキ證例ナラン.

ヘ. 類脂肪性色素顆粒ノ沈着

類脂肪性色素顆粒ヲ認メタルハ全例25例中21例(84%)ヲ算シ, 14例ニ於テ Henle 氏蹄係下行脚ノミニ, 其他ハ潤管部及集合管 Henle 氏蹄係上行脚ノ一部ニモ認ム.

一般ニ悪性腫瘍ノ際ニ於ケル腎臟内脂肪ノ出現量ハ結核症ノ際ニ於ケルヨリ高度ニシテ, 中性脂肪多量ヲ占ムレドモ, 其他「リポイド物質」及重屈折性物質モ結核症ノ場合ニ比シテ可ナリニ多量ナルヲ認ム.

第三項 精神 病

總數21例(13例ハ麻痺性痴呆症)ニシテ、中3例(第60、第69、第72、例)ニ於テ臨床上脚氣ヲ併發セルモノナリ。

1. 性及年齡

男性16例、女性5例、年齡ニ於テハ22歳ヨリ49歳マテ15例、50歳以上6例ヲ算ス。

2. 組織所見

細尿管上皮細胞ノ潤濁腫脹ヲ呈スルモノ5例、鬱血腎ノ像ヲ呈スルモノ7例、其他萎縮性病變ヲ呈スルモノヲ認ム。

3. 脂肪體所見

イ. 絲毬體ニ於ケル脂肪沈着

絲毬體血管跡係内被細胞ノ脂肪沈着ハ微細ナル滴狀或ハ顆粒狀ヲ呈スルモノ、1-2ノ例ニ於テハ浸潤様ニ小ナル塊狀ヲ呈シテ存スルモノヲ認メ、其重屈折性物質ニ於テハ微細ナル針狀ノ結晶狀ヲ呈シテ沈着スルヲ認ム。

又血管跡係面及 Bowman 氏囊壁上皮細胞ニ於テハ主トシテ上皮細胞核ノ周邊ニ於テ微細ナル滴狀ヲ呈シテ沈着セルヲ認メ、重屈折性物質ハ主トシテ小針狀ヲナシテ沈着セリ。

第61、第74ノ2例ニ於テ、變性肥厚セル Bowman 氏囊纖維膜ニ單屈折性脂肪滴ノ沈着ヲ認メ、又輸入毛細管壁ニ「リボイド物質」ノ浸潤様ニ沈着ヲ呈セルモノヲ認メタリ。

ロ. 細尿管ニ於ケル脂肪沈着

主管部ニ於テハ全例中11例ニ於テ認メ、一汎ニ其上皮細胞基底部ニ他ノ部位ニ於ケルヨリモ粗大ナル滴狀ヲ呈シテ存ス。

Henle 氏蹄係、潤管、集合管ニ於ケル脂肪沈着 Henle 氏蹄係ニ於テハ全例ニ於テ單屈折性及重屈折性脂肪ヲ證明シ、第18例ニ於テハ最も多量ニシテ中性脂肪、脂肪酸、「リボイド物質」ノ混在スルヲ認ム。其他5例ニ於テ中等量ニ認メ、一汎ニ其細胞基底部ニ滴狀ヲナシテ存シ、多量ナル時ハ細胞體內ニ充滿シ、時ニ管腔内ニ存スルヲ認ム。

潤管部ニモ全例21例ニ於テ認メ、其脂肪顆粒ノ細胞體內ノ分布状態ハ上述各項ニ於ケルト等シク平等彌蔓性ニ細微顆粒狀ヲ呈シテ散在ス。

集合管ニ於ケル脂肪沈着ハ13例ニ於テ認メ、一汎ニ其上皮細胞基底部ニ滴狀ヲ呈シテ存在ス。

ハ. 間質結締織ニ於ケル脂肪沈着

間質ニ於ケル脂肪沈着ハ8例ニ於テ認メ、髓質鬆粗結締織中ニ多シ。

ニ. 血管ニ於ケル脂肪沈着

血管壁ノ脂肪沈着ハ全例中9例ニ於テ認メ、内1例ニ於テ重屈折性脂肪ノ沈着ヲ認ム。

ホ. 脂肪體ノ種類及量の關係

中性脂肪 全例ヲ通シテ中性脂肪最も多ク、絲毬體ニ少量ニ、主管上皮細胞ニハ僅微ニ、Henle 氏蹄係殊ニ其上行脚及潤管ニ於テハ中性脂肪最も多シ、次テ間質及血管壁ニ認ム。

狹義ノ「リボイド物質」比較的少量ニシテ絲毬體ニ於テハ1例、Henle 氏蹄係及潤管部ニ少量ニ之ヲ認メ、間質及血管壁ニモ僅少ニ認メタリ。

重屈折性物質 重屈折性物質トシテハ「ヒョレステリンエステル」ヲ8例、「ヒョレステリン」脂肪酸混合

物ヲ4例ニ於テ認メ、絲絨體ニ9例、主管部ニ8例、内4例ハ中等量ニ認メ、其他 Henle 氏蹄係上行脚、潤管部、集合管ニモ認メタリ。血管、間質ニ於テ各1例、殊ニ其毛細管腔内ニ微細針狀結晶形ヲナシテ存在ス。

ヘ. 類脂肪性色素顆粒

全例21例中14例ニ於テ認メタリ、其百分率ハ67%ヲ算ス。其出現部位ハ主トシテ Henle 氏蹄係下行脚、少數例ニ於テ潤管部、Henle 氏蹄係上行脚ノ一部ニ於テ存在ス。

以上ノ検査成績ヲ總括スルニ、精神病ニ於ケル出現脂肪種類ハ中性脂肪ガ主位ヲ占メ、之ニ次デ重屈折性脂肪ノ可ナリニ多量ニ出現スルヲ認メシム、是持續的營養障碍ニヨル代謝異常ガ体内脂肪ノ移動ヲ惹起シ、「リビミー」ヲ將來スルニ因ルモノナラン。

第四項 動脈硬化症

主トシテ生前ニ於テ動脈硬化症ト診断セラレシモノ、及死後病理解剖上動脈硬化症ト決定セシモノ21例ニ就テ検査セリ。是等検査例ノ大半(14例)ニ於テ老人性萎縮腎、動脈硬化性萎縮腎或ハ護膜腫性萎縮腎ノ病變ヲ認ムルモノナリ。

1. 性及年齢

男性11例、女性10例、年齢ハ50歳以上中年期ノモノ6例、70歳以上ノ老年期ノモノ15例ナリ。

2. 組織所見

一汎ニ絲絨體ハ荒蕪シテ纖維様ニ變セルモノヲ皮質表層ニ接シテ多ク限局性ニ認メ、其他ノモノニ於テモ其血管蹄係ハ變性ニ陥リ、Bowman 氏囊纖維膜ノ肥厚及硝子様變ヲ認メ、間質結締織モ一汎ニ増殖シ、小圓形細胞浸潤ヲ認ム。而シテ各例トモ細血管内膜ノ肥厚、變性ヲ認メタリ。

3. 脂肪體所見

イ. 絲絨體ニ於ケル脂肪沈着

絲絨體ニ於テハ1例ヲ除ク20例ニ於テ脂肪沈着ヲ認メタリ。

其部位ハ血管蹄係ニ來ルモノ最モ多數ヲ占メ、其内被細胞核ノ周邊ニ微細顆粒狀ノ脂肪滴ヲ示シ、又或ハ塊狀ヲ呈セルモノアリ(15例)、其全ク荒蕪シテ結締織様ニ變セル絲絨體ニ於テ、大小ノ滴狀又ハ顆粒ノ集團狀ヲナシテ存スルモノ(6例)、又輸入毛細管ニ於テ塊狀ニ脂肪浸潤ヲ認ムルモノ(2例)、Bowman 氏囊壁上皮細胞ニ於テ其核ノ周圍ニ沈着ヲ認ムルモノ(3例)又 Bowman 氏囊纖維膜ノ肥厚シ硝子様變性ヲ呈スルモノニ脂肪沈着ヲ認ムルモノ(1例)存セリ。

ロ. 細尿管ニ於ケル脂肪沈着

主管部ニ於テハ17例ニ其上皮細胞基底部ニ脂肪沈着ヲ認メ。

Henle 氏蹄係殊ニ主トシテ其上行脚上皮細胞ニ於テハ全検査例ニ於テ其上皮細胞基底部ニ大小ノ滴狀ヲナセル脂肪沈着ヲ認ム。

潤管部ニ於テハ其上皮細胞内脂肪沈着ヲ認ムルモノナリ19例ニシテ、主トシテ細胞体内ニ平等彌蔓性ニ存セリ。

集合管ニ於テハ其上皮細胞基底部ニ滴狀ヲナシテ散在性ニ存在ス。

ハ. 間質結締織ニ於ケル脂肪沈着 其部位ハ増殖セル間質結締織及髓質ノ鬆粗結締織内ニ顆粒狀ヲナセルモノガ集リ塊狀又ハ索狀ヲ呈シテ浸潤セルヲ認ム。

ニ. 血管ニ於ケル脂肪沈着

一汎ニ變性肥厚セル内膜及彈力板ニ於テ塊狀又ハ膜狀ヲ呈シテ沈着セルヲ認メタリ.

ホ. 脂肪體ノ種類及量的關係

中性脂肪 9例ニ於テ絲毬體ニ認メ其量ハ極メテ少シ, 主管部ニ於テハ5例ニ於テ稍著明ニ認メ, Henle氏蹄係ニ於テハ一汎ニ中性脂肪ノ量ハ狹義ノ「リポイド物質」ヨリ少量ナリ, 潤管部及集合管ハ略Henle氏蹄係ト一致シ, 間質及血管壁モ主トシテ中性脂肪ヲ沈着セリ.

狹義ノ「リポイド物質」絲毬體及間質ニ於テ少量ニ認メ, 一汎ニHenle氏蹄係, 潤管部, 集合管ニ於テハ「リポイド物質」沈着ヲ多量ニ認ム.

重屈折性物質 絲毬體ニ於テハ10例ニ於テ認メ, 其量ハ一汎ニ僅少ナリ, 主管部ニ於テハ4例ニ於テ單屈折性脂肪ト比例シテ多量ニ沈着セルヲ認メ, Henle氏蹄係ニ於テハ14例ニ於テ認メタリ, 潤管部集合管ニ於テモ少量ニ認メ, 血管壁ニハ7例ニ於テ證明セリ.

ヘ. 類脂肪性色素顆粒

總數21例中19例ニ於テ認メタリ. 其部位ハ同様主トシテHenle氏蹄係下行脚ニ認メシム.

上述ノ所見ヨリスルニ, 動脈硬化症ニ於テハ「リポイド物質及重屈折性物質」ノ出現量一般ニ多量ニシテ, 多數ノ例ニ於テ其絲毬體血管蹄係, 及血管壁, 間質等ニ著明ニ現ルヲ認ムルハ其動脈硬化症ニ際シ起レル腎血管内膜ノ硬變性變化ニ由來スルモノニシテ又動脈硬化症ニ於テハ一般ニ血液内「ヒョレステリン」含量ノ多キコトハ先進諸家ノ既ニ承認スル所ナリ, 是等ノ原因ニヨリ, 其重屈折性物質ノ出現量ガ他ノ疾病ニ比シテ多キコトモ當然ノ結果ナリト謂フベシ.

第五項 脚 氣 症

本症列ハ總數6例ニシテ, 臨床上, 剖檢上主トシテ脚氣症ノミヲ以テ死亡セリト認ムベキモノヲ選擇セリ.

1. 性及年齡

性ハ凡テ男性ニシテ, 年齡ハ1歳ノ乳兒脚氣1例, 20歳以上3例, 30歳以上2例ヲ算ス.

2. 組織所見

脚氣症ニ於テ鬱血腎ノ存在ハ一汎ニ知悉セラルル所ニシテ, Scheube⁽¹⁴⁹⁾ハ靜脈性鬱血ヲ認メ, 一汎ニ細尿管上皮ニ顆粒性溷濁及脂肪變性ヲ證明セリ, 三浦⁽¹¹⁵⁾ハ主トシテ絲毬體腎炎ヲ認メ, 而シテ實際實質及間質組織ニモ病變ヲ認ムト稱セリ.

山極⁽¹⁰²⁾ハBertin氏柱及境界層ニ於テ上皮細胞核ノ染色不良ノ部ヲ認メ, 是ヲ貧血性壞死竈ト認メタリ. 長與⁽¹²¹⁾ハ細尿管上皮細胞ノ脂肪變性ヲ認メ, 而シテ曲細尿管, Henle氏蹄係ニ於テ著明ナリト, 又Bowman氏囊壁上皮細胞ノ增生ヲモ認メ, 是等組織變化ハ鬱血及中毒ニ基因ストナセリ. 余ガ檢索例中4例ニ於テ鬱血ヲ認メ, 3例ニ於テ細尿管上皮ノ變性ヲ認メ, 絲毬體ノ變化ハ三浦^(前出), 長與^(前出)ノ稱スル如ク特異ナラズ, 唯第103例ニ於テ輕度ノ萎縮性變化ヲ認ムルニ過ギザリキ.

3. 脂肪體所見

上述諸家ノ所見ニヨレバ, 脚氣症ノ際ニ於ケル腎臟細尿管上皮細胞ニ於テハ一汎ニ輕度ノ脂肪沈着ヲ證明セリ. 瀬川^(前出)ハ成人脚氣ノ衝心型及乳兒脚氣ニ於テ曲細尿管及ヒHenle氏蹄係上行脚ニ於テ主トシ

テ中性脂肪ノ彌蔓性沈着ヲ認メタリト報告セリ、1例ニ於テハ急性中毒死ノ所見ト一致セリト稱セリ、而シテ慢性型ノ脚氣症ニ於テハ曲細尿管上皮細胞ノ脂肪量ハ極メテ少量、又ハ全ク認メズ、唯 Henle 氏蹄係上行脚ニ於テ每常病的脂肪沈着ヲ認ムト言フ、要之ニ慢性型ニ於テハ鬱血腎ノ脂肪沈着所見ト一致シ、急性型ニ於テハ中毒死ノ場合ニ合致セリト。

余ガ成績ヲ摘記スルニ、

イ. 絲毬體ニ於ケル脂肪沈着

Bowman 氏囊壁上皮細胞、血管蹄係内被細胞及ビ輸入毛細血管壁ニ於テ脂肪沈着ヲ認ムルモノハ1例(第104例)ニシテ、其他ノ5例ニ於テ之ヲ認メズ。

ロ. 細尿管ニ於ケル脂肪沈着

主管上皮細胞モ同ツク第104例ニ於テ脂肪ハ比較的多量ニ粗大ナル滴狀ヲナシテ細胞基底部ニ沈着ス。

Henle 氏蹄係上皮細胞ニハ1例ヲ除ク凡テニ於テ其上行脚ニ中等量又ハ少量ニ之ヲ認ム。

潤管部上皮細胞ニハ3例ニ脂肪沈着ヲ認メ、集合管ニ僅ニ1例ニ於テ之ヲ認ムルノミナリ。

ハ. 間質結締織並ニ血管ニ於ケル脂肪沈着

第103例ノ萎縮性變化ヲ呈スルモノニ於テ其髓質鬆組締織内ニ微細顆粒狀ノ集塊ヲナシテ又其皮質内ニ存スル細血管ノ内膜ニ於テ塊狀ヲ呈シテ脂肪ガ沈着セルヲ認ム。

ニ. 脂肪體ノ種類及量的關係

中性脂肪 最モ多量ニシテ4例ニ於テ之ヲ認メ、

狹義ノ「リポイド物質」 僅ニ1例ニ於テ稍著明ニ認メラレ。

重屈折性物質 第105例ニ於テ最モ著明ニ認メラレ、Henle 氏蹄係上行脚ニ於テ認ムルモノ3例、主管部ニ於テ認ムルモノ4例ヲ算ス。

ホ. 類脂肪性色素顆粒

第103例ノ1例ニ於テ Henle 氏蹄係下行脚及集合管ニ於テ之ヲ認メタリ。

第六項 心臟瓣膜病

1. 性及年齡

性ハ男性2例、女性2例、年齡ハ14歳、25歳各1例、40歳以上2例ナリ。

2. 組織所見

14歳ノ女性ノ1例ニ於テ細尿管上皮ノ變性及石灰沈着ヲ認メ、其他ノ例ニ於テハ多少ノ度ニ於テ絲毬體ノ變性、間質ノ増殖、細尿管上皮ノ萎縮等ノ萎縮性變化ヲ認ム。尙凡テノ例ニ於テ鬱血腎ノ像ヲ呈ス。

3. 脂肪體所見

慢性心臟疾患ニ於テ、細尿管上皮内ニ脂肪沈着ノ存スルコトハ一汎ニ知悉セラルル事實ナリ、而シテ Prym (前出) ハ鬱血腎ヲ有セザル8例ノ心臟瓣膜病者ノ腎臟ニ於テ主トシテ潤管部及ビ Henle 氏蹄係上皮細胞ニ脂肪沈着ヲ認メ、僅ニ2例ニ於テ主管部上皮細胞ノ脂肪沈着ヲ認メ、而シテ鬱血腎ノ像ヲ呈スルモノ7例ニ於テハ多少ノ度ニ於テ主管上皮細胞内ニモ脂肪ヲ認メタリト。

Fischer (前出) ハ心臟疾患ニ於ケル腎臟ニテ、炎症及ビ癆瘵性變化ヲ呈セザルモノ12例ヲ檢索シ、其5例ニ於テ少量、7例ニ於テ比較的多量ニ認メ、何等決定的關係ヲ認メズト稱セリ。瀬川 (前出) ハ其臨床的記載ト組織的關係ヲ顧慮セル13例ノ鬱血腎ニ於テ、持續的ニ腎組織ニ鬱血ノ來ル際ハ高度ノ脂肪沈着ヲ惹起スベキモノナリト、而シテ其主トシテ沈着スル脂肪ハ中性脂肪ニシテ、其持續的鬱血腎ニ於テハ「ヒョレス

テリンエステル」ヲ證明ストセリ。

余ガ検査成績ニテハ

イ. 絲綫體ノ脂肪沈着

絲綫體ニ於テハ各例トモ多少ノ度ニ於テ脂肪沈着ヲ認メ、一汎ニ少量、又ハ痕跡ニ認ムルニ過ギザレド、唯1例(第110例)ニ於テハ中等量ニ存在ヲ認ム。其部位ハ各例トモ其變性機轉ヲ示セル血管蹄係内被細胞ニ於テ、單屈折性脂肪並ニ重屈折性物質トモ出現スルヲ認ム。

第107例ニ於テハ Bowman 氏囊壁ノ肥厚セル纖維膜中ニ重屈折性物質ノ沈着セルヲ認メ、第108例ニ於テハ血管蹄係輸入毛細管ニ於テ脂肪浸潤ヲ認メ、第110例ニ於テハ主トシテ Bowman 氏囊壁上皮細胞内ニ脂肪ノ中等量ノ沈着ヲ認ム。

ロ. 細尿管ニ於ケル脂肪沈着

主管上皮細胞ノ脂肪沈着ヲ認ムルモノハ第110例ニシテ、鏡檢上其上皮細胞ノ變性萎縮ニ陥レルモノニ於テ粗大ナル滴狀ヲ呈シテ胞体内ニ充填セリ。

Henle 氏蹄係上皮細胞ノ脂肪沈着ハ2例(第109, 第110)ニシテ、細胞基底部ニ滴狀ヲナシテ少量存ス。

潤管部ニ於テ2例(第107, 第110), 集合管ニハ1例(第110)ニ於テ認メタリ。

ハ. 間質結締組織並ニ血管ニ於ケル脂肪沈着

間質ニ於テ認メシハ3例ニシテ、第117例ニ於テ中等量ニ微細顆粒狀ノ脂肪滴ノ索狀集團ヲ認メ、其他ノ2例ニ於テハ極メテ僅微ナリ。

血管壁ニ於テハ、2例ニ於テ皮質細血管ノ内膜並ニ中膜ニ脂肪沈着ヲ認ム。

ニ. 脂肪體ノ種類及量的關係

中性脂肪 中性脂肪ハ少量ニ絲綫體及 Henle 氏蹄係、集合管、間質、血管壁ニ認ムルニ過ギズ。

狹義ノ「リポイド物質」最モ多量ニシテ、絲綫體、主管部、潤管部、Henle 氏蹄係、集合管、間質、血管壁ニ認ム。

重屈折性物質 重屈折性物質ハ3例ノ絲綫體ニ於テ認メ、第110例ノ主管部ニ於テハ比較的少量ノ存在ヲ認メシム。

ホ. 類脂肪性色素顆粒

第107, 第109ノ2例ニ於テ之ヲ認メ、其部位ハ主トシテ Henle 氏蹄係下行脚ニシテ、第109例ニ於テハ潤管部ニモ存ス。

要之ニ脚氣症及心臟瓣膜病ノ如キ鬱血腎ニ於テ、其鬱血ノ比較的長期ニ亘ラザル脚氣症ノ如キ際ニハ、其出現脂肪ハ主トシテ中性脂肪ニシテ、鬱血ノ持續性ニ長期間ニ亘レル心臟瓣膜症ニ於テハ主トシテ「リポイド物質」及重屈折性脂肪ノ出現ヲ認メ、其沈着ハ一般ニ直細尿管ニ於テ高度ナリ。

第七項 Banti 氏病

第1表第111乃至第114例ノ4例ニシテ、全例トモ脾剝出後ノモノナリ、其中第111, 第113例ニ於テ肝臟ニ萎縮性肝硬變ヲ認メ、第111例ニ於テハ萎縮腎ヲ認ムルモノナリ。

1. 性及年齢

男性1例, 女性3例, 年齢ハ13歳ノ幼年期1例, 他ノ3例ハ30歳以上ノモノナリ。

2. 組織所見

2例ニ於テ 絲毬體ノ變性, 間質ノ増殖, 細尿管ノ萎縮等ノ慢性間質炎及ヒ腎萎縮性變化ヲ認メ, 2例ニ於テ細尿管上皮細胞ノ變性ヲ認メ, 1例ニ於テ著明ノ鬱血像ヲ認メタリ.

3. 脂肪體所見

イ. 絲毬體ニ於ケル脂肪沈着

3例ニ於テ僅少量ノ脂肪沈着ヲ認ム, 其中2例ニ於テハ 輸入毛細管ニ於テ痕跡量ノ脂肪浸潤ヲ認メ, 他ノ1例ニ於テ血管蹄係内被細胞ニ脂肪滴ノ沈着ヲ認ム.

ロ. 細尿管ニ於ケル脂肪沈着

主管部上皮細胞ハ一汎ニ脂肪沈着ヲ認メズ, 第112例ニ於テ極メテ僅少量ニ於テ其上皮細胞内ニ脂肪浸潤ヲ認ムルニ過ギズ.

Henle 氏蹄係上皮細胞ニ於テハ, 3例ニ其胞體基底部分ニ滴狀ヲ呈シテ少量ノ脂肪ガ沈着セルヲ認メタリ.

潤管部上皮細胞ニ於テハ3例ニ之ヲ認メ. 集合管ニ於テハ4例トモ其基底部分ニ脂肪滴ノ沈着ヲ認メタリ.

ハ. 間質結締織並ニ血管ニ於ケル脂肪沈着

間質ニ於テハ1例ニ於テ其髓質ノ鬆粗結締織中ニ滴狀又ハ塊狀ヲ呈シテ脂肪ノ浸潤セルヲ認ム, 血管壁ニ於ケル脂肪沈着ハ其萎縮性變化ヲ呈セル第111例ニ於テ其中膜ニ於テ塊狀ヲ呈シテ存スルヲ見タリ.

ニ. 脂肪體ノ種類及量的關係

中性脂肪 少量ヲ絲毬體及曲細尿管ニ於テ認メタリ.

狹義ノ「リポイド物質」少量ヲ Henle 氏蹄係及集合管ニ於テ認ム.

重屈折性物質 凡テノ例ニ於テ之ヲ認メズ.

ホ. 類脂肪性色素顆粒

第111, 第113ノ2例ニ於テ Henle 氏蹄係部ニ於テ認メシム.

第八項 白 血 病

第1表第115例乃至第117例ノ3例ニ就テ檢索セリ.

1. 性及年齢

男性2例, 女性1例, 年齢ハ17歳ヨリ25歳ニ至ル青年期ノモノナリ.

2. 組織所見

組織的ニハ細尿管上皮細胞ノ退行性變化ヲ呈スルモノ2例ヲ認メタリ.

3. 脂肪體所見

イ. 絲毬體ニ於ケル脂肪沈着

各例トモ絲毬體ニ於テハ脂肪沈着ヲ認メズ.

ニ. 細尿管ニ於ケル脂肪沈着

主管上皮細胞ニ於テハ其上皮細胞ノ退行性變化ニ陥レル1例ニ於テ少量ニ認ム.

Henle 氏蹄係, 潤管部, 集合管ニ於テ中等量又ハ少量ノ脂肪沈着ヲ認ム.

ハ. 間質結締織並ニ血管ニ於ケル脂肪沈着

間質ニ於テハ髓質鬆粗結締織内ニ血管壁ニハ全例3例トモ脂肪沈着ヲ認メズ.

ニ. 脂肪體ノ種類及量的關係

沈着セル各部位トモ主トシテ狹義ノ「リポイド物質」ヲ認メ, 中性脂肪ノ少量ヲ混在セリ.

重屈折性物質ハ各例ニ於テ認メザリキ。

ホ. 類脂肪性色素顆粒

第116例ノ1例ニ於テ Henle 氏蹄係下行脚ニ於テ認メタリ。

第九項 再生不能性貧血

第1表ノ第118乃至第121例ノ4例ナリ。

1. 性及年齢

男性2例, 女性2例, 年齢ハ7歳乃至36歳ナリ。

2. 組織所見

慢性絲毬體腎炎ノ像ヲ呈スルモノ(第118例)及慢性間質炎ノ像ヲ呈スルモノ(第120例), 絲毬體血管蹄係ノ充血並ニ間質組織ノ水腫狀觀ヲ呈スルモノ及1例ニ於テハ輕度ノ細尿管上皮ノ變性ノミヲ認ムル等, 其組織所見ニ於テ貧血ニヨル定型的ノ變化ヲ認メズ。

3. 脂肪體所見

イ. 絲毬體ニ於ケル脂肪沈着

絲毬體ニ於ケル脂肪沈着ハ4例中3例ニ於テ認メ, 2例ニ於テ其血管蹄係内被細胞核ノ周邊ニ少量ノモノ微細顆粒狀ヲ呈シテ沈着シ, 1例ニ於テ Bowman 氏囊壁上皮細胞ノ變性腫大セルモノニ於テ基底部ニ脂肪顆粒ノ沈着ヲ認ム。一汎ニ於ケル脂肪量ハ極メテ少量ナリ。

ロ. 細尿管ニ於ケル脂肪沈着

主管上皮細胞ニ於テハ, 第120例ノ慢性間質炎ノ像ヲ呈スルモノニ於テ其細胞基底部ニ粗大ナル滴狀ヲ呈シテ少量ニ存在スル他ハ, 一汎ニ極メテ僅少量ナルカ或ハ殆ンド認メラズ。

Henle 氏蹄係ニ於テハ4例ニ, 潤管部, 集合管ニ於テモ同様其全例ニ於テ脂肪沈着ヲ認メタリ。

ハ. 間質結締織並ニ血管ニ於ケル脂肪沈着

間質結締織ニ於ケル脂肪沈着ハ2例ニ於テ極メテ少量ニ, 血管壁ニ於テハ第119例ノ1例ニ於テ其内膜ニ於テ重屈折性物質ノ少量ヲ認メタリ。

ニ. 脂肪體ノ種類及量的關係

中性脂肪 絲毬體ニ少量ニ, 主管部ニ於テ「リポイド物質及重屈折性物質」ト混在シ, Henle 氏蹄係ニ於テ「リポイド物質, 潤管部ニ於テ重屈折性物質, 集合管ニ於テ「リポイド物質」ト混在シ, 間質ニ於テハ中性脂肪ノミヲ僅少量ニ認ム。

狹義ノ「リポイド物質」主トシテ Henle 氏蹄係及集合管ニ於テ認メタリ。

重屈折性物質 第120例ノ主管部ニ於テ中等量ニ認ムル他ハ, 1例ニ於テ潤管部及間質, 血管壁ニ痕跡ヲ認ムルニ過ギズ。

ホ. 類脂肪性色素顆粒

第118, 第119, 第121ノ3例ニ Henle 氏蹄係及集合管ニ於テ認メタリ。

第十項 出血性紫斑病

1. 性及年齢

年齢17歳ノ男性ノ1例ナリ。

2. 組織所見

組織的ニ定型的結核結節ヲ認ムルモノナリ。

3. 脂肪體所見

絲毬體ニ於テハ脂肪沈着ヲ認メズ。

主管上皮細胞ニテハ僅少量ニ狹義ノ「リポイド物質」ノ沈着ヲ認メ、Henle 氏蹄係、潤管部、集合管ニ於テハ中性脂肪ヲ認メ、間質ニ於テハ髓質鬆粗結締織ニ中性脂肪ノ浸潤ヲ認メ、血管壁ニハ脂肪浸潤ヲ認メズ。

類脂肪性色素顆粒

類脂肪性色素顆粒ノ沈着ヲ認メシメズ。

叙上各項ニ於ケル Banti 氏病、再生不能性貧血、白血病、出血性紫斑病ノ如キ悪性血液病ノ際ニ於ケル腎臟ノ脂肪沈着ニ關シテハ、Paszkiewicz⁽¹²³⁾ハ彼ノ検査例12例ニ於テ一汎ニ少量ノ脂肪沈着ヲ認メ、之ヲ腎上皮細胞ノ變性ヨリスル脂肪浸潤ナリトセリ。Prym^(前出)亦全身貧血ノ3例ニ於テ一般ニ潤管上皮細胞ニ脂肪沈着ノ痕跡ヲ認メタリ。Fischer^(前出)ハ慢性貧血症ノ際ニ不平等ナル著明ノ脂肪沈着ヲ腎上皮ニ認メタリト云フ。瀨川^(前出)ハ悪液質ヨリ來ル慢性貧血ノ際ニハ高度ニ、出血等ニヨル急性貧血ノ際ニハ少量ノ脂肪沈着ヲ認ムルニ過ギズトセリ。

余ガ検査例ニ於テ此等悪性血液病ニ於テ、其病理解剖上先天性微毒ノ疑アリシ1例ヲ除キ、一般ニ其細尿管上皮ノ脂肪沈着ハ高度ナラズシテ、中性脂肪ガ主トシテ現ルルヲ認メタリ。

第十一項 黃疸並ニ膽石症

第123、第124ノ2例ニシテ膽石症ノ存在ニヨリ膽囊及膽道ニ炎症ヲ惹起シ全身ニ著明ノ黃疸ヲ認メタル例ナリ。

1. 性及年齢

2例トモ男性ニシテ、49歳及57歳ノ者ナリ。

2. 組織所見

1例ハ組織ノ死後分解ノ度強クシテ組織的變化ヲ決定シ難ク、他ノ1例ハ輕度ノ腎萎縮性病變ヲ呈セリ。

3. 脂肪體所見

絲毬體ニハ2例トモ少量ノ脂肪沈着ヲ認メ、1例ハ中性脂肪、1例ニハ狹義ノ「リポイド物質」ヲ混在セリ。

絲毬體輸入血管及血管蹄係ノ内破細胞ニ微細顆粒狀ヲ呈シテ沈着シ、其全ク荒蕪シテ結締織様ヲ呈セルモノニ於テハ塊狀ヲ呈シテ脂肪沈着ヲ認メタリ。又2例トモ主管部、Henle 氏蹄係上行脚ノ上皮細胞ニ於テ中等量ニ中性脂肪及狹義ノ「リポイド物質」ヲ混在スルヲ認ム。

重屈折性物質ハ比較的少量ニシテ、主管部及 Henle 氏蹄係上皮細胞基部ニ微細ナル針狀結晶形ヲ呈シテ沈着スルヲ認メ、1例ニ於テハ重屈折性物質ヲ認メズ。

類脂肪性色素顆粒

2例トモ Henle 氏蹄係下行脚ニ於テ認メタリ。

第十二項 肝臟硬變症

本症例ハ生前臨床上肝臟硬變症ノ診斷ノ下ニ治療セラレシモノニテ、死後病理解剖上ニモ主ナル病變ヲ肝臟ニ於テ認メタルモノナリ。

1. 性及年齢

男性2例、女性2例、年齢ハ49歳乃至82歳ノモノナリ。

2. 組織所見

組織的ニ絲毬體血管蹄係ノ退行性變化、間質結締織ノ増殖、小圓形細胞ノ浸潤、細尿管上皮細胞ノ變性、細血管内膜ノ肥厚及變性等ノ萎縮性病變ヲ認メタリ。

肝硬變症ニ於テ其肝臟ト腎臟及脾臟トノ相互關係ヲ觀察スルニ肝臟硬變症ヲ惹起スベキ原因の要約ハ同時ニ等シク脾臟及腎臟ニ作用シテ種々ノ病變ヲ發生セシムベキハ多數學者ニヨリ承認セララル所ニシテ、其人體例ニ就テハ近時鈴木^{(167) 168) (169)}ハ其統計的觀察及其組織の所見ヨリ肝硬變ノ際ニ於ケル腎臟ノ變化ヲ記載シテ、其主ナル變化トシテハ腎臟細血管ノ硬變性變化ヲ認メ、細尿管上皮細胞ニ多量ノ脂肪沈着ヲ證セリ。而シテ同氏ハ是等變化ノ成因ニ關シテ述ベテ曰ク、肝硬變症ノ際ニ認ムル腎臟細動脈ノ硬變性變化ハ主トシテ消化管内異常産生物ノ吸收ニ歸スベキモノニシテ、是等産生物ハ消化管ヨリ吸收セラレテ胸管並ニ肝臟ヲ通ジテ大循環系統ニ來リ、次テ腎ニ達シ是等ノ變化ヲ惹起スルモノトナシ、肝臟ノ機能不全ハ腎臟變化ノ誘因ナルベシトセリ。

是等ノ關係ヲ實驗的ニ證セルハ Saltykow⁽¹⁴⁷⁾ニシテ、同氏ハ家兎ノ靜脈内ニ酒精ヲ注入シ、或ハ牛乳及麵麩ヲ以テ飼育セル家兎ニ酒精ヲ注入シ、次テ牛乳及麵麩ノミヲ以テ飼育セル家兎ニ肝硬變及腎炎ヲ惹起セシメ、此際屢動脈硬變ヲ認メタリト。同様ニ Ignatowski⁽⁶⁵⁾ハ家兎ニ牛肉、卵黃及牛乳ヲ與ヘ肝硬變ヲ惹起セシメ、腎臟ニ於テ細尿管上皮ノ空胞形成、核消失、細尿管腔内顆粒狀物質ノ充盈、絲毬體及細尿管上皮ノ脂肪質ノ出現スルヲ認メタリト。Steinbiss⁽¹⁶⁴⁾モ同様ニ肝臟粉末ヲ與ヘタル家兎ニ於テ、肝硬變及腎臟動脈管ノ硬變ヲ認メ、腐敗セル牛乳ヲ長期間與ヘタル家兎ニ於テ肝及腎ノ萎縮性硬變ヲ認メタリト。星島⁽⁶¹⁾、松原⁽¹¹³⁾共ニ其餌食試驗ニヨリテ實驗的ニ肝及腎ニ病變ヲ惹起シ得ルヲ認メタリ。

余ガ檢索セシ4例ニ於テモ上述ノ如ク萎縮性硬變及血管壁ノ硬變性變ヲ認メタレドモ、其年齡の關係ヲ考察スレバ、是等ノ組織的變ヲ以テ直ニ肝臟硬變症ニヨル二次的變化トノミハ首肯シ難シ。

3. 脂肪體所見

イ. 絲毬體ニ於ケル脂肪沈着

絲毬體ニ於ケル脂肪沈着ハ4例ニ於テ是ヲ認メ、其中2例ニ於テハ其血管蹄係内被細胞ノ變性ニ陷レルモノニ於テ浸潤様ニ脂肪質ノ沈着ヲ認メ、全ク荒蕪シテ硝子様觀ヲ呈スルモノニアリテハ顆粒狀ヲ呈シテ沈着シ又其肥厚シ、硝子様變ヲ呈スル Bowman 氏囊纖維膜ニ於テ沈着ヲ認ム、他ノ2例ニ於テハ血管蹄係面ニ存スル上皮細胞及囊壁内面ニ存スル上皮細胞内ニ脂肪沈着ヲ認ム。

ロ. 細尿管ニ於ケル脂肪沈着

主管部ニ於テハ殆ンド認メザルカ、認ムルモ痕跡量ニ存スルニ過ギズ。サレド第128例ニ於テ極メテ多量ニ認メタリ。

Henle 氏蹄係ニ於テハ一汎ニ中等量ニ認メ、唯上述ノ第128例ニ於テ多量ニ認メタリ。

潤管部及集合管ニ於テ各例トモ認メタリ。

ハ. 間質結締織並ニ血管ニ於ケル脂肪沈着

間質及血管壁トモ3例ニ於テ之ヲ認メタリ。

ニ. 脂肪體ノ種類及量的關係

中性脂肪 絲毬體及主管ニ於テハ1例ヲ除キ一汎ニ痕跡ヲ認ムルノミ、間質及血管壁ニモ少量ニ認ム、直細尿管ニハ一汎ニ中等量ニ存ス。

狹義ノ「リポイド物質」直細尿管及集合管ニ於テ中等量又ハ少量ニ認ム。

重屈折性物質 全例ヲ通シテ各部位ニ可ナリニ多量ニ認メタリ。

ホ. 類脂肪性色素顆粒

4例ニ於テ認メ、3例ニ於テ Henle 氏蹄係下行脚ノミニ證シ、1例ニ於テ上行脚部、集合管ニモ認メタリ。

肝硬變症ノ際ニ於ケル腎臟組織内ノ脂肪ニ關シテハ Prym (前出) ハ1例ニ於テ細尿管ニ脂肪沈着ヲ認メ、殊ニ Henle 氏蹄係及潤管部ニ於テ著明ニ認メタリ。Fischer (前出) ハ同シク1例ニ於テ細尿管ニ少量ヲ認メ。瀨川 (前出) ハ3例ニ於テ、其中1例ニ稍多量ニ細尿管上皮細胞ニ於ケル沈着ヲ認メ、他ノ2例ニ於テ中等量ニ認メタリ。

和田 (181) (182) ハ「ラノリン飼育ニヨリ家兔ノ腎及肝ニ硬變性變化ヲ認メ、其際主トシテ重屈折性脂肪ノ出現ヲ認メ、時ニ狹義ノ「リポイド物質及脂肪酸ヲ混セルコト屢ナリト稱セリ。Ssokoloff (162) ハ肝臟硬變症ノ患者ニ「ヒョレステリン」ヲ與ヘテ、其血液内「ヒョレステリン」ノ增量ヲ認メ、之肝臟ニ疾患ノ存スル場合、肝臟機能ノ障碍セラレシニヨリ外部ヨリ與ヘラレシ「ヒョレステリン」ノ排泄作用ノ低下ニヨルナラントセリ。

上述セル如ク、肝臟ト腎臟及脾臟トノ相互關係、殊ニ「ヒョレステリン」代謝ニ關スル關係ハ殊ニ興趣深キモノニシテ、尙今後化學的及病理學的ニ研究ヲ要スルモノナラン乎。

余ガ檢索例ニ於テモ、諸家ノ報告ノ如ク單屈折性脂肪ヲ證明セルガ、比較的輕屈折性脂肪ノ多量ヲ認ムルハ一部ハ肝臟ノ機能障碍ニヨル「ヒールヒョレステリネミー」ガ直接腎臟ニ及ボス關係ニヨルナラント考察シ得ラルベシ。

第十三項 糖尿病及尿崩症

糖尿病 2例、尿崩症 1例。

1. 性及年齡

男性 2例、女性 1例 年齡ハ 27歳ヨリ 67歳ノモノナリ。

2. 組織所見

Schütz (156) ハ「リパミー」ヲ現ス疾患ニ於テハ、Bowman 氏囊壁上皮細胞ハ其厚徑ヲ増加シテ曲細尿管ニ連續波及スト言フ、如斯變化ハ殊ニ糖尿病ノ際、就中比較的若年者ノ重症糖尿病ノ際ニ著明ナリト、而シテ之ガ成因ヲ代償性肥大ト做スベキナリトセリ。和久 (187) ハ糖尿病腎ノ 13例ヲ檢索シ、輕症糖尿病ニ於テ、其 Bowman 氏囊壁上皮細胞ニ同様ノ變化ヲ認メ、尙血管蹄係ニ於テ内被細胞核ノ增生及血管蹄係一部ノ擴張充盈ヲ認メタリ。長與 (123) ハ 3例ニ於テ慢性絲毬體腎炎ノ如キ絲毬體ニ於ケル病變ヲ認メタリト報告セリ。

余ガ 2例ニ於テモ絲毬體ノ血管蹄係ノ核ノ增生ヲ認メ、殊ニ第 129例ニ於テ著明ニシテ、和久 (前出) ガ其輕症ノ際ニ於ケル變化トシテ記載セルガ如キ血管蹄係壁ノ肥厚狹窄ニヨリテ部分的ノ著明ノ擴張充盈ヲ認メタリ。

又 Bowman 氏囊壁纖維膜ハ肥厚シ、第 129例ニ於テハ硝子樣變化ヲ呈ス、其 Bowman 氏囊壁上皮細胞モ多少其厚徑ヲ増加シテ肥大セルモノヲ僅ニ認ムレド著明ナラズ。

3. 脂肪體所見

イ. 絲毬體ニ於ケル脂肪沈着

絲穗體ニ於テハ長與(前出), 和久(前出)ハ其ノ蹄係面上皮細胞ニ中性脂肪ノ少量ヲ認メ, Fischer(前出), 瀬川(前出)ハ絲穗體ニ於テハ殆ンド認メザルカ, 認ムルモ痕跡ニ過ギズトシ. Prym(前出)ハ4例中唯1例ニ於テ少量ニ認メタリ.

余ガ檢索例ニ於テハ, 尿管症例(第131例)ニ於テ, 其血管蹄係面上皮細胞ニ微細ナル針狀ヲ呈セル重屈折性物質ヲ認ムルニ過ギズ.

ロ. 細尿管ニ於ケル脂肪沈着

細尿管上皮細胞ニテハ, Ribbert⁽¹³³⁾ハ糖尿病ノ際ニ於テハ, 比較的潤管部ニ變性ノ度著明ニシテ, 其部ニ脂肪變性ヲ多ク認ムト稱セリ. Fischer(前出)ハ其1例ニ於テ Henle 氏蹄係上行脚ニ脂肪沈着多シト. 瀬川(前出)モ亦細尿管上皮ニ「ヒヨ レステリンエステル」及狹義ノ「リポイド物質」ヲ認メ. Prym(前出)ハ主管及潤管ニ於テ「シャルラッハロート」ニ染色スル脂肪ヲ認メ, 集合管ニ於テ「シャルラッハロート」ニ染色セザル重屈折性物質ヲ認ム.

余ガ檢索例ニ於テハ, 主管部ニ於テハ各例トモ極メテ少量ノ狹義ノ「リポイド物質及中性脂肪」ヲ沈着セリ.

Henle 氏蹄係ニ於テハ1例ニ於テ「リポイド物質及中性脂肪」他ニ重屈折性物質ヲ, 潤管部ニ於テハ「リポイド物質及中性脂肪」, 集合管ニ於テハ中性脂肪及重屈折性物質ヲ各1例ニ於テ認ムルノミナリ.

ハ. 間質結締織並ニ血管ニ於ケル脂肪沈着

間質ニ於テハ, 「リポイド物質及重屈折性物質」ヲ各1例ニ於テ證明シ.

血管壁ニハ各例トモ脂肪沈着ヲ認メズ.

ニ. 類脂肪性色素顆粒

第129, 第130ノ2例ニ於テHenle 氏蹄係下行脚ニ於テ沈着ヲ認メタリ.

第十四項 放線狀菌病

2例ニ於テ檢索セリ.

1. 性及年齢

2例トモ男性, 年齢ハ16歳及48歳ナリ.

2. 組織所見

1例ニ於テ輕度ノ充血ヲ認ムル他ニ, 特異ナル組織的變化ヲ認メズ.

3. 脂肪體所見

2例トモ中性脂肪ヲ各部位ニ少量ニ認ムルニ過ギズ.

類脂肪性色素顆粒

類脂肪性色素顆粒ハ各例ニ於テ之ヲ認メズ.

第十五項 微 毒

先天性微毒4例(1例ハ初兒「メレナ」例參照), 肝臟微毒1例, 腦微毒2例ヲ算ス.

1. 性及年齢

男性4例, 女性7例, 年齢ハ生後2日ノ初生兒ヨリ50歳迄ノモノナリ.

2. 組織所見

組織的ニ細尿管上皮細胞ノ潤濁腫脹ヲ多少ノ度ニ於テ認メ, 3例ニ於テ慢性間質性腎炎ノ像ヲ呈スルヲ

認ム。

3. 脂肪體所見

イ. 絲毬體ニ於ケル脂肪沈着

絲毬體ニ於ケル脂肪沈着ハ先天性黴毒ノ2例(1例ハ初生兒「メレナ」ノ項参照)ニ於テ少量及中等量ニ認メ、肝臟黴毒ノ1例ニ於テハ痕跡ヲ認ムルニ過ギズ。

其中等量ヲ認ムルモノニ於テハ「リポイド物質」ヲ混在シ、其他ハ中性脂肪、重屈折性物質ヲ認メタリ。

ロ. 細尿管ニ於ケル脂肪沈着

主管部ニ於テハ2例ニ稍多量ニ認メラレ中性脂肪及「リポイド物質」存在ス。

Henle氏蹄係ニ於テハ、4例ニ於テ稍多量ニ認メ、同様ニ中性脂肪、「リポイド物質」及重屈折性物質ヲ認ム。

潤管部ニ於テハ3例ニ稍多量ニ認メラレ、主トシテ中性脂肪及重屈折性物質ナリ。

集合管部ニ於テハ、1例ニ中等量ニ認メラレ、主トシテ中性脂肪及重屈折性物質ナリ。

ハ. 間質結締織並ニ血管ニ於ケル脂肪沈着

間質ニ於ケル脂肪沈着ハ3例ニ於テ之ヲ認ム。血管壁ニ於ケル脂肪沈着ハ1例ニ於テ痕跡ニ認ムルニ過ギズ、主トシテ中性脂肪ニシテ間質ニ於テ「リポイド物質」ノ少量ヲ認ム。

ニ. 類脂肪性色素顆粒

4例ニ於テHenle氏蹄係下行脚ニ認メ中1例ニ於テハ其上行脚ニモ認メラル。

第十六項 脊 髓 癆

3例ニ於テ検索セリ。

1. 性及年齢

3例トモ男性、年齢ハ42歳乃至70歳ナリ。

2. 組織所見

組織的ニ2例ニ於テ細尿管ノ潤濁腫脹ヲ呈シ、各例トモ多少ノ度ニ於テ萎縮性變化ヲ呈ス、1例ニ於テ間質組織内ニ石灰ノ沈着ヲ認メタリ。

3. 脂肪體所見

イ. 絲毬體ニ於ケル脂肪沈着

絲毬體ハ中性脂肪及狹義ノ「リポイド物質」ヲ沈着シ、其量ハ一汎ニ少シ。

沈着部位ハBowman氏嚢上皮細胞、血管蹄係、輸入毛細管或ハBowman氏嚢纖維膜ニ沈着ヲ認ム。

ロ. 細尿管ニ於ケル脂肪沈着

主管上皮細胞ノ脂肪沈着ハ、動脈硬化症及増殖性膽管炎ヲ呈スル第141例ニ於テ、主トシテ中性脂肪、少量ノ「リポイド物質」及重屈折性物質ヲ混在ス。

Henle氏蹄係ニ於テハ3例トモ其上行脚ニ少量ノ「リポイド物質」ヲ認ム。

潤管部ニハ3例トモ中性脂肪及「リポイド物質」ヲ認ム。

集合管ニハ2例ニ於テ同様ニ中性脂肪及「リポイド物質」ヲ認メタリ。

ハ. 間質結締織並ニ血管ニ於ケル脂肪沈着

3例トモ間質並ニ血管壁ニ於テ中性脂肪及「リポイド物質」ノ少量ヲ認メタリ。

ニ. 類脂肪性色素顆粒

3例トモニ Henle 氏蹄係下行脚ニ於テ認メ、中1例ニ於テ上行脚部、1例ニ於テ集合管ニ認メタリ。

第十七項 腎 臟 炎

此項ニ蒐集セルハ總數12例ニシテ、生前主トシテ腎臟炎ノ病名ノ下ニ治療セラレシ剖檢例ナリ。

1. 性及年齢

男性9例、女性3例ニシテ、年齢ハ4歳乃至68歳ノモノナリ。

2. 組織並ニ脂肪體所見

イ. 「リポイドネフローゼ」

「ネフローゼ」ナル名稱ニ關シテハ、今日尙多少意見ノ相違アル所ニシテ、臨床上ニハ一般ニ高度ノ蛋白尿ヲ認メ、浮腫ハ比較的強ク出現シ、血壓ノ亢進ヲ缺キ、尿毒症狀ヲ惹起セズ、從テ殘餘窒素ノ增加ヲ認メザル際ニ「ネフローゼ」ト稱スルコトハ臨床醫家ノ等シク承認スル所ナリ。

余ガ茲ニ檢索セル第148例ハ、臨床上ニ是等症狀ヲ具備セル慢性「ネフローゼ」ニシテ、其組織の所見及肉眼的所見ハ所謂「リポイドネフローゼ」ニ一致スベキモノナリ。其主ナル肉眼的所見ヲ剖檢記録ニヨリテ摘記スレバ次ノ如シ。

左腎 重量 170瓦 大サ長徑 13、横徑 7、厚徑 3.5釐。脂肪囊脂肪織發育中等ニシテ、被膜ノ剝離容易。外面ハ一般ニ平滑ニシテ、弛緩セリ、星芒靜脈ノ像ハ分明ナレドモ小腎ノ像ハ分明ヲ缺ク、前面下部ニ亘リ黃調ヲ呈シ、其部ニ一致セル被膜内面ハ色赤調ヲ帶ブ。剖面 實質甚ダシク腫脹シ、黃調ヲ帶ビ、硬度著シク軟ナリ、皮質一汎ニ幅狹ク、髓質組織ハ赤色ヲ呈シテ汚染セリ。

右腎 重量 163瓦 大サ長徑、12.5、横徑 6.5、厚徑 2.5釐。脂肪囊脂肪織 發育中等、被膜剝離容易、硬度軟弛緩セリ。腎外面ハ一般ニ黃調強ク、所々赤調ヲ帶ブ、小腎ノ像星芒靜脈ノ像トモニ認メラル。剖面 兩質ノ境界分明、腎臟實質ハ一汎ニ腫脹シ、皮質ハ強ク黃調ヲ呈シ、髓質ハ赤調ヲ帶ビテ汚染セリ。

組織所見 絲球體 Bowman 氏囊結締組織纖維ハ一般ニ増殖シ、輕度ノ小圓形細胞ノ浸潤ヲ屢其周圍ニ認メ、又所々ニ血管蹄係ノ荒蕪シテ周圍ノ増殖セル纖維ヲ以テ圍繞セラレ、トモニ結締樣ニ變ジ、Bowman 氏囊腔ヲ認メザルニ至レルモノ存在シ、一般ニ腎表面ニ接セル皮質部ニ於テハ其間質結締組織ノ増殖ヲ認メ、斯ル部ニ於テハ其細尿管ハ既ニ萎縮ニ陥リ、其上皮細胞體ハ萎縮シ、上皮細胞核ハ萎縮ヲ呈セリ、又所ニヨリテハ其細尿管周圍ニモ小圓形細胞ノ浸潤ヲ認メタリ、而シテ皮質部ニ於テ毛細管ノ充盈擴張ヲ著明ニ認メ、間質及細尿管腔内ニ血液ノ溢出セルヲ認メタリ。

細尿管上皮殊ニ主管部上皮細胞ハ一般ニ腫脹シ、核消失シ、直細尿管殊ニ Henle 氏蹄係上皮細胞ハ潤濁腫脹シ、核染色性ヲ失ヘリ。

叙上ノ所見ヨリ按ズルニ、Aschoff⁽⁹⁾ ハ一般ニ眞性「ネフローゼ」(genuine Nephrose)ト稱セラルルモノハ傳染性絲球體腎炎(infektiose Glomerulitiden)ノ續發性變化ヲ指示スルニ他ナラズトシ、Löhlein^(118ニ據ル)亦病理解剖上ヨリ原發性「リポイドネフローゼ」ナルモノハ續發性ニ「ネフローゼ」樣變化ヲ呈スル原發性絲球體腎炎ナリトセリ。

Aschoff^(前出)ノ稱スルガ如ク、「ネフローゼ」ハ其腎實質ノ退行性變化ニアラズシテ、却テ刺激ニヨル反應性機能増進(reaktive Hyperfunktion)ニヨリテ惹起セラルル反應性炎症(reaktive Entzündung)ト認ムベキナリトセル學說ニ對シテハ、既ニ Ribbert^(31ニ據ル)、Lubarsch^(31ニ據ル)等ノ一派學者ノ賛成スル所ナリ。然レドモ Vorhald⁽¹⁸⁰⁾、Fahr⁽³¹⁾、Munk^(前出)等ハ之ニ反シテ眞性「ネフローゼ」ハ其成因ニ於テ腎上皮ノ退

行性變化機轉＝屬スベキモノトセリ、而シテ Fahr (前出) ハ是ニ關シテ詳述シテ曰ク、第1期ニ於テハ腎上皮細胞ハ單純ナル蛋白性變性ヲ呈スレドモ、細胞核ハ尙健全シ、此際細胞體ノ腫脹及絲絨體血管蹄係ノ充血、Bowman 氏囊腔及細尿管腔内ニハ凝固性分泌物ヲ認ムルニ過ギズシテ、何等炎症性變化ヲ絲絨體ニ於テ認メズト、第2期ニ至リテハ上皮細胞ノ蛋白變性ハ硝子様滴狀變性(hyaline tropfige Degeneration)ヲ呈シ、其絲絨體血管蹄係ニ於テ核増生等ヲ認ムトセリ。

余ガ實驗例ニ於ケル組織的所見ハ Fahr (前出) ガ稱スル第3期ニ於ケルモノト略一致スベキモノニシテ、既ニ上述セル如ク其細尿管上皮殊ニ主管上皮細胞ハ變性强ク、所々基礎膜ヨリ脱落セルヲ認メタリ、絲絨體ニ於ケル變化トシテハ一般ニ血管蹄係内被細胞ハ著明ノ退行性變化ニ陥リ、一部ニ於テハ結締織様ニ變ズル道程ヲ示セリ、而シテ他方間質結締織ノ増殖、小圓形細胞浸潤、細尿管ノ萎縮ハ「ネフローゼ」性萎縮腎ヲ惹起セルコトヲ示セリト雖モ、其細血管周圍ニ及絲絨體周圍ニ於ケル小圓形細胞浸潤ハ其炎症性機轉ノ存在ヲモ窺フニ足ル所見ニシテ、之ヲ單純ニ細尿管上皮細胞ノ退行性變化ヨリスル萎縮性病變トハ認メ難シ。

Löwenthal (108) ハ2例ノ「リポイドネフローゼ」ヲ實驗シテ、同様絲絨體ニ炎症性病變ノ存在ヲ認メ、臨床ニ眞性「リポイドネフローゼ」ト稱セラルルモノハ病理解剖上特殊ノ病變ヲ呈スルニアラズシテ、腎上皮及絲絨體ニハ眞ノ變性ヲ認ムレド尙炎症性病變ヲモ存シ、慢性「ネフローゼ」ニ於テハ「ネフローゼ」性萎縮腎ニ移行スルモノナリト稱セリ。Bell (15) ハ眞性「リポイドネフローゼ」及「ネフローゼ」様變化ヲ呈スル絲絨體腎炎ノ移行型ト認ムベキモノニ就キテ詳細ナル組織的檢索ヲナシ、所謂「リポイドネフローゼ」ハ絲絨體腎炎ノ一型ト看做セリ。Dicbold (28) ハ24歳ノ男性ノ1例ニ於テ組織的變化ヲ檢索シテ曰ク「リポイドネフローゼ」ハ全身代謝障礙ニヨリテ惹起セラルルモノニシテ、其腎臟ニ於ケル形態學的變化ハ夫ガ原因ヲナスニアラズシテ代謝障礙ノ結果ナリトセリ。

要之ニ「リポイドネフローゼ」ハ余ガ僅少ノ1例ノ所見ニヨリテ觀ルモ、病理解剖學的特殊ノ病變ヲ呈スルモノニアラズシテ、「ネフローゼ」様變化ヲ呈スル慢性絲絨體腎炎ト認ムベキモノナルベシ。

而シテ「リポイドネフローゼ」ノ際ニ如何ナル機轉ニヨリテ腎上皮細胞ニ類脂肪體ノ沈着ヲ惹起シ來ルカノ本態ニ關シテ考フルニ、臨床的觀察ヨリシテ Klemperer und Umber (92), Fischer (35) ハ「ヒールヒョレステリネミー」ハ「ヒールリベミー」ノ際隨伴シテ現ハルルコトヲ證シ、Versé (179) 亦實驗的ニ之ヲ證明シ、Port (135) ハ「ネフローゼ」患者ノ血清ニ於テ此事實ヲ追證セリ。然ラバ是等「ネフローゼ」ノ際ニ認ムル血液内脂肪含量ノ過多ガ其腎上皮ノ脂肪變性ニヨリテ來セルカ、將又血液内脂肪含量ノ増加ガ其腎上皮内脂肪沈着ヲ惹起スベキカヲ解決セント企ツルハ甚ダ至難ナルベシ。而シテ其血液内脂肪含量ノ増加ヲ腎上皮細胞ノ脂肪變性ニヨリテ惹起セラル、ナラント考察セルハ Beumer (18), Stepp (165), Dorner (29) 等一派ノ學者ナリ。然レドモ既ニ余ガ檢索ニヨルモ、著明ノ「リベミー」ヲ伴フベキ疾患ニシテ比較的腎上皮ニ於テ往々脂肪沈着ノ顯著ナラザルモノヲ認メタル點ノ如キヨリ推シテ、上述諸家ガ稱スルガ如ク、腎上皮ノ脂肪變性ヨリ血液内脂肪含量ノ増加ヲ來ストハ直ニ首肯シ難キモノアリ。

Fischer (前出) ハ臟器内ノ脂肪量ガ屢血液内脂肪含量ノ多量ナルニ拘ラズ少量ナルコトヲ認メ、之體脂肪ノ變性セル細胞ニ輸送セラルル道程ナリトシ、是等脂肪ノ貯藏ハ肝臟ニ於テ營マレ、肝臟損傷ノ際ニ「ヒョレステリン」ノ急速ナル血液内排泄ヲ認ムトセリ。次テ Gross (48) ハ「リポイドネフローゼ」ノ際ニ細尿管上皮ノ病變ニ一致セズ血液内脂肪含量ノ増加ヲ認メ、其「リポイドネフローゼ」ノ成因ヲ脂肪浸潤ト稱セリ。

Schmidt⁽¹⁵⁴⁾モ同様ナル見地ヲ以テ單純性「ネフローゼ」ガ血液内脂肪含量ノ増加ニヨリテ「リポイドネフローゼ」ニ變ズベキヲ稱セリ。Genck⁽⁴³⁾ハ實驗的ニ「ウラン腎炎ヲ惹起セル動物ヲ「ヒヨレステリン」ヲ以テ飼養セル際其尿成分及腎組織中ニ「ヒヨレステリン」ノ出現ヲ證明セリ、又 Munk⁽¹¹⁸⁾ハ戰時腎炎(Kriegs-nephritis)ニ於テ腎上皮ノ脂肪變性ノ輕度ナルニ拘ラズ淋巴液内ニ多量ノ脂肪體ノ含マルヲ認メタリ。

是等諸家ノ業績及余ガ結核症例及惡性腫瘍例等ノ數例ニ於テ其腎臟ノ組織的變化ノ著明ナラザルニ拘ラズ、高度ノ脂肪沈着ヲ認メタルハ、血液内脂肪含量ノ増加ト同時ニ、或種毒物(細菌毒素、代謝產物等)ガ腎上皮ニ作用シテ、其機能充進或ハ低下ヲ惹起シ既ニ細胞内ニ存シテ生理的状態ニ於テハ非被見的(unsichtbar)ノ脂肪ヲ被見的(sichtbar)トナス事モ與ルモノナルベシ。然レドモ是等微細ナル機轉ニ關シテハ今後ノ研究ニ俟ツベキモノ多シ。

ロ. 急性腎炎

第153例ハ病理解剖上急性絲絨體細尿管腎炎ト診斷セラレシモノニシテ、其絲絨體ニ於ケル組織的變化トシテハ其血管蹄係ノ腫大、Bowman氏囊上皮細胞及主管部上皮細胞ノ瀰漫腫脹ヲ認ム。而シテ其脂肪ハ主管部上皮細胞ノ基底部分ニ滴狀沈着ヲ認メ、其出現脂肪ハ中性脂肪及重屈折性物質ナリ。

ハ. 慢性腎炎、萎縮腎及澱粉樣腎

慢性實質性腎炎ハ6例(第143, 第144, 第147, 第150, 第151, 第154例)、慢性間質性腎炎ハ2例(第145, 第152例)、動脈硬變性萎縮腎1例(第149例)、澱粉樣萎縮腎1例(第146例)ニ就テ其組織變化ト脂肪沈着ノ關係ヲ總括スレバ次ノ如シ。

絲絨體

絲絨體ハ多少ニ拘ラズ一般ニ變性ニ陥レルモノ多ク、就中澱粉樣萎縮腎(第146例)ニ於テハ其Bowman氏囊纖維膜及血管蹄係壁ニ著明ノ硝子樣物質ノ沈着ヲ認メ、動脈硬變性萎縮腎(第149例)ニ於テハ血管蹄係内被細胞ハ退行性變化ニ陥リ、蹄係内血栓形成ヲ認ム。

一般ニ其脂肪沈着ハ其絲絨體ノ變性ノ度ニ比例シテ存在シ、第145例、第149例、第152例ニ於テ最モ著明ニ認メラルル所ニシテ、其腎臟ニ萎縮性變化ヲ認ムルモノニ於テハ、其血管蹄係壁ニ「リポイド物質及重屈折性物質」ノ沈着ヲ認ム、其重屈折性物質ノ沈着ノ著明ナルハ動脈硬化症ニ於ケル「ヒーベルヒヨレステリネミー」ニ由來スルコト勿論ナルベシ。

細尿管

主管部上皮細胞ニ於ケル脂肪沈着ハ第147, 第151, 第154ノ3例ノ慢性實質性腎炎及第149例ノ動脈硬化性萎縮腎ニ於テ可ナリ高度ニ認メタリ。一般ニ沈着部位ハ限局性ニシテ、其上皮細胞ノ基底部分ニ大小ノ滴狀ヲ呈シテ存ス。而シテ其出現脂肪體ハ慢性實質性腎炎ノ3例ニ於テハ、主トシテ中性脂肪ニシテ、第149例ニ於テハ「リポイド物質」ヲ認ム。

重屈折性物質ハ5例ニ於テ之ヲ認メ、第152例ニ於テハ著明ニ認メタリ。

Henle氏蹄係、潤管部、集合管ニ於ケル脂肪沈着ハ各例ニテ比較的瀰漫性ニ認メ、殊ニ5例ニハ著明ナリ、出現脂肪體ハ中性脂肪、「リポイド物質」及重屈折性脂肪ナリ。

間質並ニ血管壁

間質ニ於テハ各例トモ脂肪沈着ヲ認メ、一般ニ髓質乳頭部ニ近ク鬆粗結締織中ニ浸潤狀ニ沈着ヲ呈ス。然レドモ第149例ニ於テハ皮質ノ増殖セル間質結締織ニ於テ結締織細胞内ニ滴狀ニ沈着セルヲ認メタリ。血管壁ニ於テハ7例ニ於テ脂肪沈着ヲ認メ、一般ニ其硬變性變化ヲ呈スルモノニ於テ其内膜及其内彈力板

ニ環狀、又ハ片塊狀ニ沈着シ、其出現脂肪ハ中性脂肪、又ハ重屈折性脂肪ナルガ殊ニ萎縮腎様變化ヲ呈セル3例ニ於テ著明ニ認メタリ。

要之ニ「リポイドネフローゼ」ニ於テハ余ガ例ニ於テハ慢性絲毬體腎炎ト認ムベキモノニシテ其脂肪沈着ノ狀ヲ觀ルニ「リポイド物質及重屈折性脂肪ノ比較的瀾變性ニ分布セルヲ認メタリ。急性腎臟炎ニ於テハ中性脂肪及重屈折性物質ガ其面細尿管主管部上皮ニ滴狀ニ存スルヲ認メタリ。

慢性腎炎、殊ニ慢性實質性腎炎ニ於テハ其主管部上皮細胞ニ中性脂肪ヲ直細尿管ニ於テ「リポイド物質ヲ認メ、慢性間質性腎炎及萎縮腎ニ於テハ絲毬體ニ於テ「リポイド物質ノ沈着著明ニシテ、一般ニ重屈折性脂肪ノ出現高度ナリ。

3. 類脂肪性色素顆粒

類脂肪性色素顆粒ハ4歳乃至61歳ノ9例ニ Henle 氏蹄係及集合管ニ於テ認メタリ。

第二章 急性疾患ノ際ニ於ケル腎臟殊ニ其ノ含有脂肪體

第一節 材料並ニ検査方法

材料トシテ慢性疾患例ノ際ト同様我が教室貯藏研究用標本ヲ用ヒ、臨床上及病理解剖學上診斷ノ確定セラレシモノ總數40例ニシテ共疾患別ハ丹毒、敗血症、腸チフス、急性腦膜炎(急性腦脊髓膜炎及流行性腦炎等ヲ含ム)、破傷風等ノ急性熱性傳染病ノ他、子癇、火傷死ノ例、分娩後ニ來レル失血死及初生兒メレナ」ノ如キ急性失血死、急性腹膜炎、小兒消化不良症ノ如キ急性消耗性ノ疾患等ヲ選擇セリ。

検査ニハ前章ト同様ノ方法ヲ用ヒタリ。

第二節 急性疾患例ノ検査所見

急性疾患例ノ検査成績ノ要項ヲ表示スレバ第2表ニ示スガ如シ(附表第2表參照)。

第三節 急性疾患例ノ所見概括並ニ考察

第一項 丹毒症並ニ敗血症

丹毒3例ハ凡テ臨床上敗血症ヲ呈セルモノ、敗血症1例ハ上膊種痘部位ノ化膿ヨリ敗血症ヲ呈セルモノナリ。

1. 性及年齡

性ハ男性3例、女性1例。年齡ハ生後9ヶ月ノ哺乳兒、他ノ3例ハ39歳、56歳、70歳ナリ。

2. 組織所見

敗血症及丹毒ノ如キ球菌ニコル傳染性疾患ノ際ニ於ケル腎臟ノ病變ハ急性絲毬體腎炎ヲ惹起スト一般ニ稱セラルル所ナリ。吾人ハ連鎖狀球菌ヨリスル敗血症殊ニ屢遭遇スル産褥性敗血症ニ於テ細尿管上皮細胞ノ蛋白性變性、時ニ壞死性變化ヲ認メ、一汎ニ腎組織ノ實性充血ヲ認ムルモノナリ。然レドモ Munk (118) ハ其成書ニ於テ是等連鎖狀菌病ニ於テ、Vorhard und Fahr (131) ノ記載セルガ如キ限局性絲毬體腎炎 (herdförmige Glomerulonephritis) ノ定型の病變ヲ現セルモノヲ認メズト記セリ。

余ガ例ニ於テハ、第156例ニ於テ限局性絲毬體腎炎トシテ記サルルモノニ一致スル病變ヲ認メタリ。即チ絲毬體ハ現局性ニ其血管蹄係ノ核消失又ハ核崩解等ヲ示シ、全ク荒蕪シテ病變ノ著シキモノハ「エオジン」

ニ濃染セル膠様同質性ヲ呈シ、又其全ク荒蕪ニ陥ラザルモノハ血管蹄係ノ一部ハ核ニ乏シク硝子様同質性トナリ殘部ハ其血管蹄係ノ變性ヲ認ムト雖モ尙原形ヲ認メシムル部ノ存スルモノアリ、カカル病竈部ノ細尿管上皮細胞ハ其胞體ノ萎縮性變化ヲ呈シ、小圓形細胞ノ浸潤及白血球ノ滲出ヲ認ム。

是等病竈以外ノ部ニ於テハ絲綫體ハ一般ニ膨大シ、血管蹄係内被細胞核ノ退行性變化ヲ認メシムルト同時ニ、核分割ヲ示シテ其増生性變化ヲ認メシメタリ。又 Bowman氏囊壁上皮細胞モ腫大シ、所ニヨリテハ増殖シテ數層ヲ呈スルモノヲ認メタリ。此他ノ2例ニ於テモ絲綫體ノ炎症性變化ヲ認メタリ。

細尿管上皮細胞ハ凡テノ例ニ於テ其胞體ノ潤濁腫脹ヲ認メタリ。

3. 脂肪體所見

イ. 絲綫體ニ於ケル脂肪沈着

絲綫體ニ於テハ主トシテ中性脂肪ヲ、其他「リポイド物質及重屈折性物質ヲ各2例ニ於テ認ムレド其量ハ一汎ニ少シ、其分布状態ハ單屈折性脂肪ハ血管蹄係内被細胞核ノ周圍ニ微細顆粒狀ヲ呈シ、第156例ニ於テハ其滲出セル白血球中ニ脂肪ガ顆粒狀ニ含マルルモノヲ認ム。

重屈折性物質ハ其血管蹄係内被細胞ニ於テ微細滴狀ヲナシテ沈着セリ。

ロ. 細尿管ニ於ケル脂肪沈着

主管上皮細胞ノ脂肪沈着ヲ3例ニ於テ認メ、丹毒症ノ1例ニ於テハ殊ニ多量ニシテ、其上皮細胞基底部分ニ顆粒狀ヲ呈シテ沈着セリ。其出現脂肪ハ主トシテ中性脂肪ニシテ、「リポイド物質及脂肪酸ヲ混在ス。2例ニ於テ重屈折性物質ガ其細胞基底部分ニ於テ滴狀ニ認メラレタリ。

Henle氏蹄係殊ニ其上行脚、潤管部及集合管ノ中 Henle氏蹄係上皮細胞ニ於テハ4例トモニ單屈折性脂肪ヲ認メ、2例ニ於テ重屈折性物質ヲ認メタリ、潤管部ニ於テモ全例ニ於テ單屈折性物質ヲ認メ、集合管ニ於テハ3例ニ於テ單屈折性脂肪ヲ少量ニ、重屈折性脂肪ヲ1例ニ於テ認メタリ。出現脂肪ハ主トシテ中性脂肪ニシテ「リポイド物質及脂肪酸ノ少量ヲ混在ス。

要之ニ丹毒症ニ於テハ出現脂肪ノ大部分ハ中性脂肪ナルガ如シ。

ハ. 間質結締織並ニ血管ニ於ケル脂肪沈着

間質ニ於テハ第156例ニハ皮質及髓質ノ結締織細胞内ニ脂肪ノ小顆粒狀沈着ヲ認メ、第157例ニハ錐體乳頭部鬆紐結締織中ニ顆粒狀集塊ヲナシテ沈着セルヲ認ム。第155例ニハ重屈折性物質ヲ認ム。

血管壁ニ於テハ第155、第157例ノ比較の高年者ノ2例ニ於テ其硬變性變化ヲ呈セル内膜ニ於テ中性脂肪及「リポイド物質ノ沈着ヲ認メタリ。

ニ. 類脂肪性色素顆粒

丹毒症ノ第156、第157例ノ2例ニ於テ Henle氏蹄係部ニ於テ沈着ヲ認メタリ。

第二項 腸チフス

總數11例ナリ。

1. 性及年齡

男性6例、女性5例、年齡ハ16歳乃至67歳ナリ。

2. 組織所見

一般ニ「チフス」其他熱性傳染病ニ於テ臨床ト尿中ニ病的成分即チ蛋白、血球、圓柱、其他ノ組織成分ノ出現ハ屢認メラルル所ニシテ、又腎臟機能障礙（尿量減少、食鹽窒素ノ滯留）モ同様證明セララルル所ナリ。殊ニ「チフス」ノ重症ナル際ニ腎臟病變ノ合併ヲ認ムルコト多キガ如シ。Munk(前出)ハ「チフス」ノ

際ニ來ル腎臟ノ病變ヲ詳細ニ記載シテ大略次ノ3ノ組織的變化ヲ擧ゲタリ。

1. 出血 (殊ニ絲絨體血管蹄係ニ於ケル),
2. 上皮細胞ノ壞死,
3. 多發性膿瘍(腎組織内)

石原⁽⁶⁷⁾ハ「パラチフスB菌ニヨリテ惹起セラレル腎臟ノ形態學的變化ヲ實驗的ニ起サシメ、髓質ニ於ケル變化ハ一汎ニ少ナクシテ皮質表層ニ主ナル變化ヲ認メタリト言ヘリ。即チ絲絨體ニ於テハBowman氏囊腔内ニ蛋白含有物ノ出現ヲ認メ、血管蹄係ノ充盈、時ニ出血及血栓形成、蹄係内被細胞ノ壞死ヲ證明シ迂曲細尿管主要部ノ上皮細胞ハ胞體腫脹シ、原形質ハ顆粒狀又ハ滴狀變性ヲ示シ、強度ナル時ハ壞死性變化ニ陥レルヲ認メタリト。是等ノ動物實驗ニ於ケル成績ハMunk^(前出)ノ多數ノ人體例ニ於ケル所見ト合致スル所ナリ。

余ガ検査例中絲絨體血管蹄係ノ著明ナル擴張充盈ヲ3例ニ於テ認メタレド、其血管外血液溢出ヲ認メズ然レドモカカル例ニ於テハ一般ニ其Bowman氏囊腔ハ擴大シテ内ニ分泌物ノ滯溜及白血球ノ滲出ヲ認メ、又Bowman氏囊内板上皮細胞ノ増殖機轉ヲ認ムル等炎症性變化ノ存在ヲ否ム能ハズ、而シテ是等絲絨體ノ病變ヲ以テ急性絲絨體腎炎ト認ムベキカ、將又Munk^(前出)ノ所謂傳染腎炎(Infektnephritis)即チ細菌自己及毒素並ニ全身代謝異常ヨリスル病的代謝産物ノ刺激ニヨル機轉ト認ムベキカハ今尙説ノ存スル所ナルベシ。

細尿管上皮細胞ニ認ムル組織變化トシテハ凡テニ於テ顆粒狀變性及滴狀變性ヲ認メ、2例ニ於テ著明ナル脂肪變性ヲ認メタリ。是等ノ變化ヨリスルニ今日一般ニ稱セラレル中毒性腎炎並ニ壞死性「ネフローゼ」ニ屬スルモノナラン。

上述ノ病變ノ他「チフス」ノ際ニ其腎臟組織内ニ多發性ノ膿瘍竈ノ形成セラレルコトハ上述Munk^(前出)ノ既ニ述ベタルガ如シ、余ガ検査例中第159例ニ於テ著明ナル例ヲ認メタリ。Huebschmann⁽⁶²⁾ハ6例ノ胃腸型「パラチフス」ニ於テ、其膿瘍ノ初期ト認ムベキ病竈ヲ認メ、血管内ニ細菌栓塞アルヲ證シ、栓塞竈ニ一致スト稱セリ。

3. 脂肪體所見

イ. 絲絨體ニ於ケル脂肪沈着

絲絨體ニ於ケル脂肪沈着トシテハ3例ニ於テ單屈折性脂肪殊ニ中性脂肪ヲ認メ、重屈折性脂肪ヲ1例ニ於テ認ムルニ過ギズシテ其量ハ一汎ニ少シ。

ロ. 細尿管ニ於ケル脂肪沈着

主管上皮ニ於ケル脂肪沈着ヲ3例ニ於テ認メ、最モ著明ニ認ムルハ第161例ニシテ、其上皮細胞ハ核全ク染色性ヲ失ヒ、脂肪ハ粗大ナル滴狀ヲ呈シテ沈着セリ。

Henle氏蹄係ニ於テハ殊ニ其上行脚上皮細胞ニ著シク、全例中9例ニ於テ脂肪沈着ヲ認メ、其上皮細胞ノ變性セルモノニ於テ著明ナリ。

潤管部ニ於テハ8例ニ脂肪沈着ヲ認メ、一汎ニ其量ハ少量又ハ中等量ニシテ生理的脂肪沈着ノ状態ヲ呈ス。

集合管ニ於テモ8例ニ之ヲ認メ、其脂肪沈着ノ程度ハ他ノ細尿管部位ト同様ノ關係ニ存ス。

ハ. 間質結締織ニ於ケル脂肪沈着

間質ニ於ケル脂肪沈着ハ4例ニ於テ之ヲ認ムレドモ、其脂肪量ハ極微痕跡ニ過ギズ。

ニ. 血管ニ於ケル脂肪沈着

血管壁ニ於テハ2例ノ細血管内膜及中膜ニ顆粒狀ノモノ集リ塊狀ニ沈着セルヲ認メタリ。

ホ. 出現脂肪ノ種類

腸チフス」ノ際ニ於ケル腎臟組織内出現脂肪ニ關シテハ文献ノ徵スベキモノ無シ、我教室ニ於テ布瀨⁽³⁸⁾ハ本症9例ニ就テ其肝臟組織内脂肪検査ノ結果其可ナリニ強度ニ現ルモノヲ中性脂肪ニ於テ2例、重屈折性物質ニ於テ5例ニ認メタリ。石原⁽⁴¹⁾ハ上述ノ動物實驗ノ結果ニ於テ何等脂肪浸潤ヲ認メズト稱シ、Gross⁽⁴²⁾、Bacmeister und Hens⁽⁴²⁾ハ臨床上ヨリ一般熱性傳染病患者ノ血液ニ於ケル「ヒョレステリン」ノ含有量ハ其有熱期ニ於テハ低下ヲ示シ、下熱後ニ於テ急激ニ増進スルモノナルコトヲ證明セリ。奥⁽⁴²⁾ハ家兔腹腔内ニ「チフス菌液ヲ注入シ3日内外ノ期間ヲ經テ即チ人體ニ於ケル下熱期ニ該當スル期間ニ於テ顯著ナル血中「リポイド」ノ上昇ヲ認メタリト稱セリ。

余カ検索ニヨレバ腸チフス」ノ際ニ腎臟ニ現ル脂肪ハ主トシテ中性脂肪ニシテ、僅少ノ量ニ於テ「リポイド物質ヲ混ニスルモノニシテ、生前「リベミー」ガ存在スル割合ニ重屈折性物質ノ出現ハ著シカラザルモノナリ。

ヘ. 類脂肪性色素顆粒

全例11例中10例(91%)ニ於テ認メ其出現部位ハ主トシテ Henle氏蹄係下行脚ニシテ、少數例ニ於テハ上行脚集合管潤管部ナリ。

第三項 中樞神經系統ノ急性疾患

本症例下ニハ生後6ヶ月ノ哺乳兒及2歳ノ小兒ニ於ケル急性化膿性腦脊髓膜炎及化膿性腦膜炎ノ各1例、其他流行性腦脊髓膜炎、急性腦膜炎並ニ流行性腦炎ノ3例ヲ集メタリ。

1. 性及年齢

男性3例、女性2例、年齢ハ生後6ヶ月乃至49歳ノモノナリ。

2. 組織所見

各例ニ於テ細尿管上皮細胞ノ顆粒狀變性ヲ認メ、3例ニ於テ細血管ノ實性充血ヲ認メタリ。

3. 脂肪體所見**イ. 絲綫體ニ於ケル脂肪沈着**

單屈折性脂肪ハ各例ニ於テ殆ド之ヲ認メズ、重屈折性物質ハ各例ニ於テ其ノ少量又ハ痕跡ヲ認メ、血管蹄係間及 Bowman氏囊腔内ニ針狀結晶ノ形ヲナシテ沈着セリ。

ロ. 細尿管ニ於ケル脂肪沈着

主管上皮細胞ニ於ケル脂肪沈着ハ第173例ニ於テ主トシテ中性脂肪ヲ認メ。少許ノ「リポイド物質ヲ混ニ在セリ。重屈折性物質ハ各例トモニ之ヲ認メ一般ニ迂曲細尿管主要部管腔内ニ於テ其上皮細胞ノ遊離面ニ接着シテ存在ス。

Henle氏蹄係上行脚ニ於テハ主トシテ中性脂肪並ニ「リポイド物質ノ少許ヲ其生理的脂肪着ノ状態ニ於テ認メタリ。重屈折性物質ハ4例ニ於テ管腔内及細胞基底部分ニ其ノ少量ヲ認ム。

潤管部ニ於テハ2例ニ於テ單屈折性脂肪主トシテ「リポイド物質ノ少量ヲ生理的脂肪沈着ノ状態ニ於テ認ム。

集合管ニ於テハ3例ニ「リポイド物質ノ痕跡ヲ、1例ニ於テ重屈折性物質ヲ認メタリ。

ハ. 間質結締織並ニ血管ニ於ケル脂肪沈着

間質ニ於ケル脂肪沈着ハ各例共之ヲ認メズ、血管壁ノ脂肪沈着ハ1例ニ其ノ少量ヲ認メシノミナリ。

要之ニ本症例ニ於ケル出現脂肪中其單屈折性脂肪ハ所謂生理的脂肪沈着ノ状態ヲ示セドモ比較的の重屈折

性物質ノ多量ニ出現スルハ斯ル病症ニ於テハ生前「ヒールビヨレステリネミー」ガ存在セシコトヲ知ルニ足ラン。

二. 類脂肪性色素顆粒

本症例ニ於テハ類脂肪性色素顆粒ノ沈着ヲ認メザリキ。

第四項 破 傷 風

1. 性及年齢

生後1週ノ女性及男性ノ43歳ノ各1例ナリ。

2. 組織所見

2例トモニ血管ノ充血及出血ヲ認ム。

3. 脂肪體所見

イ. 絲毬體ニ於ケル脂肪沈着

1例ニ於テ其血管蹄係ニ於テ重屈折性物質ヲ少量ニ認ムルノミナリ。

ロ. 細尿管ニ於ケル脂肪沈着

主管部ニ於テハ單屈折性脂肪ヲ1例ニ於テ少量ニ、重屈折性物質ヲ2例ニ於テ少量ニ認メタリ。

Henle氏蹄係部、潤管部、集合管ニ於テハ其47歳ノ例ニ於テ生理的脂肪沈着ヲ認ムルノミナリ。

ハ. 間質結締織及血管ニ於ケル脂肪沈着

1例ニ於テ間質ニ脂肪ノ痕跡ノ出現ヲ認ム。

本症例ニ於ケル出現脂肪ニ於テハ何等特異ナル點ヲ認メズ。布瀨^(前出)ハ曩ニ余ガ第175例ノ肝臟ニ於ケル出現脂肪ヲ檢索シ、同様可ナリ高度ノ重屈折性脂肪ヲ證明セリ。奥^(前出)ハ家兎ニツイテ實驗的ニ破傷風毒素ヲ注入シ、其痙攣ヲ惹起セシメタルニ痙攣ヲ惹起セル時期ニ於テ血中「リポイド」ノ增量ヲ認メ、症狀恢復ト共ニ正常ニ復歸セルコトヲ記セリ。余ガ例ニ於テモ比較的の重屈折性物質ノ出現高度ナルコトヲ證明セリ。

二. 類脂肪性色素顆粒

本症例ニ於テハ認メズ。

第五項 子 癇

總數4例ヲ算ス、年齢ハ21歳乃至39歳ナリ。

1. 組織所見

Leyden⁽¹⁰⁴⁾ハ妊娠腎ニ於ケル特殊ノ變化ヲ上皮細胞ノ脂肪變性トナシ、殊ニ皮質ノ細尿管並ニ絲毬體上皮細胞ニ脂肪變性ヲ認メ、之ガ原因ヲ貧血ニ覓メタリ。Prym^(前出)ハ9例ノ子癇腎ニ於テ細尿管上皮細胞ノ脂肪變性ヲ認メタリ。Lubarsch⁽¹¹¹⁾ハ其子癇腎ニ於ケル變化ヲ3型ニ分類シ、第1型ニ於テハ曲細尿管上皮細胞ノ脂肪變性及凝固性壞死、絲毬體上皮細胞ニモ脂肪變性ヲ認メ、而シテ絲毬體血管蹄係ニハ脂肪栓塞ヲ認メ、腎細血管ニ於テ硝子樣或ハ血小板ヨリナル血栓ヲ認メタルガ何等炎症性變化ヲ證明セズト、而シテ第2型ニ於テハ肉眼的ニ腎臟表面ニ於テ所々ニ出血斑ヲ認メ、其細尿管上皮細胞ハ凝固性壞死ニ陥レドモ炎症性變化ヲ缺キ、腎細血管内ノ栓塞形成ハ第1型ヨリモ廣汎ニ亘レリトセリ。第3型ニアリテハ其腎組織ニ梗塞形成ヲ認メタリ。Vorhard⁽¹⁸¹⁾ハLubarsch^(前出)ノ如ク子癇發生ヲ血管變化ニヨル腦水腫及腦壓亢進ニヨル腦貧血ト解釋セリ。Traube⁽³⁰⁾ニ據ルニ亦子癇發作ヲ尿毒症ト腦水腫トノ共働作用ニヨリテ

惹起スルモノナリト稱セリ。Rosenstein⁽¹⁴²⁾亦同様ノ意見ヲ發表セリ。然レドモOlshausen⁽¹²⁹⁾ハ多數ノ例ニ於テ檢索シ、子癇ノ際ハ腦水腫ハ一般ニ輕度ニシテ腦貧血ヨリモ却テ腦充血ニヨリテ來ル場合多シトセリ。Zangemeister⁽¹⁹³⁾ハ子癇發生ニ關シテ腦水腫腦壓亢進ガ其主ナル原因ナリトノ說ヲ發表セリ。

如上子癇發生ニ關シテハ多數ノ學者ハ腎臟ニ於ケル血管系統ノ變化及妊娠末期ニ現ハルル種々ノ要約ニヨル血壓亢進ハ腦水腫及腦壓増進ヲ惹起シテ子癇ヲ發スト說クモノ多キガ如シ。Fahr⁽³⁰⁾ハ28例ノ子癇腎ニ於テ汎發性ノ絲絨體腎炎ヲ認メ、是ヲ以テ直ニ子癇ノ原因ト認メ難キモ、子癇ノ際屢現ルル變化ナリト結論セリ。佐伯⁽¹⁴⁵⁾ハ24例ノ妊娠腎、8例ノ子癇腎ヲ檢索シ主ナル病變ハ絲絨體血管蹄係並ニ腎血管ニ於ケル退行性病變ナリト論セリ。脂肪變性ハ絲絨體上皮細胞及細尿管上皮細胞ニ於テ屢認ムレドモ必發ノモノニアラズトセリ。

余ガ檢索セル4例ニ於テハ其2例ニ絲絨體ノ退行性變化及炎性變化ヲ認メ3例ニ於テ細血管ノ充盈擴張1例ニ於テ出血竈ヲ認メ細尿管上皮ニハ各例トモニ變性ヲ認メ、1例ニ於テ壞死性變化ニ陥レルモノヲ認メタリ。

2. 脂肪體所見

妊娠腎及子癇腎ニ於ケル脂肪沈着ハ如上諸家ノ所見ニヨレバ主トシテ絲絨體上皮細胞及曲細尿管上皮細胞ニ於テ一般ニ認メラルルガ如シ、余ガ檢索セル4例中第178例ノ絲絨體上皮細胞ニ於テハ之ヲ認ム。

主管部上皮細胞ニ於テ3例(第177, 第178, 第179例)ニ之ヲ認メタリ。

Henle氏蹄係上皮細胞ニ於テハ各例ニ認メ、潤管部ニ於テハ1例、集合管ニ於テハ2例ニ沈着ヲ認メタリ。

間質並ニ血管壁ニ於ケル脂肪沈着ハ第178例ニ認メタリ。

其出現セルハ絲絨體ニ於テハ「リポイド物質及重屈折性物質各2例ニ、主管部上皮ニ於テハ中性脂肪及可ナリニ多量ノ重屈折性脂肪各3例ニ於テナリ、Henle氏蹄係、潤管部、集合管ニ於テハ中性脂肪、「リポイド物質、重屈折性物質ヲ認メ、間質及血管壁ニハ「リポイド物質及重屈折性物質ヲ認ム。

類脂肪性色素顆粒

Henle氏蹄係下行脚ニ於テ3例ノモノニ認メタリ。

以上檢査成績ヲ總括スルニ、子癇腎ニ於テハ一般ニ絲絨體ニ退行性變ヲ認メ、細血管及毛細管ノ充血著明ニシテ其脂肪所見ハ鬱血腎ノ際ノ如ク不規則ナル脂肪沈着ヲ認メ、其重屈折性脂肪ノ比較的顯著ニ出現スルハ生前「ヒールヒョレステリネミー」ノ存在ニ因ルモノナルベシ。

第六項 急性貧血

本症2例ハ共ニ人工分娩直後多量ノ子宮出血ノ爲メ失血死ヲ來セルモノニシテ、急性貧血症ノ適例トシテ選擇セルモノナリ。

1. 組織所見

1例ニ於テ輕度ノ細尿管上皮ノ潤濁腫脹ヲ認ムル他ニ特異ナル組織的所見無シ。

2. 脂肪體所見

イ. 絲絨體ニ於ケル脂肪沈着

2例トモ其 Bowman氏囊壁上皮細胞核ノ周圍ニ微細ナル顆粒狀ヲ呈シテ中性脂肪ノ沈着ヲ認メ、重屈折

性物質ハ1例ニ於テ痕跡ニ之ヲ血管蹄係面ニ認ムルニ過ギズ。

□. 細尿管ニ於ケル脂肪沈着

主管部ニ於テハ1例ニ其ノ少量ヲ認ム。

Henle氏蹄係部, 潤管部, 集合管ニ於テハ2例トモ脂肪沈着ヲ認ム, 而シテ重屈折性物質ハ1例ニ於テHenle氏蹄係上皮細胞ノ基底部分ニ認メタリ。

ハ. 間質結締織並ニ血管ニ於ケル脂肪沈着

間質並ニ血管壁ニ於ケル脂肪沈着ヲ1例ニ於テ少量ニ認メタリ。

要之急性貧血ノ際ニ於テハ一汎ニ中性脂肪ヲ認ムレドモ, 定レル脂肪代謝状態ヲ示サザルガ如シ。而シテ重屈折性物質ヲ1例ニ於テ認メタリ。一汎ニ妊娠時ニ於テ著明ナル「ヒールヒョレステリネミー」ノ存在ハ既ニ諸家ノ等シク承認スル所ニシテ毛細管及淋巴管内被細胞, 殊ニ絲毬體血管蹄係ノ脂肪沈着ハLeyden(前出)ニヨリ妊娠腎及子癩腎ニ於テ特ニ意義ノ存スルモノトセラル。然レドモ余ガ例ニ於テハ只1例ニ於テ是ヲ認ムルニ過ギザリキ。約言スレバ急性貧血ノ際ニ於ケル腎臟組織内脂肪所見ニハ特異ナル點ヲ認メザルモノノ如シ。

ニ. 類脂肪性色素顆粒

2例トモニ之ヲ認メ其部位ハHenle氏蹄係部ナリ。

第七項 急性汎發性腹膜炎

1. 性及年齢

男性1例, 女性2例。年齢ハ29歳乃至53歳ナリ。

2. 組織所見

3例トモ腎組織ノ實性充血ヲ認メ, 2例ニ於テ細尿管上皮細胞ノ變性ヲ認ム。

3. 脂肪體所見

イ. 絲毬體ニ於ケル脂肪沈着

1例ニ於テ中性脂肪ノ痕跡, 重屈折性物質ノ少量ヲ認ムルノミナリ。

□. 細尿管ニ於ケル脂肪沈着

主管上皮細胞ノ脂肪沈着ハ1例ニ於テ中性脂肪ヲ少量ニ認メ, 重屈折脂肪ヲ2例ニ於テ中等量ニ認ム, 其分布部位ハ其管腔内及細胞基底部分及基礎膜ニ針狀結晶形ヲ呈シテ沈着セリ。

Henle氏蹄係部, 潤管部及集合管ニハ2例ニ於テ中性脂肪ノ沈着ヲ中等量ニ認メタリ, 而シテHenle氏蹄係部ニ於テハ3例トモニ重屈折性脂肪ヲ認ム。

ハ. 間質結締織並ニ血管ニ於ケル脂肪沈着

間質ニ於テハ1例ニ於テ重屈折性物質ヲ少量ニ認ムル他ニ脂肪沈着ヲ認メズ。血管壁ハ1例ニ於テ其内膜ノ肥厚性變化ヲ認メシムルモノニ於テ中性脂肪ノ沈着少量ニ認メラル。

急性腹膜炎ノ際ニ於テハ一般ニ單屈折性脂肪沈着ハ少量ニシテ比較的的重屈折性脂肪ノ多量ナルヲ認メタリ。

ニ. 類脂肪性色素顆粒

第183, 第185ノ2例ノHenle氏蹄係下行脚ニ於テ認メ, 第183例ニ於テハ集合管上皮細胞内ニモ認メタリ。

第八項 初生兒メレナ

1. 性及年齢

生後2日ノ女性及生後3日ノ男性ノ初生兒ナリ。而シテ生後2日ノ女性ノ例ハ先天性黴毒兒ニシテ、其副腎等ノ組織内ニ多數ノ「スピロヘータ」ヲ證明シ得タルモノナリ。

2. 組織所見

1例ハ絲絨體蹄係其他ノ血管ニ於テ著明ナル充血ヲ認メ、他ノ1例ハ慢性間質炎ノ所見ヲ呈セリ。

3. 脂肪體所見

初生兒メレナノ際ニ於ケル腎臟ノ脂肪含有量ヲ檢索セルモノハ文獻ヲ渉獵スルモ極メテ尠ク、僅ニPrym(前出)ハ3例(生後6日乃至11日)ニ於テ檢シ其中1例ニハ全ク脂肪ヲ含マズ、他ノ2例ニ於テHenle氏蹄係上行脚ニ中等量及主管上皮ニ於テ少量ヲ認メタリト稱セリ。

余ガ例ニ於テハ主管上皮ニ稍多量ヲ認メタルヲ異ナレル點トス。其他ノ部位ニ於ケル脂肪沈着ハ先天性黴毒ニ基ケル例ニ於テ之ヲ認メタルニ過ギズ。

間質並ニ血管壁ニハ2例トモ脂肪ノ存在ヲ認メズ。

即チ初生兒メレナノ際ニ於テ迂曲細尿管主要部ノ上皮細胞ニハ中性脂肪ノ可ナリニ高度ノ沈着ヲ認メタリ、重屈折性脂肪ハ各例トモ全ク認メザリキ。

類脂肪性色素顆粒

2例トモニ證明セザリキ。

第九項 消化不良症

總數5例ナリ。

1. 性及年齢

男性4例、女性1例。年齢ハ生後7ヶ月乃至5歳ノ小兒ナリ。

2. 組織所見

2例ニ於テ髓質血管ノ充盈ヲ認メ、1例ニ於テ皮質内ニ多發性膿瘍ヲ認ムル他ニ組織的變化ヲ認メズ。

3. 脂肪體所見

イ. 絲絨體ニ於ケル脂肪沈着

絲絨體ニ於ケル脂肪沈着トシテハ第190例ノ血管蹄係内被細胞ニ重屈折性脂肪ヲ認メタリ。

ロ. 細尿管ニ於ケル脂肪沈着

主管上皮細胞ニ於テハ第188、第192ノ2例ニ中性脂肪ヲ中等量ニ認メタリ、重屈折性物質ヲ1例ニ於テ認メタリ。

Henle氏蹄係ニ於テハ3例ニ中性脂肪ノ少量ヲ、中2例ニ於テ脂肪酸ノ少量ヲ混在シ、1例ニ於テ稍多量ノ中性脂肪ヲ認メタリ。又1例ニ於テハ重屈折性物質ヲ認メタリ。

潤管及集合管ニ於テハ各1例ニ中性脂肪及脂肪酸ノ痕跡ノ混在セルニ過ギズ。

ハ. 間質結締織及血管ニ於ケル脂肪沈着

各例トモ脂肪沈着ヲ認メズ。

而シテ本症ニ於テ主管上皮細胞ノ核ニハ著シキ變形等ノ變性ノ徵ヲ認メザル第188、第192例ニ於テ可ナリニ高度ノ中性脂肪ノ沈着ヲ認メ其成人ニ於ケル沈着ト稍異ナレルモノアルヲ知ルニ足ラン。

二. 類脂肪性色素顆粒

類脂肪性色素顆粒ハ本症例中第190例ニ於テHienle氏蹄係上行脚ニ認メタリ.

第十項 初生兒鞏硬浮腫症

1. 性及年齢

2例トモ男性ニシテ生後11日乃至15日ノ例ナリ.

2. 組織所見

1例ニ於テ充血及出血ノ像ヲ認ムルニ過ギズ.

3. 脂肪體所見

1例ニ於テ絲絨體血管蹄係ニ微細顆粒狀ノ中性脂肪ノ沈着ヲ認ムルニ過ギズ, 其他ノ部位ニ於テハ全ク脂肪ヲ認メザリキ.

類脂肪性色素顆粒

2例トモニ認メズ.

第十一項 火 傷 死

1. 性及年齢 59歳ノ女性ノ1例ナリ.

2. 組織所見

火傷ノ際ニ於ケル腎臟ノ組織的變化ニ關シテ, 竹内⁽¹⁷³⁾ハ人體例ニ於テ瀰蔓性強度ノ鬱血, 細尿管上皮ノ高度ノ瀰濁腫脹及脂肪沈着ヲ認メ, 又動物實驗ニ於テ同様ノ所見ヲ認メタリ. 長與⁽¹²²⁾亦其實質性臟器ノ瀰濁腫脹及脂肪變性ヲ認メ, 脂肪異動ニ基ケル「リベミー」ノ存在ヲ想像セリ. 余ガ檢索セルハ可ナリ廣キ第4度ノ火傷ニヨリ死セル例ニシテ其組織的變化ノ主ナルモノハ絲絨體血管蹄係ノ充血, 曲細尿管上皮細胞ノ強度ノ瀰濁腫脹及細尿管腔ニ「エオジン」ニ濃染セル硝子樣物質ヲ所々ニ容ルルコトナリ.

3. 脂肪體所見

絲絨體ニ於ケル脂肪沈着ハBowman氏囊壁上皮細胞ニ於テ微細ナル滴狀ヲ呈シテ中性脂肪ノ沈着ヲ認メ, 細尿管ニ於テハHienle氏蹄係上行脚及潤管部ニ於テ少量ノ脂肪滴沈着ヲ認メ, 間質殊ニ髓質鬆組織中ニ微細顆粒狀ノ集團ヲナシテ脂肪ノ沈着ヲ認メタリ.

出現セルハ一般ニ中性脂肪ニシテ, 間質ニ於テ「リボイド物質ヲ認ムル他, 重屈折性物質ノ出現ヲ認メズ.

類脂肪性色素顆粒

類脂肪性色素顆粒ハ之ヲ認メザリキ.

要之ニ火傷死ニ於テ腎臟ノ組織的變化トシテ瀰蔓性ノ鬱血及腎上皮細胞ノ退行性變化ヲ認メシメ脂肪沈着ハ一般ニ輕度ニシテ特異ナル點ヲ認メズ.

第三章 急性中毒ノ際ニ於ケル腎臟殊ニ其ノ含有脂肪體

第一節 材料並ニ檢査方法

材料トシテ選擇セルハ自殺ノ目的ヲ以テ猫イラズヲ服用セル磷中毒ノ3例及亞砒酸中毒ノ2例ナリ, 檢査方法ハ前2章ト同様ナリ.

第二節 急性中毒例ノ検査所見

其組織的検査及脂肪體検査所見ノ要項ハ第3表ニ示スガ如シ(附表第3表参照)。

第三節 急性中毒例ノ所見概括並ニ考察

第一項 磷 中 毒

泰西ニ於テハ既ニ古クヨリ墮胎劑トシテ俗間ニモ磷ヲ使用セラレシ關係上、今日迄ニ之ガ中毒例ノ報告セラレシモノ多シ。近時我國ニ於テハ磷ノ混合物ヨリナル殺鼠劑描いらすト稱シテ坊間ニ販賣セララルニ至リ、是ヲ自殺ノ目的ニ用フルモノ續出スルニ至リ、之ガ中毒例ノ報告セララルモノアルモ、主トシテ肝臟ニ於テ詳細ナル記載ヲ認メ、之ガ腎臟ニ來ス變化ニ就テハ記載詳カナラザル憾アリ。

余ガ検査例ハ總數3例ニシテ服用後約11時間ニテ死亡セル急性例並ニ服用後約3日及7日ニ亘ル亞急性例ノ2例ナリ。

1. 性及年齡

3例トモ男性ニシテ年齡ハ26歳乃至38歳ノ成年期ノモノナリ。

2. 組織所見

磷中毒ノ際ニ來ル組織的變化ニ就テハ、Lewin⁽¹⁰³⁾、Leisering⁽¹⁰²⁾、Myer⁽¹¹⁴⁾、Saikowsky⁽¹⁴⁵⁾、Pastau⁽¹³²⁾、Klebs⁽⁸⁸⁾、Tügel⁽¹⁷⁸⁾、Ziegler und Obolonsky⁽¹⁸⁴⁾、中村⁽¹¹⁹⁾、大沼⁽¹³⁰⁾、岩橋⁽⁶⁹⁾、久保⁽⁹⁷⁾、糸川⁽⁶⁸⁾等ノ報告アリト雖モ、肝臟ノ變化ニ關シテ詳細ナル記載アルニ比シテ他ニハ甚ダ詳細ヲ缺ケル憾アリ。大沼^(前出)ハ人體例並ニ動物體ニ實驗セル例ニ於テ論ジテ急性ナル例ニテハ主トシテ細尿管上皮細胞ノ潤濁腫脹ヲ認メ、亞急性ナルモノニ於テ曲細尿管上皮細胞ノ退行性變化ヲ認ムトセリ。糸川^(前出)ハ絲絨體ノ充血及出血ヲ時ニ輕度ノ硝子樣變性ニ陷レルモノヲ認メ、迂曲細尿管主要部ニ於テハ急性ノ經過ヲトリシモノニ其上皮細胞ノ潤濁腫脹ノ著シキヲ認メタリト稱シ、其管腔内ニハ絮伏片剝離セル上皮細胞又壞死上皮塊ヲ容ルルヲ見タリト稱セリ。

岩橋^(前出)ハ絲絨體ノ膨滿、圓形細胞浸潤及迂曲細尿管上皮ノ變性等即チ急性實質炎ノ像ヲ人體例ニ於テ報告セリ。久保^(前出)ハ磷中毒ノ際ニ於ケル腎臟ノ組織學的變化ハ間質組織ヨリモ實質組織ニ於テ強ク、主トシテ實質ノ退行性變化ニシテ炎症性變化ハ殆ンド之ヲ認メズトセリ。Petri⁽¹³⁴⁾モ亦上皮細胞ノ潤濁腫脹ト迂曲細尿管ノ脂肪沈着ハ其主ナル變化ナリトセリ。

余ガ例ニ就テ精細ニ組織變化ヲ檢索セルニ次ノ如シ。

絲絨體ニ於テハ其血管蹄係著シク擴張充盈セルモノ、一般ニ腫大シテ組織鬆祖トナリ水腫狀觀ヲ呈スルモノ並ニ其Bowman氏囊壁上皮細胞ノ腫大變性セルモノヲ最モ急性ナル1例ニ於テ認メタリ。又少數ノ絲絨體ガ全ク荒蕪シテ硝子樣ニ變セルモノヲ1例(第196例)ニ於テ認メタリ。

細尿管上皮細胞殊ニ迂曲細尿管主要部ニ於ケル上皮細胞ハ一汎ニ退行性變化ヲ示シ、顆粒狀變性、空胞狀變性又ハ全ク壞死性變化ニ陥リ核消失シ、胞體ノ甚シク崩壞シテ基礎膜ヨリ離脱セルモノヲ認メタリ。其管腔内ニハ顆粒狀物質ヲ容ル。

Henle氏蹄係上皮細胞ニ於テモ主要部上皮細胞ニ於ケルガ如ク顆粒狀變性及壞死性變化ヲ認メ、是等病變ヲ主トシテ其上行脚上皮細胞ニ於テ認メタリ。

余ガ例ニ於テハ潤管部ノ病變ハ一汎ニ著明ナラズ、而シテ久保^(前出)糸川^(前出)等ハ主要部及潤管部上皮細胞ノ變性ニ陷レルモノニ於テ石灰沈着ヲ認メタレド、余ハ3例ニ於テ何レノ部位ニ於テモ石灰沈着ヲ認メ

ザリキ。然レドモ2例ニ於テ其主要部上皮細胞及 Henle 氏蹄係上行脚ニ於テ其基底部分ニ著明ニ膽汁色素ノ沈着ヲ認メタリ。

間質ニ來ル變化ハ實質ニ於ケルカ如ク一汎ニ著明ナラザレドモ、第196例(急性ナル例)ニ於テ輕微ナル間質結締織ノ増殖ヲ皮質ノ間質ニ於テ認メ、服用ヨリ約3日間ヲ經過セル第197例ニ於テ血管周圍ノ間質組織内ニ淋巴細胞浸潤ヲ認メタリ。又間質組織ハ一汎ニ鬆粗トナリ水腫狀ヲ呈セリ。而シテ血管ハ一汎ニ著シク擴張シテ血球ノ充盈セルヲ3例トモニ認メタリ。

要之ニ燒中毒ノ際ニ於ケル腎臟ノ變化ハ其急性タルト亞急性タルトヲ間ハズ一汎ニ實質ニ於テ退行性變化ヲ認メ、間質ニ於テハ充血及水腫性變化ヲ認メタルハ之レ其毒物ノ作用ニヨリテ來レルモノナルコトヲ知り得ベシ。

3. 脂肪體所見

急性燒中毒ニ際シ最モ著明ナル脂肪變性ヲ來スハ肝臟ニシテ、之ニ次ギテ腎臟ニ著シキ脂肪變性ヲ認ムル事ハ Ziegler und Obolonsky (前出) 其他先進諸家ニヨリテ等シク承認セララル處ナリ。殊ニ其肝臟ニ於ケル脂肪沈着及脂肪變性ハ其脂肪ノ發生及轉移ニ關スル諸學說ヲ闡明セントスルニ特殊ノ地位ニ立ツ關係上、人體例ニ又動物實驗上ニ之カ研究業績ノ發表セラレシモノ枚舉ニ遑アラズト雖モ、其腎臟ニ對スル關係ヲ記載セルモノハ其組織ノ變化ニ於ケルト等シク極メテ尠シ。

糸川(前出)ハ彼ノ實驗例5例中4例ニ於テ、細尿管上皮ニ脂肪沈着ヲ認メ肝臟ニ於ケルカ如キ粗大ナル脂肪滴ヲ見ズシテ多クハ微細ナル脂肪顆粒カ然ラザレバ脂肪小滴ニ過ギズシテ、其細胞内分布ハ細胞ノ基底部分ニ於テ濃厚ナリト、而シテ量的關係ハ主要部上皮細胞ニ最モ多量ニシテ、中性脂肪ヲ主トシ、「リポイド物質」ヲ1例ニ於テ少量ニ認メ、重屈折性物質ハ認メザリキト。Ziegler und Obolonsky (前出)ハ實驗的ニ家兎ニ燒中毒ヲ惹起セシメタルニ慢性中毒ノ1例ニ於テ曲細尿管上皮ノ脂肪變性ヲ認メタリト、又犬ニ就テモ32日以上ヲ經過セル慢性中毒例ニ於テ同様ノ所見ヲ獲タリ。

一汎ニ燒中毒ノ際ニ於ケル肝臟及腎臟ノ脂肪變性或ハ脂肪沈着ハ經過ノ長短ニヨリ其發現脂肪ノ分布部位及量的關係並ニ發現脂肪ノ種類ヲ異ニスルコトハ諸家ノ等シク唱道スル處ナリ。以下余ガ所見ヲ概括シテ諸家ノ所見ト對照シ之ガ考察ヲ進メント欲ス。

イ. 絲毬體ニ於ケル脂肪沈着

絲毬體ノ脂肪沈着ヲ3例トモニ少量ニ認メ、其亞急性ノ2例ニ於テハ急性ノ1例ヨリモ稍多量ノ觀アリ。而シテ其部位ハ主トシテ血管蹄係内被細胞並ニ Bowman 氏囊壁上皮細胞ノ核ノ周圍ニ微細顆粒狀ヲ呈シテ存在シ、各1例ニ於テ Bowman 氏囊纖維膜及血管蹄係内被細胞ニ認メタリ。

ロ. 細尿管ニ於ケル脂肪沈着

主管部上皮細胞ノ脂肪變性ハ經過約11時間ノ急性例ニ於テハ是ヲ認メズ、經過3日及7日ノ亞急性例ニ於テ著明ニ多量ノ出現ヲ認メタリ。一汎ニ粗大ナル滴狀ヲ呈シテ其細胞基底部分ニ稠密ニ排列シテ全體内ニ充盈セリ、爲ニ其核ハ一汎ニ認メラレズ。Smith-Dietrich 氏法ニ「ズダンIII後染色」ヲ施セルモノニ於テハ、其細胞基底部分ニ於テ其脂肪滴ノ周邊ヲ圍繞シテ或ルモノハ脂肪滴全部ガ陽性ヲ呈シテ染色スルヲ認メタリ。而シテ2例トモ主管部ニ普汎性ニ脂肪變性ヲ認メタリ。

Henle 氏蹄係上皮細胞殊ニ上行脚上皮細胞ニ於テハ其上皮細胞基底部分ニ濃厚ニ沈着シ、一汎ニ細胞體ヲ充盈シテ滴狀ヲ呈シテ存在スルヲ認ム。潤管部ニ於テハ比較的微細ナル滴狀又ハ顆粒狀ヲ呈シ、一汎ニ平等瀰漫性ニ胞体内ニ分布スルヲ認メタリ。而シテ Henle 氏蹄係、潤管部ニ於テハ3例トモ陽性ナリ。

集合管上皮細胞ニ於テモ3例トモニ認ムレド、其量ハ一汎ニ多カラズシテ其上皮細胞基底部ニ滴狀ヲナシテ存在セリ。

ハ. 間質結締織ニ於ケル脂肪沈着

間質結締織内ニ於ケル脂肪沈着ハ極メテ僅少量ノ脂肪ヲ認ムルニ過ギズ、何等一定セル部位ノ關係ヲ認メズシテ、皮質ニ於ケル血管周圍組織ニ滴狀ヲナシテ存在スルモノ(第196例)、結締織細胞及結締織纖維中ニ微細ナル滴狀ヲ呈シテ存スルモノ(第197例)、間質ノ水腫狀ヲ呈スルコト著明ナル例(第198例)ニ於テハ前2例ヨリモ稍多量ニ髓質鬆結締織中ニ脂肪滴ノ沈着ヲ認メタリ。

ニ. 血管ニ於ケル脂肪沈着

血管ニ於ケル脂肪沈着ハ僅ニ1例ニ於テ認ム、細血管ノ内膜ニ塊狀ヲナシテ少量ニ沈着セルノミナリ。

ホ. 出現脂肪體ノ種類及量的關係

第3表ニ就テ見ル如ク、主トシテ中性脂肪ヲ各部位ニ於テ認ム。殊ニ迂曲細尿管主要部ニ於テハ中性脂肪ヲ大部分ニ於テ認ムレド、Smith-Dietrich 氏法ニ陽性ヲ呈スル「リポイド物質」ノ混在ヲ證明セリ。之「リポイド物質」ノ混在ハHenle 氏蹄係、潤管部及集合管ニ於テ殊ニ著明ニシテ、「ニールブラウズルフェート染色」ニ於テ主要部ニ於テハ堇青色又ハ赤色ヲ呈スルニ拘ラズ、Henle 氏蹄係以下ノ細尿管ニ於テハ堇青色又ハ青色ヲ呈セリ。

重屈折性物質ハ3例トモニ之ヲ認メ、迂曲細尿管主要部ニ於テ著明ニシテ、次テHenle 氏蹄係上行脚ニ於テ認メ、第196例ニ於テハ細血管内腔ニ於テ證明セリ。一汎ニ加温ニヨリテ消失スレドモ、冷却後十字像ヲ呈セザリキ。

出現脂肪體ハ經過3日以上ニ亘ル亞急性例ニ於テハ經過約11時間ノ急性例ヨリモ多量ニシテ、殊ニ迂曲細尿管ニ著シク其差異ヲ認メタリ。即チ急激ナル中毒例ニ於テハ其主要部ニ於テ重屈折性脂肪ヲ認ムルノミニシテ、何等單屈折性脂肪ヲ認メザルニ亞急性例ニテハ著明ニ中性脂肪ノ出現スルヲ認メタリ。

上述セル余ガ検査成績ト、既ニ記載セルル先進諸家ノ成績トヲ對照比較センニ、一汎ニ其經過ノ長短ニヨリ出現脂肪ニ消長ヲ來スコトハ、Ziegler und Obolonsky(前出)ノ實驗的ニ之ヲ證明セル外、久保(前出)、糸川(前出)、岩濤(前出)、大沼(前出)等諸家ノ意見ノ一致スル所ニシテ、殊ニ大沼(前出)ハ斯ノ如キ腎臟ノ脂肪浸潤ノ際ハ細尿管各部ノ間ニ自ラ遲速ノ差異ノ存スルヲ認メ、即チ生理的ニ脂肪ヲ含有スルHenle 氏蹄係部ニ最モ速ニ來リ、次テ其隣接部ナル主管部及潤管部ニ來ルトセリ。余ガ例ニ於テモ前述セル如ク急性例ナル第196例ニ於テハ如斯關係ヲ認メ、亞急性ノ經過ヲトレル2例ノ曲細尿管主要部ニ著明ニ認メタル點ハ諸家ノ説ク所ト符合スルモノナリ。

燐中毒ニ際シ各種臟器ニ出現スル脂肪ノ種類ニ就テハ、川村⁽⁸⁴⁾ノ犬及鼠ニ於ケル研究ニ據レバ、主トシテ中性脂肪ニシテ重屈折性脂肪ヲ認メズト。Schwalbe und Mücke⁽¹⁵⁷⁾ハ燐中毒ノ海鼠ニ於テ時トシテFischler 氏法陽性ヲ呈スル脂肪酸ヲ認メタリト。Petri(前出)ハ其燐中毒ノ5例ニ於テ中性脂肪ノ他ニSmith-Dietrich 氏法及Ciaccio 氏法ニ陽性ナル類脂肪物質ヲ證明セリ、然レトモ重屈折性物質ハ陰性ナリシト。糸川(前出)ハ人體例5例ニ於テ各臟器内ニ重屈折性物質ノ出現ヲ認メズ、唯1例ニ於テ肝臟及腎臟ニ少量ノ「リポイド物質」ヲ認メタルノミニシテ、他ハ總テ中性脂肪ヲ證明シ、久保(前出)ノ實驗例ニヨレバ少數ノ例ニ於テ「リポイド物質」ヲ認メ、唯1例ニ於テ「ヒヨレステリンエステル」ヲ認メタレド、此重屈折性物質ノ出現ハ燐中毒ト關係ヲ認メズトセリ。布瀬⁽³⁹⁾ハ我教室ニ於ケル1例(余ノ第196例)ニ於テ其肝臟ニ可ナリ強度ニ重屈折性物質ヲ證明セリ。尙同氏ノ動物實驗成績ニヨレバ、「卵黃及純「ヒヨレステリン」飼養例ノミ

ニ於テ之ヲ認メタリト報告セリ。是等報告ヲ綜合シテ考察スルニ、余ガ3例ニ於テ認メタル重屈折性物質ハ磷中毒ト密接ナル關係ニ立ツモノトハ思考シ難シ。

要之ニ磷中毒ノ際ニ出現スル脂肪ハ主トシテ中性脂肪ニシテ、同時ニ「リポイド物質モ現レ來ルモノナル事ハ余ノ例ニ於テ生理的ニ全ク「リポイド物質ヲ含有セザル迂曲細尿管主要部ニ於テ中等量ノ「リポイド物質ノ混在ハ之ヲ證明スルニ足ルモノナリ。而シテ久保^(前出)等ノ稱スルガ如ク磷中毒ノ際實質臟器ニ脂肪出現ノ初期ニハ常ニ中性脂肪ノミニシテ「リポイド物質ノ存在セルハ何レモ中毒經過比較的長ク、脂肪存在量ノ多量ナル際ニ認ムト云フ說ニ一致スルガ如シ。如斯慢性中毒ノ際ニ「リポイド物質ノ出現ニ關シテハ最近奧^(前出)ハ動物實驗及人體例ニ於テ磷中毒ノ際ニ於ケル血液内脂肪量ヲ測定シ上述所見ニ一致スル成績ヲ擧ゲタリ。

磷中毒ト脂肪肝發生ノ本態ニ關スル Lebedeff (101), Rosenfeld (139) (140), Kraus und Sommer (96), 柴田 (150) (151), 奥^(前出), 久保^(前出), 布瀨 (39) (40) 等ノ業績其他幾多ノ諸家ノ研究ニヨリ觀ルニ身體貯藏脂肪ヨリノ轉移ニシテ何等脂肪ノ新生ヲ惹起セザルコトハ多數學者ノ承認スル所ナリ。而シテ腎臟ニ於ケル磷中毒ノ際ノ脂肪發生ノ本態モ急性例ニ於テ既ニ組織的ニ其迂曲細尿管主要部上皮細胞ノ著シキ退行性變化ヲ認ムルニ拘ラズ何等脂肪變性ニ陥ラズシテ、亞急性例ニ於テ始メテ迂曲細尿管上皮細胞ニ著明ナル脂肪變性ヲ惹起スル點ハ、中毒ノ一定期ニ達シ身體内貯藏脂肪ヨリ血中ニ來リテ「リペミー」ヲ惹起シ、而シテ所謂脂肪肝ヲ將來スルナリトイフ上述諸家ノ實驗ニ由ル諸說ト一致スルガ如クナレドモ、他ノ一面ニ於テ一汎上皮細胞ノ脂肪變性ノ際ニ於ケル如ク脂肪滴ノ一般ニ粗大ニシテ組織的ニ上皮細胞内ニ空胞變性核消失等ノ著明ナル退行性變化ヲ示スハ強チニ其脂肪フアネローゼ」(Fettphanerose)ヲ否定シ難キモノアリ。然レドモ余ガ實驗セル僅少ノ3例ヲ以テ茲ニ是等ノ問題ヲ論斷セントスルモノニアラズ。

ホ. 類脂肪性色素顆粒

磷中毒ノ際ニ於テ其比較的慢性ノ經過ヲトレル際ニ Henle 氏蹄係上皮細胞内ニ類脂肪性色素顆粒ノ出現ハ本田⁽⁶⁰⁾, 久保^(前出), 糸川^(前出)等ノ記載ニ於テ認ムル所ニシテ、余ガ例ニ於テモ亞急性磷中毒例ノ第197, 第198ノ2例ニ於テ認メタリ。

第二項 砒 素 中 毒

1. 性及年齢

59歳ノ男性及31歳ノ女性ノ各1例ニシテ、亞砒酸劑内服後數時間及約2週間ノ後死亡セル急性及亞急性中毒例ナリ。

2. 組織所見

Saikowsky (145), Grobe und Mosler (50), Ziegler und Obolonsky (102), 布瀨 (39) 等ノ報告及動物實驗ニ依ルニ、其腎臟ニ及ボス病變ハ前項磷中毒ト大同小異ナリ。

余ガ検査セル2例ニ於テ、其絲髓體ノ變化ハ急性例ニ於テハ血管蹄係ハ退縮シ、亞急性例ニ於テハ血管蹄係ハ充血ヲ呈シテ容積ノ膨大ヲ認メ、蹄係内被細胞ハ2例トモニ退行性變化ヲ呈シ、又 Bowman 氏囊腔内ニハ分泌物及脱落上皮細胞ヲ容ル、細尿管上皮殊ニ迂曲細尿管主管部上皮細胞ハ一汎ニ退行性變化ヲ示シ、急性例ニ於テハ核消失シテ壞死性變化ヲ呈シ、亞急性例ニ於テハ空胞形成ヲ認メタリ。

3. 脂肪體所見

Ziegler und Obolonsky (前出)ハ動物實驗ノ結果經過慢性ノ中毒例ニ於テ細尿管上皮細胞ニ少量ノ脂肪滴ノ出現ヲ認ムト稱シ、布瀨^(前出)ハ甚ダ急速ナル經過ヲトリシ人體例ニ於テ、其肝臟組織内ニ極メテ少量ノ中

性脂肪及重屈折性物質ヲ證明セリ。

余ガ急性及亞急性ノ經過ヲトリシ砒素中毒ノ2例ニ於ケル脂肪體検査所見ハ次ノ如シ。

イ. 絲毬體ニ於ケル脂肪沈着

絲毬體ニ於テハ、2例トモ少量ノ中性脂肪及「リポイド物質」ガ變性セル Bowman 氏囊壁上皮細胞及血管蹄係内被細胞ニ於テ顆粒狀ニ沈着セルヲ認メタリ。

ロ. 細尿管ニ於ケル脂肪沈着

亞急性例ニ於テハ主管上皮細胞ノ脂肪沈着ハ皮髓兩質ノ境界部ニ於テ、上皮細胞基底部ニ粗大ナル滴狀ヲ呈シテ散在性ニ中性脂肪ノ痕跡ヲ認メ、重屈折性物質ハ可ナリニ著明ニ其管腔内ニ於テ逆離面ニ接着シテ或ハ基底部ニ瀰蔓性ニ存在ス、而シテ急性例ニ於テハ主管部上皮細胞ニハ單屈折性及重屈折性脂肪トモ何等出現ヲ認メザリキ。

Henle 氏蹄係部ニ於テハ亞急性例ニテハ其下行脚、上行脚ニ少量ノ中性脂肪及「リポイド物質」ノ少量ヲ證明シタリ、重屈折性物質ハ其管腔内及上皮細胞基底部ニ針狀結晶形ヲ呈シテ存在セリ。急性例ニ於テハ「リポイド物質」ノ少量ニ存在スルヲ認ムルニ過ギザリキ。

潤管部ニ於テハ亞急性例ニテハ其上皮細胞体内ニ平等ニ分布シテ微細滴狀ノ中性脂肪及「リポイド物質」ノ沈着ヲ認メ、重屈折性物質ノ僅少量ヲモ證明セリ。急性例ニ於テハ中等量ノ「リポイド物質」ノ上皮細胞内ニ平等ニ存在セルヲ認メ、重屈折性物質ハ認メザリキ。

集合管ニハ亞急性例ニ於テハ細胞基底部ニ粗大ナル滴狀ヲ呈セル中性脂肪及「リポイド物質」ノ混在スルヲ認メ、急性例ニ於テハ少量ニ「リポイド物質」ヲ認メタリ。

ハ. 間質結締組織並ニ血管ニ於ケル脂肪沈着

間質ニ於テハ亞急性例ニテハ淋巴空隙又ハ毛細管腔内或ハ基礎膜及是等ノ部位ニ接近シテ可ナリニ強度ニ脂肪ノ微細顆粒狀浸潤ヲ認ム、重屈折性物質ハ是等ノ部位ニ微細ナル針狀結晶形ヲ呈シテ存在セリ、急性例ニ於テハ髓質鬆紐結締組織内ニ中性脂肪ヲ認ムルニ過ギズ。

葉間腎動脈細枝ノ血管壁ニ於テハ急性例ニ於テ中等度ノ中性脂肪ノ浸潤ヲ認メタリ。

要之亞砒酸中毒ノ際ニ於テ組織的ニハ燐中毒ノ際ト等シク其實質組織ノ退行性變化ヲ惹起スト雖モ、其脂肪變性ノ出現度ハ各部位トモニ一般ニ燐中毒ニ比シテ輕度ナルモノナリ。然レドモ其所見ニ於テ亞急性例ニ於テ毛細管腔内ニ單屈折性及重屈折性脂肪ヲ著明ニ認ムル點ハ燐中毒ニ於ケル如ク生前脂肪轉移ヲ來シ「リペミー」ノ存在セルコトヲ證憑スルモノナリ。急性例ニ於テハ其潤管部ニ可ナリニ高度ノ瀰蔓性脂肪沈着ヲ認ムルノミニシテ、其他ノ部位ニハ脂肪ノ出現著明ナラズシテ僅ニ生理的脂肪沈着ヲ認ムルニ過ギザル點ハ、上述燐中毒ノ際ト其軌ヲ一ニスルモノナリ。

ニ. 類脂肪性色素顆粒

急性例ニ於テ Henle 氏蹄係部ニ少量ニ認メタリ。

附 胎兒腎臟ノ脂肪所見

胎兒腎臟11例中、子癩母體ヨリ人工的ニ分娩セラレシ胎兒腎臟3例、對照例8例ノ腎臟組織内脂肪所見ヲ表示セバ次ノ如シ。

檢 査 番 號	胎 生 月 數	性 別	死 産 生 産 ノ 別	脂 肪 體 檢 査		子 癩 例		對 照 例	
				染 色 部 位	脂 肪 體 檢 査	死 産	間 質	死 産	間 質
1	10	♀	死 産	III	+	+	+	+	+
2	10	♀	死 産	III	-	-	-	-	-
3	10	♂	死 産	III	+	+	-	-	-
4	3		流 産		-	-	-	-	-
5	3	♀	流 産		-	-	-	-	-
6	5	♀	流 産		-	-	-	-	-
7	7	♀	死 産		-	-	-	-	-
8	9	♀	死 産		-	-	-	-	-
9	10	♂	死 産		-	-	-	-	-
10	10	♀	死 産		-	-	-	-	-
11	10	♀	死 産		-	-	-	-	-

双 胎 兒

人 工 分 娩

人 工 分 娩

人 工 分 娩

考

備

第1例ニ於テハ其間質ニ沈着セル微細ナル脂肪滴ハ「ズダンIII」ニヨリ深紅色ヲ呈シ、「ニールブラウズルフェート」染色ニヨリ堇赤色ヲ呈シ、「ノイトラールロート」加温染色ニヨリ弱陽性ヲ示シ、Fischler氏法、Smith氏法、Ciaccio氏法ニ陰性ニシテ、分極装置ニヨリ曲細尿管基礎膜、間質組織、毛細血管腔内ニ、實質ニ於テハ主管上皮細胞基底部、絲綫體、細尿管腔ニ少量ニ微細針狀ノ結晶ヲナシテ重屈折性物質ノ沈着ヲ認メタリ。第2、第3例ニ於テハ皮質ノ間質ニ於テ第1例ト同様ニ「ズダンIII」ニヨリテ堇赤色ヲ呈スル微細ナル脂肪滴ヲ證明シ、「ニールブラウズルフェート」染色ニヨリテ青色ヲ呈シSmith氏法ニ陽性ヲ示セリ。

而シテ對照例タル胎生3ヶ月ヨリ10ヶ月ニ至ル8例ノ胎兒腎臟ニ就キテ検査セルニ、其腎臟ノ何レノ部位ニモ脂肪ヲ證明セザリキ。

第四章 總括的記載

第一節 出現脂肪體ニ關スル考察

一汎ニ腎臟ニ來ル脂肪ハ何レノ部位ニ於テモ一種類ニ限ラズシテ各種脂肪質ノ混在セルコト多シ。而シテ其各部位ニ於ケル機能的及解剖的變化ノ如何並ニ疾病的關係等種々要約ノ異ナルニ從テ、其分布及配合狀態ヲ異ニスルモノナリ。

第一項 中性脂肪

腎臟組織内中性脂肪ハ「ズダン III」ニヨリテ帶黃赤色ニ染色シ、其「フォルマリン」中ニ貯藏期間短キ新ラシキモノニ於テハ「ニールブラウ染色」ニヨリ葦赤又ハ赤色ヲ呈シ、Smith 氏法、Ciaccio 氏法、Fischler 氏法等ニ陰性ニシテ分極裝置ニヨリテ重屈折ヲ示サズ、サレド時ニ「ノイトラールロート」ニヨリテ淡黃紅色ヲ呈シテ染色スルモノアリ、而シテ余ガ検査例ニ於ケル中性脂肪分布ノ關係ハ第4表ニ示スガ如シ。

但シ表中多ハ別表記載ノ(++)以上少ハ(+)以下

第四表 各種疾患ノ際ニ於ケル中性脂肪出現率

病 名	絲毬體		主管部		Henle氏 躡 係		潤管部		集合管		間 質		血 管	
	多	少	多	少	多	少	多	少	多	少	多	少	多	少
結核症(33例)	1	6	2	2	6	25	3	9	1	4	1		1	1
惡性腫瘍(25例)	2	10	2	1	3	8	5	14	2	9	10		10	
精神病(21例)	1	9	2		7	8	8	8	3	9	8	1	5	
動脈硬化症(21例)	8		9	5	9	4	5	5	5	6	1	10	4	14
脚氣(6例)	1		1		2	2		2			1		1	
心臟瓣膜病(4例)	2				1						1			1
Banti 氏病(4例)			1		1		2	1	1	1	1			
白血病(3例)			1		1		1	1	1	2	2			
再性不能性貧血(4例)	3		12		2	1	1	2	1		2		1	
出血性紫斑病(1例)								1	1		1			
黃疸(膽石)(2例)	1	1			1				2		1		1	
肝硬變性(4例)	3		1	2	3	1	2	2	2	2	1	1		3
糖尿病及尿崩症(3例)			1		2		1	1						
放線狀菌病(2例)	2				1		2		2		1		1	
黴毒(7例)	2	1	2		3	1	3	1	2		1		1	
脊髓癆(3例)	1	1			2		2		1		1		1	
丹毒及敗血症(4例)			1		3	1	2	2	1	2	2		1	

腸チフス(11例)	3	1	2	2	7	2	5	3	2	2	1
腦膜炎(5例)			1		2		1		2		
破傷風(2例)			1				1			2	
子癇(4例)	1		1	1	2		2		1	1	1
急性出血(2例)	1	1		1	1	1	1	1	1	1	1
急性腹膜炎(3例)	1		1	2		1	1	1	2		1
初生兒メレナ(2例)	1	2		1	1		1				
消化不良(5例)			2		1	3			1		
初生兒鞏硬症(2例)	1				1						
火傷(1例)	1							1			
中毒症(5例)		2	1	3	1	1	3	1	3	5	1 2

1. 絲綉體ニ於ケル中性脂肪

絲綉體ニ於ケル脂肪沈着ヲ其部位ニヨリ三別スルコトヲ得ベシ。

1. 血管蹄係内被細胞ニ於ケル脂肪沈着
2. 血管蹄係面上皮細胞内ニ於ケル脂肪沈着
3. Bowman氏囊壁上皮細胞内ニ於ケル脂肪沈着

血管蹄係内被細胞ニ於ケル脂肪沈着ハ更ニ二種ノ分布状態ヲ呈ス、一汎ニ其内被細胞ノ變性著明ナラザル際ハ其核ノ周邊ニ微細顆粒狀ヲ呈シ、中性脂肪ノミナルカ或ハ狹義ノ「リポイド物質ト混ジテ集在スルヲ認メ、他ハ其蹄係壁ノ硬變ヲ示セル際ニシテ、斯ル際ハ輸入毛細管ヨリ蔓延セル如キ觀ヲ示シ、片塊狀ヲ呈シテ血管蹄係壁ニ瀰漫性ニ沈着セルヲ認ム。如斯例ニ於テハ一汎ニ狹義ノ「リポイド物質ノ多クヲ混在スルヲ認ム。而シテ全ク荒蕪シテ硝子様ニ變ゼル絲綉體ニ於テハ一汎ニ大小ノ脂肪滴ノ沈着セルヲ認ム。

Bowman氏囊上皮細胞ニ於テモ同様ニ核ノ周圍ニ微細ナル脂肪顆粒ノ集在セルヲ認ムレドモ、其高度ナル時ハ滴狀ヲ呈シ或ハ全ク胞体内ヲ充タスコトアリ。

2. 主管部ニ於ケル中性脂肪

迂曲細尿管(主管部)ニハAschoff^(前出)、Fischer^(前出)、瀨川^(前出)其他ノ諸家ハ腎臟ノ正常ナル状態ニ於テハ脂肪ノ出現ヲ認メザルモ、實質ニ於ケル炎症、變性及循環障碍ニヨリテ惹起セラレシ營養障碍等ノ加ハリシ際ニ始メテ是ガ脂肪物質ノ出現ヲ認メ、如斯際ニハ悉ク中性脂肪ヲ證明スト稱セリ。余ガ検査例ニ於ケル所見モ殆ド此等諸家ノ稱フル所ト一致セリト雖モ、或ル症例ニ於テハ必ズシモ中性脂肪ニ限ラズシテ、狹義ノ「リポイド物質及重屈折性物質ノ混在スルヲモ認メタリ。

而シテ一般ニ主管部ニ於ケル中性脂肪ノ分布状態ヲ觀ルニ比較的粗大ナル大小種々ノ脂肪滴ガ細胞基底部ニ稠密ニ存在スルヲ認ム、甚ダシク高度ナル際ハ密集シテ細胞ニ充滿セリ。カカル脂肪變性ヲ來セル主管部上皮細胞ニ於テハ一般ニ核ノ消失又ハ退行性變化ヲ示シ、細胞原形質ニハ顆粒狀變性又ハ空胞變性ヲ伴ヘルモノ多シ。

3. Henle 氏蹄係部ニ於ケル中性脂肪

Henle 氏蹄係下行脚ニ於テハ一汎ニ脂肪物質ノ出現ヲ認メズシテ、只僅少例ニ於テ核ノ兩端及一側ニ僅少量ノモノ顆粒狀ヲナシテ存スルヲ認ムレド、中性脂肪ヨリモ主トシテ狹義ノ「リポイド物質ヲ認ムルコト多シ。

Henle 氏蹄係上行脚ニハ生理的ニ一汎ニ脂肪沈着ヲ認ムルコトハ諸家ノ等シク認ムル所ニシテ、瀨川^(前出)ノ記載ニヨレバ、其生理的脂肪浸潤ニテハ上皮細胞内ニ平等ニ分布シ、而シテ「ニールブラウズルファート」ニ堇青色ニ、Ciaccio 氏法及 Smith 氏法ニ陽性ヲ呈シ、分極裝置ニヨリテ重屈折ヲ示サズト、之ニ反シ病的脂肪浸潤ニ於テハ其脂肪滴ハ粗大ニシテ、不平等ニ胞体内ニ分布セリト稱セリ。而シテ余ガ検査例ニ於テモ腎臟ニ病變ヲ認メザル場合ニ於テ、初生兒及小兒期ヲ除ク殆ド總テノ例ニ脂肪沈着ヲ認メタリ。主トシテ「リポイド物質ナレド中性脂肪ヲモ混在シ、一般ニ大小ノ滴狀ヲナシテ多クノ場合細胞基底部ニ濃密ニ存在スルヲ見ル。

4. 潤管部ニ於ケル中性脂肪

迂曲細尿管潤管部ニ於テ瀨川^(前出)ノ檢索ニヨレバ其生理的脂肪沈着ニ際シテハ脂肪顆粒ハ大小不同ニシテ分布亦平等ナラズ、之ニ反シ急性腎炎及腎變性ノ際ハ主トシテ中性脂肪ノ微細顆粒狀ヲ呈シテ平等瀰蔓性ニ出現スルヲ認ムト。余ガ検査所見ニテハ一汎ニ潤管部ニ出現スル脂肪滴ハ微細顆粒狀ヲ呈シ、胞体内ニ平等ニ分布セルヲ認メタリ。而シテカカル分布狀態ハ其病變ノ存在如何ニ拘ラズ一般ニ認メラルル所ナリ、蓋シ之レ其潤管部ニ於ケル尿成分再吸收機能ニ關係スルモノナラン乎。

5. 集合管ニ於ケル中性脂肪

集合管ニ於テハ、Henle 氏蹄係上行脚並ニ潤管部ニ於ケルガ如クニ必ずシモ生理的ニ脂肪出現ヲ認メザルナリ。而シテ其分布狀態ハ凡ソ二種ノ定型的排列ヲ示スモノナリ。其一ハ限局性脂肪變性ニシテ、其集合管上皮細胞ノ二三ガ其形ヲ異ニシ、細胞核ハ不分明トナリテ變性ニ陥リ、其細胞ハ定型的ノ方形ヲ失ヒテ圓形又ハ不正形ヲ示シ、内ニ大ナル脂肪滴ノ集塊ヲ認ムルナリ。其瀰蔓性脂肪變性ヲ呈スルモノニ於テハ、他ノ細尿管部位ト同時ニ瀰蔓性脂肪浸潤ノ際ニ認ムルモノニシテ、其上皮細胞基底部ニ瀰蔓性ニ脂肪沈着ヲ認メタリ。

6. 間質ニ於ケル中性脂肪

間質ニ於ケル脂肪出現ハ其部位ニヨリ凡ソ次ノ如ク二大別スルヲ得ベシ。

イ. 皮質間質組織内脂肪沈着

ロ. 髓質間質組織内脂肪沈着

イ. 皮質間質組織内脂肪沈着

皮質結締織細胞ノ脂肪沈着ハ一汎ニ多く認メラレザル所ニシテ、腎臟上皮ノ瀰蔓性脂肪沈着、例ヘバ余ガ實驗例ニ於テハ磷及砒素中毒ノ際ハ最も著明ニシテ、斯クノ如キ際ハ其曲細尿管基礎膜及毛細管壁並ニ細尿管間結締織部ニ同質性ニ脂肪浸潤ヲ認メ、其他間質性腎炎、萎縮腎等ノ際ニ Bowman 氏囊纖維膜ノ硝子樣變性ニ陥レルモノニ滴狀又ハヒロク浸潤狀ニ

脂肪ノ沈着セルヲ認メ、又増殖セル間質結締織ニ於テ其結締織細胞内ニ又硝子様變性ニ陥レル結締織纖維内ニ脂肪滴ノ沈着及瀰蔓性ノ脂肪浸潤ヲ認ム。

而シテ茲ニ興味アル事實ハ、余ガ胎生期ニ於ケル腎臟ノ代謝關係ヲ知ラント欲シ胎兒腎臟ニ就キテ含有脂肪ヲ檢索セルニ子癩母體ヨリ分娩セラレシ約10ヶ月ノ胎兒腎臟ノ3例ニ於テ、其皮質間質組織ニ局限性ニ微細ナル脂肪顆粒ノ沈着シテ網狀ヲ呈セルヲ認メタル事ナリ。

表示セル上述ノ成績ヲ總括スルニ余ガ檢査セル3例ノ子癩母體ヨリノ胎兒腎臟ニ於テハ其間質組織内ニ脂肪質ノ出現ヲ見、其ノ1例ニ於テハ中性脂肪及重屈折性脂肪ノ沈着ヲ、他ノ2例ニ於テハ狹義ノ「リポイド物質」ノ沈着ヲ認メタリ。

而シテ胎生期ニ於ケル腎臟組織内脂肪代謝ノ關係ヲ顯微化學的ニ檢索セル報告ハ文獻ヲ涉獵スルモ多ク認メザル所ニシテ、Prym^(前田)ハ子癩胎兒ノ2例ニ於テ余ガ所見ト同様ノ所見ヲ認メ、其先天性微毒兒及子癩胎兒ニ於テ腎臟組織ノ發育狀態ガ他ノ健康母體ノ胎兒ニ比シ著シク不完全ナル點ト共ニ考慮シ、如上ノ所見ハ代謝毒素ニヨル子癩發生說ニ聊カ意義ヲ附スルモノナリト稱セリ、Lubarsch⁽¹¹⁰⁾ハ先天性微毒兒ニ之ト類似ノ間質組織ノ脂肪沈着ヲ認メテ、胎兒、初生兒、哺乳兒ノ腎臟ニハ時ニ脂肪滴ヲ攝取セル紡錘形結締織性細胞ノ發現ヲ主唱シ、而シテ其發現脂肪ハ中性脂肪トハ性状ヲ異ニシテ、「ニールプラウズルファート染色ニ暗青色又ハ董青色ヲ呈シ、Smith氏法ニヨリ陽性ヲ示セリト云フ。加之子宮内ニ於テ死亡セル死産兒ニ於テ是等病ノ脂肪沈着ノ多ク觀察セラルル事實ハ蓋シ組織成分ノ自家分解作用ニ因リテ斯クノ如ク間質組織内ニ脂肪ノ發現ヲ惹起スルナラントセリ。然レドモ余ガ檢査例ハ3例トモニ其病歴ニヨレバ子癩發作數回後胎兒心音ノ消失ト同時ニ直ニ鉗子分娩ニヨリテ人工的ニ娩出セラレシモノナルガ故ニ、是ヲ以テ直ニ自家分解作用ノミニハ歸シ難シ。而シテ同氏ハカカル際發ノ缺乏ガ與ツテカアルモノナラントセリ。然ルニ余ガ檢査セル對照ノ8例ニ於テ同様ニ死産兒ナルニ拘ラズ何等間質脂肪沈着ヲ認メザルヨリ推ストキハ、母體血液内脂肪含量ノ増進ト一方代謝異常ニヨル毒性產物ノ胎兒血行内輸入ニヨリ恰モ磷中毒ノ際ニ於ケルガ如ク胎兒體內ノ脂肪移動ヲ惹起シ、間質組織ニ脂肪沈着ヲ發現スルモノナリト考フルヲ妥當トスベシ。

ロ。髓質間質組織内脂肪沈着

髓質鬆粗結締織ニ於テ脂肪浸潤ヲ比較的高年者ノ際ニ認ムルコトハ生理的ノ現象ナリ。之ガ分布狀態ニヨリ分類センカ、一ハ瀰蔓性浸潤ニシテ、一ハ滴狀沈着ナリ。而シテ更ニ部位的ニ區別スレバ、髓線間ノ鬆粗結締織ニ髓線ニ平行シテ中性脂肪及「リポイド物質」ハ瀰蔓性浸潤ヲ示シ、一方結締織細胞及結締織纖維ニ散在性ニ微細顆粒狀ヲナシテ沈着スルアリ。

ハ。如何ニシテ間質内ニ脂肪浸潤ヲ來スベキカ

此問題ニ關シテ、Babes⁽¹⁰⁾ハ絲毳體及「アテローム」様變化ニ陥レル動脈並ニ水腫狀或ハ硝子様變性ヲ呈セル結締織ニ瀰蔓性又ハ滴狀沈着ヲ認メ、血管ヨリスル滲漏作用ナリトセリ。Prym⁽¹³⁷⁾亦其間質ニ於ケル脂肪浸潤ガ主トシテ血管周圍ニ局限セルヲ認メ、血液循環障礙ガ其主因ナルコトヲ説キタリ。余モ亦磷中毒ノ1例(第194例)ニ於テ他ノ2例ヨリモ間

質脂肪浸潤ノ多量ナルヲ認メ、是ガ原因ヲ其間質組織ガ他ノ例ニ比シテ水腫狀變化ニ陥レルコト強度ナル點ニ鑑ミ前二氏ト同様ニ考察セリ。

然ラバ血行ニヨリテ沈着セル脂肪ニ於テ、其腎上皮ニ沈着セル脂肪ト間質ニ沈着セル脂肪トノ間ニ其種類ニ甚ダシク徑庭ノ存スルヲ認ムル事アルヲ如何ニ説明スベキカ。Wail⁽¹⁸³⁾ガナセル實驗成績ハ之ガ解説ニ便宜アルヲ思考セシム。即チ氏ハ人屍ノ皮下脂肪(中性脂肪)ヲ家兎ニ移植シ、其部位ニ惹起セラレシ肉芽腫中ニ含マルルモノハ一定期間後ニハ「フォスファチーデ」ノ性状ヲ呈シ更ニ「ヒョレステリンエステル」ニ變ゼルヲ認メタリ。之ニ反シ「ヒョレステリンエステル」ニ富メル副腎皮質ノ移植ニヨル肉芽腫ハ化學的分解作用ヲ起シ「フォスファチーデ」ニ變ジ其際中間分解産物トシテ「ヒョレステリン」ノ析出ヲ認メタリト。斯ノ如キ實驗ハ能ク這般ノ消息ヲ語ルニ足ルモノニシテ、周圍組織ノ反應ガ含有脂肪體ノ性状變化ニ與ツテカアルヲ示セリ。カカル關係ハ腎臟ニ於ケル含有脂肪ノ異ル事ヲ一定度迄説明シ得ラルルモノナリト信ズ。

ニ. 間質脂肪沈着ト年齢並ニ疾病トノ關係

腎臟間質ニ於ケル脂肪沈着ハ一般ニ比較的年長者ニ於テ認メラルル所ニシテ其年齢ノ増加ト比例シテ出現率ノ高度ナルハ諸家(Prym^(前出), Lubarsch⁽¹¹⁰⁾, 瀨川^(前出), 服部⁽⁵²⁾等)ノ報告ノ一致スル所ナリ。余ガ全例ノ200例中103例ニ於テ是ガ出現ヲ認メ、最モ幼少ナルモノトシテ、生後僅ニ3ヶ月ノ先天性微毒兒ノ1例ニ於テ著明ニ間質ニ認メタリ。其他ハ一般ニ哺乳兒及小兒ニ於テハ認メザリキ。其年齢ニヨル出現率ハ次ノ如シ。

15歳以上20歳迄9例	21歳以上30歳迄9例	31歳以上40歳迄22例
41歳以上50歳迄17例	51歳以上	46例

而シテ其年少ナル9例中白血病、紫斑性出血病ノ17歳ノ各1例其他18歳ノ遲發先天性微毒兒例、其他粟粒結核及「チフス」ノ年少ナル例ニ於テハ著明ノ腎臟實質炎ヲ伴ヘリ。其他ニ於テモ比較的年少ナル例ニ於テハ腎臟實質組織ニ著シキ變性ヲ認ムル場合ニ多シ、其他心臟瓣膜症ノ如キ血液循環障礙 Banti 氏病、白血病、再生不能性貧血ノ如キ惡性血液病、又微毒性疾患ニ於テ比較の間質内脂肪沈着量ノ大ナルヲ知レリ。尙動脈硬化症及惡性腫瘍例ニテハ其殆ド總テニ於テ間質内脂肪沈着ヲ認ムルハ比較的年長者ニ是等疾患ノ多キト又動脈血管ノ變性及腎臟間質ニ於ケル組織的變化ノ著シキ等ガ原因スルナラン。

7. 血管ニ於ケル中性脂肪

一汎ニ葉間腎動脈ノ細枝ニ於テ硬變性變化ヲ呈シ、肥厚セル内膜ニ於テ其結締組織纖維及内被細胞ニ滴狀又ハ小塊狀ヲナシテ脂肪ノ浸潤アルヲ認メ、又内弾力板ニ於テ屢限局性ニ又瀰蔓性ニ浸潤シ、其部ヨリ多クハ内方内膜層ニ續キテ脂肪浸潤アルヲ認ム、而シテ之等脂肪ハ主トシテ中性脂肪ナレドモ、亦「リポイド物質」ノ混在ヲモ證シ、時ニ重屈折性物質ヲ沈着セリ。

血管外膜ニ於テハ往々其結締織内ニ脂肪滴ノ沈着ヲ認メタリ。

8. 中性脂肪ノ出現率

中性脂肪ノ出現率ニ就テ第4, 第5, 第6表ヲ參照スルニ, 主管部ニ於テハ他ノ「リポイド物質及重屈折性物質」ヨリモ多量ニシテ, 其他ノ部位ニ於テハ混合シテ存ス, サレド其混合ノ率ハ疾患ニヨリテ異ナリ, 結核症, 悪性腫瘍, 精神病, 或種脚氣症, 放線狀菌病, 黴毒ノ如キ慢性消耗性疾患ニ於テ一般ニ「リポイド物質」ヨリモ中性脂肪ノ出現度高キヲ知レリ. 同様丹毒, 腸チフス」ノ如キ急性熱性傳染病ニシテ細菌毒素ニヨリ腎上皮ノ變性ヲ伴フモノニ於テモ中性脂肪ノ發現著明ナルヲ確メタリ. 其他磷中毒ノ亞急性例ニ於テ中性脂肪出現ノ多量ナルコトハ既ニ其條下ニ於テ詳述セル所ナリ.

第二項 狹義ノ「リポイド物質」

余ガ茲ニ狹義ノ「リポイド」ト稱スルハ其顯微物理的化學的性質ニ於テ中性脂肪及重屈折性脂肪ニ屬セザル類脂肪體ニシテ, 「フォスファチーデ」タル「ケファリン」「レチチン」等又脂肪酸及鹼化物等ヲ總稱シテ是ガ部類ニ隸屬セシメタリ, 而シテ今日吾人ノ用フル顯微化學的方法ニヨリテハ, 是等各成分ヲ明確ニ類別シ難ク, 特ニ動物組織内ニ於テハ「リポイド物質」ハ各易變性ノ状態ニアリテ, 容易ニ分解, 集成等ノ化學機轉ガ其組織内ニ於テ行ハルモノナル事ハ諸學者ノ研究ニヨリテ明カナル所ナリ, 加之余ガ檢索セル材料ノ如キ比較的長期ニ亘リ「フォルマリン」中ニ貯藏セラレシモノモアレバ, カカルモノニアリテハ其蟻酸成分ノ如キニヨリテ種々ノ化學的變化ヲ呈スルコトハ Boeminghaus⁽²⁴⁾ノ稱セシ處ナリ. 又 Kaufmann und Lehman⁽⁷⁵⁾⁽⁷⁷⁾ハ化學的純粹ナルモノノ種々ノ混合物ニテ各種脂肪染色法ヲ試ミ, 是等脂肪染色法ニヨリテ同種脂肪體モ其混合關係ニヨリ種々ノ異ナレル色調ヲトリ同一脂肪物質ガ同一染色法ニヨリテ時ニ陰性ノ結果ヲ來スコトアルハ脂肪酸及「グリツェリーデ」ノ飽和度ニ關係スト稱シ, 是等成績ヨリ歸納シテ, 組織内ニ於ケル脂肪物質ノ混合状態ニヨリテハ絶對的ニ其染色法ノ特異ナラザルコトヲ指摘セリ. 而シテ余ハ Aschoff^(前出), 川村⁽⁷⁹⁾⁽⁸⁰⁾, Kaufmann und Lehmann^(前出)等ノ諸家ノ脂肪染色ニ關スル業績ヲ參照シテ, Smith-Dietrich氏法ニ一汎ニ陽性ニシテ, 時ニ Fischler 氏法ニ陽性ヲ呈シ, Ciaccio 氏法ニハ陽性又ハ陰性ノモノヲ「リポイド物質」トシテ分類セリ.

而シテ「ズダン III 染色」ニヨリテハ赤色又ハ黃赤色ヲ呈シ「ニールブラウズルファート」染色ニハ一般ニ青色乃至靑青色ヲ示シ「ノイトラールロート」加温染色ニヨリ帶褐赤色ヲ呈スルモノヲ少數例ニ於テ認メタレド, 一汎ニ「ノイトラールロート」染色ニヨリテハ陰性ヲ呈セリ.

而シテ「リポイド物質」ガ各種疾患ニ際シ腎臟組織内ニ出現スル關係ハ第5表ニ示スガ如シ.

第五表 各種疾患ノ際ニ於ケル狹義ノ「リポイド物質」出現率

病名	部位	絲毬體	主管部	Itenle 氏關係	潤管部	集合管	間質	血管
		多少	多少	多少	多少	多少	多少	多少
結核症(33例)		例 2例	1例 1例	例 3例	例 1例	例 例	1例 4例	例 2例
悪性腫瘍(25例)		1 6	2	1 8	7	1	8	4

精神病(21例)		1	1	1	12	2	8	4	3	4		
動脈硬化症(21例)	1	10		10	3	14	1	10	2	9	11	3
脚氣(6例)					1		1	1	1	1	1	1
心臟瓣膜病(4例)				1	1		1	1		3		1
Banti氏病(4例)						2						1
白血病(3例)				1		3	1		3		2	
再生不能性貧血(4例)		1			3	1	1	2				1
出血性紫斑病(1例)				1								
黄疸(膽石)(2例)	1	1	1	1	1	1	1	1				
肝硬變症(4例)		1			1	1		1			2	
糖尿病及尿崩症(3例)				2	1		1			1		1
放線狀菌病(2例)												
黴毒(7例)				2	1	1	2	1	2			
脊髓癆(3例)	2			1		3	3	1	3			1
丹毒及敗血症(4例)	2	1			1	1	1	1	2		1	
腸チフス(11例)	1					4	3	2	1			1
腦膜炎(5例)				1		3	2		1		1	
破傷風(2例)				1		1	1	1	1			
子癇(4例)	2				1	1	1	2				1
急性出血(2例)												
急性腹膜炎(3例)												
初生兒メレナ(2例)					1		1					
消化不良(5例)												
初生兒鞏硬症(2例)												
浮腫(2例)												
火傷(1例)											1	
中毒症(5例)	4	2	1	2	2	3	2	2	2	4		1

1. 絲球體ニ於ケル「リポイド物質

既ニ中性脂肪ノ條下ニ於テ述ベタルガ如ク、微細顆粒狀ヲナシ血管蹄係内被細胞核ノ周圍ニ時ニ瀰蔓性雲狀ヲナシテ細血管ヨリ輸入血管ニ更ニ其血管蹄係壁ニ亘リ沈着セルモノヲ認ム。

2. 細尿管ニ於ケル「リポイド物質

主管上皮細胞ニ於テハ上述ノ如ク中性脂肪ノ沈着ヲ主トシテ現シ來レドモ、其中性脂肪ガ粗大滴狀ヲナシテ瀰蔓性ニ多量ニ出現スル際ニ於テハ、其中性脂肪滴ノ周邊ニ又少ナル脂肪滴ノ混在セル際ハ其脂肪滴全部ガSmith氏法ニヨリテ屢陽性ヲ呈スル場合アルヲ認メタリ。

Henle氏蹄係部、潤管部ニ於テハ中性脂肪ニ比シ年長者ニ於テ「リポイド物質ノ出現度高キヲ認ム、之ニ反シ年少者及結核性疾患等ニ於テハ却テ中性脂肪ノミヲ認ムル事多シ。集合

管ニ於テハ何等範ルベキモノ存セズ、一般ニ其他ノ部位ノ脂肪ト同種ノモノヲ認ムルコト多シ。

3. 間質並ニ血管ニ於ケル「リポイド物質

間質及血管壁ニ於テハ一般ニ中性脂肪ノ沈着ヲ多ク認ムレド、時ニ「リポイド物質ヲモ可ナリ多量ニ混在スルコトアルハ前述ノ如シ。

4. 「リポイド物質ノ出現率

腎疾患中急性腎疾患ノ際ハ主トシテ中性脂肪ノ沈着ヲ認メ、慢性腎疾患ニテハ主ニ「リポイド物質ガ其腎組織内ニ出現スルハ余ガ既ニ腎臓炎ノ條下ニ記載セル所ニシテ、瀨川^(前田)等諸家ノ成績亦之ニ一致セリ。而シテ一方各種疾病トノ關係ニ至リテハ第5表ニ示スガ如ク、結核、悪性腫瘍、精神病、或種脚氣症ノ如キ慢性消耗性疾患ニ於テ中性脂肪ヨリハ著シク少量ナルヲ認メ、其他ノ急性疾患ニ於テ一般ニ其出現ヲ認メザルカ、認ムルモ極メテ少量ナルヲ知レリ。之ニ反シ動脈硬化症ニ於テハ「リポイド物質出現量ガ中性脂肪ヨリ多キヲ認メタリ。

第三項 重屈折性物質

吾人ガ分極装置顯微鏡ニヨリ顯微物理的ニ證明シ得ル人體及動物體組織ニ於テ重屈折性物質ハ化學上「ヒョレステリンエステル」及「ヒョレステリン」脂肪酸ノ混合物ナルコトハ Aschoff^(前田)、川村^(前田)其他多數學者ノ研究ノ示ス所ナリ。而シテ是等物質ノ顯微化學的及物理的性質ニ關シテハ川村ガ1911年單行本中ニ詳細記載セル所ニシテ、茲ニ敢テ喩々ヲ要セザルベシ。

而シテ余ガ検査ニ供セシ材料ノ如ク「フォルマリン液中ニ固定セラレシ組織ニ於テハ川村^(前田)、瀨川^(前田)ノ言ヒシ如ク是等重屈折性物質ハ一般ニ微細ナル針狀或ハ刷子狀ノ結晶塊ヲナシテ、細胞内或ハ細胞外ニ分極光線ニヨリテ光輝アル重屈折像ヲ呈シ、加温ニヨリテ消失シ、冷却後重屈折像ヲ再現スルモノニシテ、其際或ルモノニハ十字像ヲ呈セリ。然レドモ余ガ検査例ニ於テハ十字像ヲ呈スルモノハ少數例ニ於テ僅ニ認メタリキ、近頃川村⁽⁸⁵⁾ハ人體各臟器ノ組織内ノ重屈折性物質ヲ特殊ノ加温装置ヲ用ヒテ検索シ、攝氏100度ヲ限界トシテ消失シ、或ハ保存セラルル二種ノ重屈折性物質ヲ別テリ、而シテ攝氏100度以下ニテ重屈折像ヲ消失スル重屈折性物質ハ主トシテ「ヒョレステリン」ト脂肪酸混合物ニシテ、攝氏100度ニシテ尙重屈折像ヲ保存セル物質ハ「ヒョレステリンエステル」ニ該當スト稱セリ。

而シテ余ガ材料ノ如ク人體剖檢材料ニ於テハ組織成分ノ死後ニ於ケル自家分解作用ノ影響ハ避ケ難キ事實ナリ、然ラバ Aschoff⁽⁸⁾ノ稱スル「ミエリン」(nekrotische und autolytische Myline)ノ形成セラルベキハ考ヘラルル所ナリ、而シテ是等「ミエリン物質ノ顯微化學的性質ハ川村⁽⁷⁹⁾、瀨川⁽¹⁵⁸⁾等ニヨレバ「ズダン III ニヨリテ黄赤色ニ、「ニールブラウズルフェート」ニ葦赤乃至葦青色ニ、「ノイトラールロート」ニハ加温ニヨリ弱陽性ヲ示シ Smith 氏法ニヨリ陽性ヲ呈シ、重屈折像ノ出現ハ一定セズ、而シテ重屈折像ヲ呈スルモノト雖モ僅カノ加温ニヨリテハ消失セズト稱セリ。加之 Aschoff^(前田)、川村^(前田)等ハ上述死後ニ來ル組

織成分ノ自家分解ニヨリテ形成セラルルモノノ他ニ、其組織ノ攝取シ、沈着セル中性脂肪ノ分解並ニ脂肪酸ノ遊離、細胞核ヨリ遊離セル「リポイド物質」ノ脂肪滴周邊ヘノ沈着等ニヨル Aschoff ノ所謂「パラミエリン」(Paramyeline) ノ存在ヲ是認セリ。Löhlein⁽¹⁰⁶⁾ (107) 亦磷中毒ノ際ニ認ムル腎上皮内重屈折性物質ヲ以テ之ヲ「プロタゴン」(Protagon) トセリ。然レドモ比較的陳舊ナル余ガ検査材料ニ於テハ、屢其重屈折性物質ヲ各個ニ就キテ嚴密ニ判別スルニ困難ナル例ニ遭遇セリ。斯ル際ハ死後剖檢迄ノ經過時間及其組織的變化ヲ顧慮シテ之ガ判定ノ資トセリ。次デ是等重屈折性物質ノ各部位ニヨル分布關係並ニ各疾患ニ於ケル出現率ハ第6表ニ表示スルガ如シ。

第六表 各種疾患ノ際ニ於ケル重屈折性物質出現率

病 名	部位		絲毳體		主管部		Henle氏 蹄 係		潤管部		集合管		間 質		血 管	
	多	少	多	少	多	少	多	少	多	少	多	少	多	少	多	少
結 核 症(33例)	例	例	1例	1例	1例	3例	例	1例	例	例	例	例	例	例	例	例
惡 性 腫 瘍(25例)	1	8	5	4	1	9	1	5	1	9						4
精 神 病(21例)	1	10	3	7	5	5		2		9			1			1
動 脈 硬 化 症(21例)		11	5	7	5	8	2	5	3	8			2			
脚 氣(6例)		1	1	2	1	2				2						
心 臟 瓣 膜 病(4例)		3	1			1				2						
Banti 氏 病(4例)										2						
白 血 病(3例)																
再生不能性貧血(4例)			1					1								
出血性紫斑病(1例)																
黃 疸 (膽 石)(2例)				1		1										
肝 硬 變 症(4例)	1	2	1	2	3	1	3		1	3					1	1
糖尿病及尿崩症(3例)		1		2		1				1						
放 線 狀 菌 病(2例)																
徽 毒(7例)	2		2		2	1		1	1	1						
脊 髓 癆(3例)	1		1		1			1		1						
丹 毒 及 敗 血 症(4例)	2		2		1	1			1				1			
腸 チ フ ス(11例)	2			1		2	1			1						
腦 膜 炎(5例)	3			5		3				1						
破 傷 風(2例)	1			2		1										
子 癇(4例)	2					2		1		1						1
急 性 出 血(2例)	1					1										
急 性 腹 膜 炎(3例)	1		2			2				2			1			
初生兒メレナ(2例)																
消 化 不 良(5例)				1		1										
初生兒鞏硬(2例)																
浮 腫 症(2例)																
火 傷(1例)																
中 毒 症(5例)	2		3	1	2	1		3		2		1	2			1

1. 絲毳體ニ於ケル重屈折性物質

絲毬體ニ出現スル重屈折性物質ハ其量一汎ニ多カラズシテ、微細針狀形ヲ呈シ、「ヒョレステリンエステル」「ヒョレステリン」脂肪酸混合物ヲ多ク認ム。血管蹄係面ニ沈着ヲ認ムルコト多ク、時ニ其蹄係間ニ又 Bowman 氏囊壁上皮細胞内ニ一ニ例ニ於テハ其纖維膜ニ沈着ヲ認メタリ。又或ル例ニ於テハ其 Bowman 氏囊腔内ニ上皮細胞ニ接着シテ存在スルヲ認メ、血管蹄係内白血球ニ攝取セラレシガ如キ觀ヲ呈シ沈着セル場合モ存セリ。

而シテ重屈折性物質ノ出現セル絲毬體ハ其血管蹄係ノ硬變ニ陥レルカ又ハ水腫狀變性ヲ呈セル場合多シ。

2. 細尿管ニ於ケル重屈折性物質

主管部ニ於ケル重屈折性物質ニハ「ヒョレステリンエステル」及「ヒョレステリン」脂肪酸ノ混合物ノ他ニ「ミエリン」並ニ「プロタゴン」ニ相當スベキ重屈折性物質ノ出現アルヲ認メタリ。其排列狀態ハ一般ニ他ノ細尿管部位ヨリモ稍粗大ナル針狀又ハ刷子狀ノ結晶形ヲ呈シ、基礎膜及上皮細胞基底部、上皮細胞ノ管腔遊離面、或ハ管腔内ニテ上皮細胞ニ接着シテ存在スル場合多キヲ認メ、一汎ニ規則的ニ瀰蔓性沈着ヲ呈セリ。

Henle 氏蹄係、潤管部、集合管ニ於テハ其出現度主管ニ比シテ少クシテ、主トシテ「ヒョレステリンエステル」及其脂肪酸混合物ヲ多ク認メタリ。其分布狀態モ一般ニ粗ニシテ、其上皮細胞基底部、基礎膜部及管腔内上皮細胞遊離端ニ多ク認メタリ。其他直細尿管腔内ニ於テハ變性ニ陥リ脱落セル上皮細胞内ニ重屈折性物質ノ沈着ヲ認メ或ハ「ズダン III」ニテ淡ク黃赤色同質性ニ染色セル硝子樣圓柱ニ於テ單屈折性脂肪ト共ニ屢重屈折性脂肪ノ少量ヲ認メタリ。

3. 間質ニ於ケル重屈折性物質

間質ニ於テハ第 6 表ニ示スガ如ク動脈硬化症及中毒症ニ於テ各 2 例ニ認メシ他ハ、精神病、丹毒症、急性汎發性腹膜炎ノ例ニ於テ各 1 例ニ認メシニ過ギズシテ、其沈着部位ハ皮質及髓質ニ於テ基礎膜ニ接着シ、又ハ毛細管壁及細血管周圍ニ於テ僅少量ニ認メタリ。

4. 血管ニ於ケル重屈折性脂肪

血管ニ於テハ惡性腫瘍ノ 4 例、肝硬變症ノ 2 例、精神病及子癇並ニ中毒症ノ各 1 例ニ於テ認メタリ。而シテ其部位ハ毛細管腔内ニ針狀ヲ呈シ、又時ニ内膜面僅ニ外膜纖維内ニ又或 1 例ニ於テハ其内彈力板部ニ弧狀ノ重屈折性物質ノ沈着ヲ認メタリ。而シテ惡性腫瘍及肝硬變症ニアリテハ年長者(余ガ例ハ 39 歳乃至 54 歳)ニシテ其血管壁ニ硬變性變ヲ呈セルモノナリ。精神病、子癇及中毒症ニ於テハ比較的年少ノモノニシテ、是等ノ場合ハ重屈折性物質ヲ主トシテ毛細管腔内ニ於テ認メ、生前ノ「ヒーペルヒョレステリネミー」ニ由來スルモノト認メラルモノナリ。而シテ表ニ示スガ如ク、血管内出現量ハ其他各部位ノ出現量ト比例スルヲ知レリ。

5. 重屈折性物質ノ出現ト腎臟疾患並ニ各種疾患トノ關係

今腎臟ニ於ケル「ヒョレステリンステアトーゼ」ニ關スル文獻ヲ按ズルニ、Kaiserling und Orgler⁽⁷²⁾ハ澱粉樣腎及太白腎ニ於テ證明シ、其後 Löhlein^(前出)ハ腎脂肪變性及同様澱粉樣

腎ニ於テ認メ、而シテ氏ハ急性腎炎ニ於テハ腎上皮細胞ノ基底部分ニ於テ之ヲ認メ、間質ニ於テハ淋巴管内被細胞ニ於テ是ガ沈着ヲ認ムト稱セリ。Prym^(前四)ハ澱粉様腎並ニ糖尿病腎及子癇腎ニ於テ之ヲ認メ、瀨川^(前四)亦慢性腎疾患ノ際ニ重屈折性物質ノ出現ヲ證シ、而シテ急性腎疾患ニ於テ認ムル重屈折性物質ハ多ク「ミエリン」ナリトセリ。Iwantscheff^(前四)ハ2例ノ肝硬變症ニ於テ「ヒヨレステリンエステル」ヲ認メ又急性慢性ノ腎疾患ニ於テ「ヒヨレステリン」脂肪酸ノ混合物ヲ認メタリ。而シテ間質ニ重屈折性物質ノ存スル際其周圍細尿管上皮ニ多量ノ重屈折性物質ノ沈着ヲ認ムル點ヨリ、壞死セル上皮細胞ヨリ吸收機轉ニヨリテ沈着スルモノナリトセリ。上述ノ如ク一般ニ腎疾患ニ於テハ澱粉様腎並ニ太白腎ノ如キ腎實質ニ變化ヲ惹起セル際及慢性間質性腎炎ニ於テ「ヒヨレステリンエステル」ノ出現ヲ認ムル事ハ諸家ノ等シク説ク所ナリ。余ガ例ニ於テモ萎縮腎及慢性間質炎ニ急性實質炎ヲ伴ヒタル例及澱粉様變性ヲ來セル腎臟ニ於テ高度ノ重屈折性物質ノ出現ヲ認メタリ。

イ。「ヒヨレステリネミー」ト腎臟「ヒヨレステリンステアトラーゼ」トノ關係

次ニ「ヒヨレステリネミー」ト腎臟「ヒヨレステリンステアトラーゼ」トノ關係ヲ顧慮センニ、疾病ニヨリ血液ノ「ヒヨレステリン」含量ニ増減ヲ來スコトハ諸家ノ報告スル所ナリ。Weltmann⁽¹⁸⁹⁾ハ動脈硬化症、腎臟炎、肝臟疾患、非潰瘍性腫瘍、糖尿病、二三ノ神經疾患ニ於テハ血液「ヒヨレステリン」量ノ増加ヲ認メ、Bacmeister und Hens⁽¹²⁾ハ慢性腎疾患ニ於テ一般重症状態ニ於テハ是ガ増量ヲ認メ、動脈硬化症、糖尿病殊ニ其昏睡状態ニテ死亡セル例ニ於テ増加著シト、其他肥胖症、尿崩症、傳染性疾患ニ於テハ「チフス」、丹毒、敗血症ニ於テ一般ニ高熱時ニ減少ヲ認メ、下熱ト同時ニ増加ヲ來スト。慢性結核及惡性腫瘍ニ於テモ一般ニ惡液質ニ陥リシ末期ニ於テハ減少スレド、其初期ニ於テハ輕度ノ増加ヲ認メ。心臟瓣膜病及脊髄疾患ニ於テハ、正常ト大ナル差異ヲ認メズトセリ。而シテ川村⁽⁸⁰⁾⁽⁸⁴⁾ガ人體副腎及大腦ニ就テ檢索セル結果ハ壞血症、腸チフス、「バラチフス」、骨髓性白血病、子癇ノ際ニ於テ副腎皮質内ノ「ヒヨレステリンエステル」含量ノ減量ヲ證明シ、麻痺狂ニ於テ大腦ノ透明三角ノ隔及穹窿柱ノ皮質ニ於ケル「ヒヨレステリン」含量ノ生理的含有量ヨリ増加スルヲ認メ布瀨⁽³⁸⁾ハ麻痺狂ノ4例ニ於テ肝臟内ニ「ヒヨレステリン」脂肪酸ノ中等量ノ出現ヲ認メタリ。

其他 Beumer⁽²¹⁾ハ小兒及哺乳兒ニ於テ血液内「ヒヨレステリン」含有量ヲ檢索シ貧血時ニ於テ減少ヲ認メ、結核性疾患ニ於テ増加ヲ認メ、Klemper⁽⁹¹⁾ハ重症糖尿病ニ於テ「リボイデミー」ヲ證明シ、Bauer und Skutezky⁽¹⁴⁾ハ微毒ノ際ニ血液内「リボイド」ノ中等度ノ増加ヲ認メタリ。

而シテ余ガ檢査例ニ於ケル各種疾患腎臟内重屈折物ノ出現率ト上述諸家ノ是等疾患ノ際ニ於ケル血液内並ニ他臟器内ニ於ケル出現度トヲ對照比較スレバ凡ソ一致ヲ認ムル所ナレド、糖尿病ノ2例、人工分娩後子宮出血ニヨリ死亡セル2例ニ於テ少量ナルハ、川村⁽⁸⁴⁾ガ糖尿病ノ際副腎皮質脂肪ノ減少ヲ認メタル例ハ壞血性或ハ慢性結核性疾患ノ合併セルモノニテ、之ト同様ノ關係ニ立ツモノナラン。然レドモ余ガ檢索セル膽石ヲ有セル全身黃疸症ノ2例ニ

於テ、重屈折性物質ノ少量ナルハ、Bacmeister⁽¹¹⁾ガ膽囊瘻管ヨリ一日ノ膽汁量ニ就テ其「ヒョレステリン」含量ヲ定量シ、其食餌ニヨリ増減ヲ認メタル點ヨリ推想スレバ、生前「ヒーベルヒョレステリネミー」ノ存セザリシモノナラン。上述ノ試験成績ニヨリ「ヒーベルヒョレステリネミー」ト腎臟ノ「ヒョレステリンステアトーゼ」ハ一程度ノ平行ヲ示スモノナリ。

ロ. 肝臟疾患ト腎臟「ヒョレステリンステアトーゼ」トノ關係

余ガ各項ニ於テ屢述ベタルガ如ク、肝臟疾患殊ニ肝硬變症ニ於テ、腎臟「ヒョレステリンステアトーゼ」ノ著明ノ出現ハ代謝關係上興趣深キ事實ナリ。是ニ關シ Ssokoloff⁽¹⁶²⁾ハ肝硬變ヲ有セル患者ニ「ヒョレステリン」ヲ與ヘテ検査セルニ、3日以後ニ於テ著明ニ血液内「ヒョレステリン」量ノ増加ヲ認メ、而シテ是ヲ肝臟疾患ノ際ニハ外部ヨリ攝取セシ「ヒョレステリン」ノ吸收機能ノ缺乏ニ歸セリ。然ラバ是等「ヒョレステリン」ノ吸收調節ガ肝臟ノ如何ナル部位ニ於テ營爲セラルルカニ關シテハ既ニ我教室ニ於テ布瀨⁽⁴¹⁾ハ其「ラノリン」飼養家兔ニ於ケル肝臟及脾臟ノ脂肪體分布關係ヲ檢索セル際ニ主トシテ肝臟ノ Kupffer 氏星芒細胞及脾臟ノ網狀織内被細胞ガ過剰ノ脂肪體ヲ一時自個体内ニ抑留シ、其代謝關係ヲ調節スルモノナリトセリ。川村⁽⁸⁴⁾ハ靜脈内ニ注入セラレタル「ヒョレステリン」ハ約4週日後ニ於テ「ヒョレステリンエステル」ヲ形成シ其際肝臟ノ Kupffer 氏星芒細胞、脾臟ノ網狀織内被細胞及肺ノ毛細管、淋巴管内被細胞並ニ組織球細胞等ノ生活現象ガ關與スルモノナルコトヲ述ベタリ。即チ川村ノ動物實驗ニヨリテ決定セラレシ如ク、腸管内ニ於テ形成セラレシ遊離「ヒョレステリン」及「ヒョレステリンエステル」ハ門脈系統ニヨリテ肝臟組織ニ至リ、其部ノ Kupffer 氏星芒細胞等ニヨリテノ調節機能ノ障礙ハ大循環系統ヲ通ジテ腎臟ノ「ヒョレステリンステアトーゼ」ヲ惹起スルナラント考フルヲ合理的トスベシ。

第四項 類脂肪性色素顆粒

1889年 Maass⁽¹¹²⁾ガ肝臟、腎臟、心臟、副腎、睪丸及副睪丸等ニ於テ一定年齢ニ達セル際色素顆粒ノ出現スルヲ認メ、肝臟及睪丸ニ認ムルモノハ血液ヘモグロビン」ヨリ產生スルモノナランガ、心臟組織ニ於テ現ルルモノハ脂肪ヨリ形成セラルルナラント稱セリ。次デ Bittorf⁽²²⁾ハ鬱血腎ニ於テ Henle 氏蹄係部上皮細胞内ニ光輝アル黄褐色ノ色素顆粒ノ沈着ヲ認メ、之等色素顆粒ハ一般ニ鐵反應ヲ缺如スト雖モ、稀ニ該反應ヲ呈スルヲ認メタリ。而シテ氏ハ是ガ化學的性質ニ關シテハ明確ナル決定ヲ避ケタリト雖モ、氏ガ考察ニヨレバ恰モ肺臟鬱血ノ際ニ出現スル心臟瓣膜病細胞ノ色素ニ一致スベキモノニシテ、唯其腎臟ニ於テ出現セル際鐵成分ヲ含ムコト一般ニ稀ナルハ、腎臟ノ尿排泄機能ノ關係及組織的構造上鬱血ノ際肺臟ヨリモ出血等ノ尠ナキ關係等ニ由ルナラントセリ。Simon, Walter Veit⁽¹⁵¹⁾ハ大腸殊ニ蟲樣突起部ニ於テ其粘膜上皮細胞及筋層結締織ニ褐色色素ノ沈着ヲ認メ、鐵反應検査ノ陽性ナル點ヨリ推斷シテ血液色素ヨリ起原スルナラントセリ。

Rosin⁽¹⁴³⁾⁽¹⁴⁴⁾ハ神經細胞ニ就テ、Oberndorfer⁽¹²⁶⁾ハ精囊組織ノ上皮細胞、神經細胞及滑平筋細胞内ニ同様ニ色素顆粒ノ沈着ヲ認メ、其滑平筋細胞ニ存スルモノヲ除キ一般ニ「オスミユム酸及「ズダン III」ニヨリ特有ノ脂肪染色ヲ呈スル點ヨリ本色素顆粒ノ脂肪性ナルコ

トヲ論ゼリ。

阿久津⁽²⁾モ同様ニ精囊内ニ是等脂肪性色素顆粒ヲ認メ、其發現ハ一般ニ成年期以後ニシテ消耗性疾患ニヨリ全身營養ノ著シキ減退ヲ來セルモノニ多ク認ムルモノナリトセリ。Schrt⁽¹⁶³⁾、Lubarsch⁽¹⁰⁹⁾、Neumann⁽¹²⁵⁾、Mühlmann⁽¹¹⁶⁾ (117)、鹽谷⁽¹⁵²⁾ (153)、川村⁽⁸⁴⁾、服部⁽⁵⁴⁾ (55)、瀬川⁽¹⁵⁹⁾、等ノ研究ニヨリ、是等脂肪性色素顆粒ノ性狀ハ漸次明瞭トナレルガ、其脂肪ノ性質及各臟器ニヨリテノ本色素顆粒ノ性狀ニ關シテハ今日尙多少異論ノ存スル所ナリ。尙 Hueck⁽⁶³⁾ノ發表セル組織内色素顆粒ニ關スル系統的研究ハ「ヘモジデリン」、「ヘマトイデン」、「メラニン」及是等所謂脂肪含有性消耗性色素ヲ鑑別シテ其性狀ヲ稍明瞭ニスル域ニ達セリ。

而シテ Lubarsch⁽¹⁰⁹⁾ハ心筋褐色萎縮ニ於テ「ズダン」、「シヤルラッハロート」ニヨリ其色素顆粒ノ赤色ニ染色セルヲ認メ、其脂肪體ナルコトヲ知レルガ、是等色素顆粒ニ就テ Oberndorfer⁽¹²⁶⁾、Rosin⁽¹⁴³⁾ガ稱セシ如キ「リボクローム」ナル名稱ノ適當ナラザルコトヲ稱セリ。即チ氏ノ記載ニヨレバ「リボクローム」ナル名稱ハ一定ノ反應ヲ呈スル植物性脂肪顆粒(細菌、蕈類、樹葉色素顆粒)ニ附シタル名稱ニシテ、特有ナル「リボクローム」反應即チ濃硫酸ニヨリテ微細ナル青色ノ「リボチアン」結晶ヲ析出シ、沃度加里溶液ニヨリテ綠色ヲ呈スルモノナリト。而シテ人體内ニ出現スル脂肪性色素顆粒ハ多數ニ於テ該反應ヲ呈セザル點ヨリ、之ヲ脂肪含有性消耗性色素(fetthaltige Abnutzungspigmente)ト稱スルノ適當ナルコトヲ主唱セリ。

然レドモ是等「リボクローム」ハ人體組織内ニ於テ尙出現ヲ認ムルモノニシテ、Schrt^(前出)ハ黃體中ノ「ルテイン」ニ特有ナル「リボクローム」反應ヲ認メ、Neumann^(前出)ハ冬眠期ノ蛙ノ骨髓内脂肪細胞、生殖腺ノ脂肪小體中並ニ甚ダシク羸瘦セル人屍體ノ脂肪細胞中ニモ色素顆粒ノ發現セルヲ認メ、「リボクローム」ナルコトヲ證明セリ。Hueck^(前出)ハ又糖尿病、子癩(妊娠)、敗血症、急性腹膜炎等ノ「ヒョレステリン」代謝障礙時又同様ニ「ルテイン」細胞及脂肪組織中ニ之等「リボクローム」ノ出現ヲ認メタリ。而シテ同氏ハ是等脂肪含有性色素顆粒ヲ Borstノ提唱ニ隨ヒ「リボフスチン」(Lipofuscin)ト稱ヘタリ。

如上諸家ノ所説ヲ綜覽スルニ、其腎臟上皮内ニ現ルル脂肪性色素顆粒ハ「リボクローム」反應ヲ呈セザル點ヨリ、之ヲ Lubarsch^(前出)ノ稱フルガ如ク脂肪含有性消耗性色素顆粒ト稱スルノ妥當ナリト信ズ。

1. 脂肪含有性色素顆粒ノ性狀

Lubarsch^(前出)、Neumann^(前出)等ニヨリテ本色素顆粒ガ脂肪體ヨリ形成セラルルモノナルコトハ一般研究者ニヨリテ承認セラルル所ニシテ、本色素ハ化學的ニ鐵反應ヲ示サズト稱セラル、而シテ其色素顆粒中ニ含有セラルル脂肪質ハ「アルコール」其他一般脂肪溶劑ニ對シ抵抗カ強キモノニシテ、Lubarsch^(前出)ハ約1週日以上「アルコール」ニ浸漬セシモノニテ尙能ク「ズダン」ニ陽性ヲ呈スルコトヲ實驗シ、瀬川^(前出)ハ「エーテル」、「クロロフォルム」、「アルコール」等ノ脂肪溶劑ニ對シ數時間後ニ溶解シテ其色素成分ノ殘渣トシテ認ムベキコトヲ

證セリ。即チ是等色素成分ト脂肪質トノ結合状態ニ關シテハ種々ノ要約ニヨリテ必ズシモ一定ニ律シ難シト雖モ、一般ニ脂肪溶劑ニヨリテ其色素成分ト脂肪質ヲ分離シ得ル點ヨリ按ズルニ、其結合關係ハ化學上ノ構造的結合ヲ營ムモノニアラザルヲ察知シ得タリ。

顯微化學的性状

「ズダン III 染色ニヨリテ 帶褐赤色乃至暗赤色ヲ呈シ、其色素含有量ニヨリ 種々色調ヲ異ニス。

「オスミウム」ニ對シテハ川村^(出前)ハ殆ド無着染ヨリ 灰白帶黑色乃至帶黑色ヲ呈スト稱シ、瀨川^(出前)ハ一般ニ灰白帶黑色ニ染着スト言ヘリ、余ハ「オスミウム染色ヲ行ハザリシモ」ニールブラウズルファート染色ニヨリテハ一般ニ暗赤色ヲ呈セリ。

「ノイトラルロート染色ニ對シテハ 瀨川^(前出)ハ每常陰性ナルヲ認メ、此「ノイトラルロート」ハ死後ニ產生スル「ミエリン」及遊離脂肪酸並ニ鹼化脂肪ノミニ陽性ヲ呈シ、「リポイド物質」ニ陰性ナル點ヨリ 本色素顆粒ノ 生前產生物ナル 論據トセルガ、川村^(前出)ハ新鮮ナル標本ニ於テハ 微弱帶赤色乃至帶黃赤色ヲ帶ビ 多少ニ拘ラズ 陽性ナリト稱セリ、余ガ検査ニヨレバ、攝氏40度乃至50度ニテ30分間ノ加温染色ヲ施セル際、往々弱陽性ニ微弱帶赤色乃至帶黃赤色ヲ呈シテ染着セル例ニ遭遇セリ。

Fischler 氏法ニヨリ 瀨川^(前出)ハ常ニ陰性ナリト稱スレド、川村^(前出)ハ不明ナルモノ 尠ナカラザレド、大部分ニ於テ少量又ハ中等量ニ於テ認メ、著明ナル場合類稀ナリト稱セリ、余ガ検査ニヨレバ「ノイトラルロート」ニ陽性ナル場合往々之ガ陽性ヲ呈スルヲ認メタリ。

Smith-Dietrich 氏法ニ對シテハ、余ガ検査ニ於テハ其「リポイド物質含有量ノ多寡ニヨリ 陽性ヲ呈スルヲ認メタリ。

Ciaccio 氏法ニヨリテ瀨川^(前出)ハ其陽性ナルコトヲ稱セシガ、余ノ例ニ於テハ必ズシモ每常陽性ナルヲ認メ難ク、屢弱陽性ヲ認メタレド、不分明ノ場合モ亦多シ。是レ如上 Ciaccio 氏法ハ「リポイド物質」ニ特有ナル染色法ニアラズシテ、却テ其脂肪ノ結合状態ノ強固ナル點ニ起因スルナラン。

分極裝置顯微鏡ニヨリテハ其重屈折性ハ認メズ。

「リボクローム」反應ハ瀨川^(前出)、川村^(前出)ニヨルニ腎臟ニ出現スル 脂肪含有性本色素顆粒ニ於テハ認メザル所ニシテ、余モ著明ニ出現セル一、二ノ例ニ於テ試ミシガ陰性ナリキ。

脂肪含有性色素顆粒ノ發生

如上顯微化學的成績ヲ總括スルニ、川村^(前出)ガ検査セル如ク、顆粒及顆粒樣物ハ初メ更ニ脂肪反應ヲ呈セザルモ、脂肪浸潤スルニ至ラバ「ズダン」ニテ赤染ス。然レドモ此際 Fischler 氏法 Smith 氏法ニ於テトモニ陰性ヲ呈シ、全く中性脂肪ニ屬スルモノナルモ、此脂肪顆粒ハ漸次黃色ノ調ヲ加ヘ來リ、且同時ニ「リポイド」ノ反應ヲ現スニ至ル。故ニ中性脂肪ノ沈着ハ色素形成ニ先ダツコトハ明カナルモ、此色素ト類脂肪トノ關係ハ明カナラズ。Aschoff⁽⁸⁾ハ本色素ハ「リポイド物質」ノ分解ニヨリテ來ルトナシ、Hueck^(前出)モ亦之ニ賛意ヲ表シ、Obersteiner^(前出)、Mühlmann^(前出)、Lubarsch^(前出)、Sehrt^(前出)ハ同様ニ細胞ノ一種ノ脂肪變

性產物ト看做セリ。而シテ余ガ検査成績ヨリスルモ其顯微化學的ニ何等ノ規準ナク、或ルモノハ Fischler 氏法ニ陽性ニ、「ノイtralロート」ニ弱陽性ヲ呈シ、Ciaccio 氏法ニ陽性ナル點ヨリ之ヲ「レチチン」ト認ムベク、又屢 Smith 氏法ニ陽性ヲ呈スル場合即チ「リポイド物質」トシテ認ムベキ等種々ノ脂肪分化ノ階梯ヲ示シ、而シテ高年者及消耗性疾患ノ際ニ多く出現スル等ヲ考慮スレバ、細胞體內ニ含有セララル脂肪形成成分ノ其退行性營養障礙ニヨル代謝產物トシテ細胞體內ニ沈着シ、以テ顯微化學的ニ吾人ノ視界ニ現ジ來ルモノナラン。

本色素顆粒ガ其含有脂肪體ノ脂肪溶劑ニヨリテ溶解シ、尙不溶解性ノ色素成分ノ殘渣トシテ遺存スル點ハ其色素成分ト「リポイド物質」ハ何等化學構造上結合ヲ營マズシテ單純ナル脂肪ノ混合状態ニアル點ハ其「リポイド物質」ヨリ色素ノ產生スルモノニアラズシテ、寧ロ細胞核成分及原形質ヨリ代謝產物トシテ析出セラレ、是ニ脂肪質ノ浸潤ヲ將來シテ形成セララルモノト認ムベキ乎。然レドモ之等形態學の所見ノミニヨリテハ其發現ノ微妙ナル機轉ニ關シテハ尙不明ナル點多シ。

2. 脂肪含有性消耗性色素顆粒ノ分布關係

無染色標本ニ於テハ光輝アル黃色乃至帶褐色或ハ暗褐色ヲ呈シ、其結合色素ノ多寡ニヨリ色調ヲ異ニス。其顆粒ノ大サハ不同ニシテ、其油浸裝置ニヨリテ漸ク胞體內ニ認識シ得ルガ如キ微細ナルモノヨリ密集シテ顆粒性片塊ヲ呈スルモノアリ。

其最も多數ニ發現スルハ Henle 氏蹄係下行脚ニ於テ其上行脚ニ移行スル部ニシテ、核ノ兩極ニ接近シテ存ス、其上行脚ニ於テハ核ノ周圍ニ密在スルヲ認ム。潤管部ニ於テハ其脂肪顆粒ノ排列状態ト同様ニ瀰蔓性ニ他ノ部位ヨリハ微細ナル顆粒狀ヲ呈シテ散在ス。

集合管上皮細胞ニ於テハ Henle 氏蹄係部ニ比シテ其細胞體內位置ト沈着部位ニ於テ稍特有ナル點ヲ存ス。多數例ニ於テ其細胞核ト管腔トノ中間ニ位シテ存在シ、主トシテ乳嘴管ニ多く認ム。

而シテ曲細尿管(主管部)其他間質組織内ニハ絶對ニ本色素ノ出現ヲ認メザリキ。

其發生頻度ハ一般ニ Henle 氏蹄係下行脚ニ高くシテ、少數例ニ於テ潤管部及 Henle 氏蹄係上行脚、集合管ニ於テ認メタリ。

3. 脂肪含有性消耗性色素顆粒ト年齡的關係

本色素顆粒ハ一汎高年者ニ多キコトハ Sehr (前出), Lubarsch (前出), Fischer (前出), 瀨川 (前出) 諸家ノ等シク稱フル所ニシテ、余ガ検査成績ヲ表示スレバ第7表ノ如シ。

疾 病	年 齡													計	實驗例	百分率	
	初生兒	1-2歲	3-5歲	6-8歲	9-10歲	11-15歲	16-20歲	21-25歲	26-30歲	31-40歲	41-50歲	51-60歲	61-70歲				71歲-
結 核						1	5	4	1	8	1	1	1		22	33	67%
急 惡 性 腫 瘍										5	5	7	2	1	20	25	80%
性 精 神 病								1	1	2	6	2		1	13	21	67%
及 脚 氣												1			1	6	17%
慢 放 線 狀 菌 病															0	2	

慢性消耗性疾病	微毒							1			1	2			4	6	67 [#]
	脊髓癆											2		1	3	3	100 [#]
	丹毒及敗血症										1			1	2	4	05 [#]
	腸チフス							1		2	2	2	1	2	10	11	90 [#]
	急性腹膜炎											1			2	3	67 [#]
	破傷風															0	2
急性慢性貧血	急性腦膜炎														0	5	
	小兒消化不良							1							1	5	20 [#]
急性慢性貧血	Banti氏病										1	1			2	4	50 [#]
	白血病							1							1	3	33 [#]
	再生不能性貧血							1			2				3	4	75 [#]
	出血性紫斑病														0	1	
	急性出血死									1	1				2	2	100 [#]
初生兒メレナ														0	2		
中毒	磷中毒										2				2	3	67 [#]
	砒素中毒												1		0	2	50 [#]
糖尿病及尿崩症	子癇										1			1	2	3	67 [#]
	肝臟硬變症							3							3	4	75 [#]
	黄疸及膽石										1	2		1	4	4	100 [#]
	心臟瓣膜病								1		1	1			3	4	75 [#]
	腎臟炎					1				1	1	3	2	1	9	12	75 [#]
	初生兒鞏硬症														0	2	
	動脈硬化症												3	2	14	19	90 [#]
	火傷														0	1	
計		0	0	2	0	0	1	7	11	6	28	25	23	11	17	131	200
實驗例		10	5	3	1	0	5	21	13	18	36	31	24	15	17	199	
百分率				67%				20	33	84	33	78	80	90	73	100	

3乃至5歳ニ於テ2例, 11乃至15歳ニ於テ1例ヲ不定在性ニ認メ, Fischer⁽³⁴⁾ノ稱セシ如ク, 20歳以上ニ於テ定在性ニ認メタリ. 而シテ年齢ニ比例シテ増加スル傾向ヲ示スヲ認メタリ.

4. 脂肪含有性消耗性色素顆粒ト疾病トノ關係

第7表ニ示ス如ク, 慢性消耗性又ハ惡液質ヲ呈スル疾患, 結核, 惡性腫瘍, 微毒等ニ於テ多量ノ出現ヲ認メ, 脚氣, 破傷風, 急性腦膜炎等ノ如キ未ダ全身ノ消耗ニ陥ラザル前ニ急速

ニ死ノ轉歸ヲトレルモノニハ尠ナシ、其急性腹膜炎ノ急性消耗性ナルニ拘ラズ高度ナルハ、Hueck^(前出)ノ肝臟ニ於テ證セシ如ク「ヒョレステリン」代謝障礙ニ因テ來ルナラン。惡性貧血症ニ於テハ中等度ノ出現率ヲ示シ、肝硬變症、子癩、糖尿病、動脈硬化症、黃疸及慢性腎炎等「ヒョレステリン」代謝障礙ノ著明ナル疾患ニ於テ、一般ニ高度ノ出現率ヲ認メタリ。是レ蓋シ腎臟組織內脂肪出現量ノ多量ナルニ伴ヘル現象ト認ムベキナリ。

第二節 脂肪體出現部位 (Lokalisation) ニ關スル考察

脂肪體ノ出現部位ニ關シテハ各脂肪體ノ項ニ於テ論述セル所ナレド、此處ニ更ニ總括的ニ記載シテ考察スルニ、

イ。主トシテ中性脂肪、重屈折性物質ガ曲細尿管、直細尿管ニ平等瀰蔓性ニ而シテ同時ニ髓質直細尿管ニ「リポイド物質」ノ沈着ヲ認ムル場合

是ハ Hansemann⁽⁵¹⁾ノ所謂生理的瀰蔓性脂肪浸潤(sogenannte physiologische Fettinfiltration)ニ一致スベキモノニシテ、Prym⁽¹³⁶⁾ハ6例ノ營養不良兒及先天性微毒兒ニ於テ證明シ。瀨川⁽¹³⁸⁾ハ中毒ノ2例、Basedow氏病ノ1例ニ於テ認メ。尙 Hansemann^(前出)、Fischer^(前出)ニヨレバ、糖尿病腎ニ於テモ認ムト稱セリ。而シテ余ガ検査例ニ於テハ亞急性磷中毒ノ2例、生後3ヶ月及生後3日ノ先天性微毒兒(第135、第178例)、18歳ノ肺及腹膜結核ノ1例(第27例)、74歳ノ胃癌(第37例)、7歳ノ再生不能性貧血(先天性微毒ノ疑アルモノ)ノ1例(第120例)等ニ於テ認メタリ。是等ハ一汎ニ全身營養障礙及中毒ニヨリテ惹起セラレシ脂肪移動ニヨル一過性ノ脂肪沈着ト認ムベキモノニシテ、一般ニヨリ唱道セラルル如ク、腎上皮ノ核崩壞及核増殖等ノ組織的變化ノ著明ナラザルモノナリ。

ロ。Henle氏蹄係、潤管部、集合管ニ主トシテ「リポイド物質」ノ系統的沈着ヲ惹起スル場合

是ハ Fischer^(前出)ノ所謂生理的脂肪ト稱スルモノナリ、而シテ氏ハ150例中、36例ノ正常腎及3例ノ急死例ニ於テ之ヲ證明セリ。Biasi^(110ニ據ル)ハ自殺ノ爲メ突然死亡セルモノノ健康腎ノ62例中、26例ニハ脂肪ノ沈着ヲ認メズ、36例ニ於テ是等ノ部位ニ系統的脂肪沈着ヲ認メタリト云フ。瀨川^(前出)又3例ノ急死例ニ於テ是等所見ヲ認ムトセリ。而シテ是等所見ハ初生兒及小兒期ニ於テ認メズシテ、成人腎ニ於テ一汎ニ認ムル所ナルハ諸家ノ所見ニテモ余ガ検査例ニ於テモ認メラルル所ナリ。而シテカカル生理的系統的脂肪沈着ノ際ニ於テハ、腎臟ノ病變及腎上皮ノ機能障礙ヲ認メズシテ、全身營養狀態及全身代謝關係ニヨル一時性脂肪沈着及循環障礙ニ由リ惹起セラレシ脂肪沈着ト認ムベキモノナラン。如斯見地ヨリ余ガ検査例中其著明ナル腎臟疾患ヲ除外セルモノニ於テ各疾患ノ際ニ於ケル腎臟組織ノ脂肪沈着狀態ヲ綜括スルニ結核、惡性腫瘍、精神病、放線狀菌病、脊髓癆、微毒(先天性微毒ヲ除外ス)ノ如キ長期ニ亘リ營養障礙ヲ呈シ惡液質ニ陥ル場合ニ於テハ其經過ノ時期ニヨリ脂肪出現度ニ著明ナル消長ヲ認ムルコトハ勿論ナリ。余ガ例ニ於テモ是等疾患ニ於テハ結核、惡性腫瘍、精神病ノ各2例、先天性微毒例ノ如キ主管部ニモ脂肪沈着ヲ認メシ前述ノ場合ニ該當スベキモノヲ除キ、一汎ニ主トシテ中性脂肪ヲ、尙「リポイド物質」ノ少量ヲ混在シテ、潤管部 Henle氏蹄係ニ於テ是等系統的沈着ヲ認メタリ。其出現量ハ其個人ノ營養狀態及年齡ノ關係等諸種

ノ要約ニヨリ不同ノ存スルヲ知レリ。

次ニ循環障碍ヲ來ス心臟瓣膜病、脚氣ノ際ニ認ムル鬱血腎ニ於テハ Prym^(前出)、Fischer^(前出)、瀨川^(前出)等ハ其一定セルモノヲ認メズシテ、其鬱血ノ持續及程度ニヨリ差異アルヲ稱セリ。余ガ検査例ニ於テモ其鬱血ノ高度ナル脚氣ノ1例(第104例)、心臟瓣膜病ノ1例(第110例)ニ於テ主管上皮ニモ高度ノ脂肪出現ヲ認メタレド、其他ニ於テ一般ニ生理的沈着ノ状態ヲ呈セリ。

Banti氏病、再生不能性貧血、白血病、出血性紫斑病ノ如キ慢性悪性血液病ト分娩後子宮出血及初生兒メレナ¹⁾ノ如キ急性貧血ニ於テ其關係ヲ觀ルニ、Nauer⁽¹²⁴⁾ハ悪性貧血ニ於テ屢著明ノ或ハ少量ノ脂肪沈着ヲ認メ、Paszkiwicz⁽¹³³⁾ハ同様脂肪沈着ノ少量、Prym^(前出)、Fischer^(前出)モ略ボ同様ノ所見ヲ認メ、瀨川^(前出)ハ持續的貧血ニヨリ腎上皮ノ營養障碍ヨリスル變性ノ爲メ高度ノ脂肪沈着ヲ認ムトセルコト既ニ其貧血症條下ニ詳説セルガ如シ。余ガ例ニ於テモ先天性微毒ノ疑アル再生不能性貧血ノ1例(第120例)ヲ除キ一般ニ生理的脂肪沈着ノ状態ヲトレリ。其出現度ノ多少ハ其貧血ニヨル營養障碍ト比例スルガ如シ、急性貧血ニ於テハ是ヲ一ノ定期ニ律シ難ケレドモ一般ニ主管部ニ於テ可ナリ高度ノ中性脂肪出現ヲ認メタリ。

丹毒、敗血症、腸チフス²⁾ノ如キ急性熱性傳染病、重症ナル小兒消化不良症、急性腦膜炎、破傷風、急性汎發性腹膜炎ノ如キ急性又ハ亞急性ノ經過ヲ以テ營養障碍ヲ來ス疾患ニ於テモ、其實質炎ノ著明ナル丹毒症及腸チフス³⁾ノ1例ヲ除キ、一般ニ中性脂肪ヲ Henle氏蹄係、潤管部ニ認メ、其營養關係、個人的關係ニヨリ其出現度ヲ異ニセリ。

ハ. 主トシテ迂曲細尿管ニ不平等ニ脂肪沈着ヲ認メ直細尿管ニハ全ク沈着ヲ認メザルカ存スルモ極メテ少量ナル場合

是ニ該當スル例ヲ急性細尿管糸絨體腎炎ノ1例及膿微毒ニ來レル大葉性肺炎ノ1例、初生兒メレナ⁴⁾ノ1例及消化不良症ノ2例、脊髄癆ノ1例等ニ認メタリ。是等ハ余ガ全例ヲ通ジテノ考察ニヨレバ一過性ノ循環障碍ニヨル鬱血或ハ貧血等ニヨル腎上皮ノ營養ノ如何ニ關與スルモノナラン。

ニ. 其他各部位ニ不平等ニ限局性脂肪沈着ヲ認ムル場合はハ一汎腎臟疾患ニ來ル場合ニシテ、腎臟炎項下ニ詳述セルヲ以テ略ス。

ホ. Bowman氏囊上皮細胞ノ脂肪沈着

是ハ糸絨體腎炎及其他腎變性ノ際等ニ一汎ニ認ムル所ニシテ、特殊ノ意義ヲ認メザルモノナリ。Schütz⁽¹⁵⁶⁾ハ糖尿病ノ際ニ此部ノ沈着ヲ認メ、余ガ2例(糖尿病1例、尿崩症1例)ニ於テモ重屈折性物質ノ沈着ヲ認メタリ。一般ニ「リペミー」ノ著シキ場合ニ來ルガ如シ。

ヘ. 糸絨體血管蹄係及毛細管ニ於ケル脂肪沈着

是ハ一般ニ「リペミー」ノ著明ニシテ血管蹄係ニ病變ヲ認ムル際ニ多クシテ、動脈硬化症、肝硬變症等ニ多數ニ認メタリ。

ト. 間質及血管ニ於ケル脂肪沈着

重屈折性物質ノ項下ニ詳述セルヲ以テ茲ニ再說セズ。

第三節 出現脂肪體ト年齡的關係

既ニ前述セル所ヲ綜覽スルニ、曲細尿管(主管部)ニ於テハ年齡ニ關係無ク、主トシテ腎疾患及營養狀態ニ關係スルコトヲ知レリ、而シテ主トシテ年齡的ニ出現量ヲ異ニスル部位ハ其生理的ニ脂肪沈着ヲ認メシムル Henle 氏蹄係、潤管部及間質ナルガ如シ。是ニヨリテ余ガ検査成績ヨリ年齡的關係ヲ表示スレバ次ノ如シ。而シテ少量(+), 痕跡量(±)ハ是等 Henle 氏蹄係部、潤管部ニテハ成人腎ニ於テハ常在量ナルヲ以テ(++)中等量ヲ標準トセリ。

	Henle氏蹄係並ニ潤管部 (++) 以上			間 質 (+) (±) 以上			血 管 (+) (±) 以上		
	中性脂肪	リポイド	重屈折	中性脂肪	リポイド	重屈折	中性脂肪	リポイド	重屈折
胎 生 期				1	1	1			
10歳以下	7			1					
20歳以下	3	5	2	3	3				
30歳以下	4	5	2	2	8	1	1	4	2
50歳以下	18	6	4	24	12	4	10	10	5
50歳以上	26	8	10	24	30	5	26	20	13

即チ第7表ニ示スガ如ク、30歳以後ニ於テ著明ニ脂肪量ノ増加ヲ認メ、殊ニ間質及血管壁ニ於テ著明ニシテ年齡増加トトモニ脂肪種類モ異ナリ、即チ「リポイド物質及重屈折性物質」ノ出現率高度トナル傾向ヲ示セリ。

結 論

(1)、本篇ニ於テハ遷延性經過ヲトレル慢性疾患例154例、亞急性及急性疾患例41例、急性中毒例5例、胎兒腎11例(3例ハ子癇母體ヨリノモノ)總數211例ニ就テ其腎臟ニ於ケル組織變化殊ニ其含有脂肪ノ形態學的關係ヲ檢索記載セルモノナリ。

(2)、腎臟細尿管上皮ニ於ケル脂肪沈着ハ部位的關係(Lokalisation)ヨリ三種ノ類型ヲ示ス。

(3)、其一ハ Henle 氏蹄係部、潤管部、集合管ニ主トシテ中性脂肪、「リポイド物質」ノ系統的沈着ヲ認ムル場合ニシテ、Fischer ノ所謂生理的脂肪ト稱スルモノナリ。

結核症、惡性腫瘍、微毒(先天性微毒ヲ除ク)、放線狀菌病、脊髓癆、精神病ノ如キ慢性消耗性疾患並ニ心臟瓣膜病及脾氣ノ如キ鬱血腎ヲ呈スル疾患、Banti 氏病、再生不能性貧血、白血病、出血性紫斑病ノ如キ惡性血液病、次デ丹毒症、敗血症、腸チフス」ノ如キ急性熱性傳染病、重症小兒消化不良症、急性腦及腦膜疾患、破傷風、急性汎發性腹膜炎ノ如キ急性又ハ亞急性ノ經過ヲ以テ營養障礙ヲ來ス疾患ニ於テモ腎臟自己ニ實質炎等ノ如キ病變ノ存在セザル際ハ如上ノ沈着ヲ示セリ。

(4)、其二ハ曲細尿管、直細尿管ニ中性脂肪、重屈折性脂肪ガ平等瀰漫性ニ沈着ヲ呈スル場

合ニシテ、Hansemannノ所謂生理的瀰蔓性脂肪浸潤ト稱スルモノニ一致スベキモノナリ。而シテ余ガ例ニ於テハ燐中毒ノ2例、先天性微毒兒ノ2例、結核症ノ1例、悪性腫瘍ノ1例、再生不能性貧血ノ1例ニ於テ之ニ該當スベキ脂肪沈着ヲ認メタリ。

(5)、其三ハ曲細尿管ニ不平等ニ限局性ニ脂肪沈着ヲ認メ、直細尿管ニハ少量ニ脂肪ノ出現ヲ認ムル場合ニシテ、急性慢性ノ各種腎疾患ニ於テ之ニ該當スル部位的關係ヲ證セリ。

(6)、各種腎疾患中急性ノモノニ於テハ一般ニ主トシテ中性脂肪ヲ、慢性ノモノニ於テハ狹義ノ「リポイド物質並ニ「ヒョレステリン」混合物ヲ認メタリ。

(7)、間質ニ於ケル脂肪沈着ハ部位的關係ヨリニ大別ス。

其一ハ皮質間質組織内脂肪沈着ニシテ余ガ檢索例ニ於テハ中毒腎及間質性腎炎並ニ萎縮腎ニ於テ著明ニ認メタリ。

其二ハ髓質鬆粗結締織ニ於ケル脂肪沈着ニシテ一般ニ生理的状態ニ於テ出現スルヲ認メタリ、而シテ余ガ檢索例中104例ニ之ヲ認メ、年齢ノ増加ニ比例シテ其出現率ノ高度トナルヲ認メタリ。尙腎臟疾患及循環障碍、悪性腫瘍、動脈硬化症等ニヨリ其沈着量ノ増加ヲ來スコトヲ認メタリ。

(8)、胎生期ニ於ケル腎臟11例中、子癩母體ヨリノ胎兒腎3例ニ於テ、他ノ8例ノ胎兒腎ニハ何レノ部位ニモ脂肪沈着ヲ認メザルニ拘ラズ、其皮質間質組織ニ微細滴狀ヲ呈セル脂肪ガ細尿管ヲ圍繞シテ網狀ニ沈着セルヲ認メタリ。

(9)、葉間腎動脈細枝ニ於テハ其内膜ノ結締織纖維、内被細胞並ニ内弾力板ニ於テ浸潤狀脂肪沈着ヲ認メタリ。

而シテ一般ニ高年者ニシテ内膜ニ硬變性變ヲ呈スル場合ニ多カリキ。毛細管ニ於テハ管壁ニ接着シテ重屈折性脂肪ノ結晶ヲ認メタリ、之ハ一般ニ「ヒーペルヒョレステリネミー」ノ際著明ニ現レタリ。

(10)、中性脂肪ノ出現ハ結核症、悪性腫瘍、精神病、脚氣、放線狀菌病、微毒ノ如キ慢性消耗性疾患、腸チフス、丹毒症ノ如キ急性熱性傳染病、實質性腎炎ニ於テ顯著ニ出現スルヲ認メタリ。

(11)、狹義ノ「リポイド物質」ノ出現率ハ動脈硬化症並ニ慢性腎疾患ニ於テ高度ナルヲ認メタリ。

(12)、重屈折性物質ノ出現率ハ悪性腫瘍、精神病、動脈硬化症、肝硬變症、微毒、中毒症、萎縮腎等ニ於テ高度ナルヲ認メタリ。

(13)、重屈折性脂肪ノ高度ニ出現セル如上ノ疾患ハ諸家ノ等シク「ヒーペルヒョレステリネミー」ヲ惹起スト言ヘル疾病ト略ボー致セルコトヲ證セリ。

(14)、肝臟疾患ト腎臟「ヒョレステリンステアトーゼ」トハ一定ノ關係ノ存在スルコトヲ確認セリ、由是肝臟組織ノ「ヒョレステリン調節機能」ヲ有スルコトヲ推定シ得。

(15)、脂肪含有性消耗性色素顆粒ヲ主トシテ細尿管、Henle氏蹄係下行脚ニ於テ、屢又Henle氏蹄係上行脚、潤管部、集合管ニ於テ檢索シ得タリ。

(16), 脂肪含有性消耗性色素顆粒ハ一汎ニ高年者ニ多ク, 20歳以上ニ殆ド定在性ニ認メタリ。而シテ疾病トノ關係ハ結核症, 悪性腫瘍, 微毒等ノ慢性消耗性疾患ニ於テ出現率ノ高度ナルヲ認メタリ。

(17), 一般ニ腎臟組織内出現脂肪量ハ年齢ト共ニ増加ノ傾向アリ。

本研究ニ當リ我教室小山正直君ヨリ胎兒腎臟ヲ惠與セラレタリ, 又顯微鏡寫真撮影ニハ廣瀬文雄君ヲ煩セリ, 茲ニ附記シテ兩君ニ感謝ノ意ヲ表ス。

文 獻

- 1) **Abrikossoff**, Ein Beitrag zum morphologischen Studium des pathologischen Fettes des Zellprotoplasmas. Ref. Zentralblat. f. allg. Path. Bd. 25, 1914, S. 28. —
- 2) **阿久津三郎**: Beiträge zur Histologie der Samenblasen nebst Bemerkungen über Lipochrom. Virchow's Arch. Bd. 168, 1902, S. 467. —
- 3) **Anitschkow**, Ueber vitale Färbung und Cholesterinspeicherung im Organismus. Med. Klinik. Nr. 11, 1914, S. 465. —
- 4) **Arndt**, Zur Kritik neuerer Methoden des histochemischen Lipoidnachweises. Verhandl. d. Deut. path. Gesell. 20. Tag. 1925 S. 143. —
- 5) **Arnold**, Ueber Fettumsatz und Fettwanderung, Fettinfiltration und Fettdegeneration, Phagocytose, Metathese und Synthese. Virchow's Arch. Bd. 171, 1903, S. 197. —
- 6) **d'Amato**, Über experimentelle, vom Magendarmkanal aus hervorgerufene Veränderungen der Leber und über die dabei gefundenen Veränderungen der übrigen Bauchorgane. Virchow's Arch. Bd. 187, 1907, S. 435. —
- 7) **Aschoff**, Über die Nierensekretion. Die pathologische Verfettung. Vorträge über Pathologie gehalten an den Universitäten und Akademien Japans im 1924, S. 310 & S. 42. —
- 8) Derselbe, Zur Morphologie der lipoiden Substanzen. Ziegler's Beit. Bd. 47, 1910, S. 1. —
- 9) Derselbe, Ueber den Begriff der "Nephrose" und "Sklerose". Deut. med. Wochenschr. 1917, Nr. 43, S. 1345. —
- 10) **Babes**, Ueber das Auftreten von Fett im interstitiellen Gewebe der Niere und im Inneren der Nierengefäße. Zentralbl. f. allg. Path. Bd. 19, 1908, S. 275. —
- 11) **Bacmeister**, Untersuchungen über Cholesterinausscheidung in menschlichen Gallen. Bioch. Zeitschr. Bd. 26, 1910, S. 223. —
- 12) Derselbe und **Henes**, Untersuchungen über den Cholesteringehalt des menschlichen Blutes bei verschiedenen inneren Erkrankungen. Deut. med. Wochenschr. 1913, Nr. 12, S. 54 4. —
- 13) **Baer**, Über die Sekretion von Glykogen in Diabetikernieren. Ziegler's Beit. Bd. 56 1913, S. 1. —
- 14) **Bauer** und **Skutezky**, Zur Pathologie der Blutlipide mit besonderer Berücksichtigung der Syphilis. Wien. klin. Wochenschr. 1913, Nr. 21, S. 830. —
- 15) **Bell**, Lipoid Nephrosis, The Americ. Jour. of. Pathol. Vol. 5, No. 6, 1929 P. 587. —
- 16) **Beneke**, Die Fettresorption bei der natürlichen und künstlichen Fettembolie. Ziegler's Beit. Bd. 2, 1899, S. 343. —
- 17) **Beumer**, Über die Verteilung des Cholesterins in einigen Organen bei Erkrankungen des Säuglings- und Kindesalters. Monatschr. f. Kinderheil. Bd. 19, 1921, S. 409. —
- 18) Derselbe, Über nephrotische Hypercholesterinämie und die Frage ihrer diätetischen Beeinflussbarkeit. Arch. f. Kinderheil. Bd. 68, 1921, S. 105. —
- 19) Derselbe und **Lehmann**, Über die

- Cholesterinbildung im Tierkörper. Zeitschr. f. die gesam. exp. Med. Bd. 37, 1923, S. 274. —
- 20) Derselbe, Über die Verteilung des Cholesterins in einige Organen bei Nephrose und Nephritis im Kindesalter. Monatschr. f. Kinderheil. Bd. 18, 1920, S. 453. — 21) Derselbe, Über den Cholesterinstoffwechsel beim Brustkind und den Cholesteringehalt des Serums bei verschiedenen Krankheiten. Monatschr. f. Kinderheil. Bd. 15, 1919, S. 581. — 22) **Bittorf**, Ueber "Herzfehlerzellen" im Harn. Münch. med. Wochenschr. 1909, Nr. 35, S. 1775. — 23) **Boas**, Über einen Fettfarbstoff. Berl. klin. Wochenschr. 1911, S. 1282. — 24) **Boeminghaus**, Ueber den Wert der Nilblamethode für die Darstellung der Fettsubstanzen und den Einfluss einer längeren Formalinfixierung auf den Ausfall der Färbung. Ziegler's Beit. Bd. 67, 1920, S. 533. — 25) **Ceelen**, Über tuberkulöse Schrumpfnieren. Virchow's Arch. Bd. 219, 1915, S. 68. — 26) **Dietrich**, Über den Fettgehalt pathologisch veränderter Nieren. Verhand. d. deut. path. Gesell. 11. Tag. 1907, S. 10. — 27) Derselbe, Differentialdiagnose der Fettsubstanzen. Verhand. d. deut. path. Gesell. 14. Tag. 1910, S. 263. — 28) **Diebold**, Zur Frage der Lipoidnephrose. Deut. med. Wochenschr. 1929, Nr. 37, S. 1550. — 29) **Dorner**, Über Cholesterinurie und Indigourie, Münch. med. Wochenschr. 1922 Nr. 18 S. 661. — 30) **Fahr**, Über Nierenveränderungen bei Eklampsie. Zentralbl. f. Gynäk. 1920, Nr. 36, S. 991. — 31) Derselbe, Über Nephrose. Deut. Arch. f. klin. Med. Bd. 125, 1918, S. 66. — 32) Derselbe, Beiträge zur Frage der Nephrose. Virchow's Arch. Bd. 239, 1922, S. 32. — 33) **Fischer, W.**, Über Nierenveränderungen bei Tuberkulose. Ziegler's Beit. Bd. 47, 1910, S. 372. — 34) Derselbe, Histologische Untersuchungen über den Fettgehalt der Niere unter normalen und pathologischen Verhältnissen. Ziegler's Beit. Bd. 49, 1910, S. 34. — 35) **Fischer, B.**, Über Lipämie und Cholesterinämie sowie über Veränderungen des Pankreas und der Leber bei Diabetes mellitus. Virchow's Arch. Bd. 172, 1906, S. 30. — 36) **Fischer, F.**, Ueber den Fettgehalt von Niereninfarkten, zugleich ein Beitrag zur Frage der Fettdegeneration. Virchow's Arch. Bd. 170, 1902, S. 600. — 37) Derselbe und **Gross, W.**, Ueber den histologischen Nachweis von Seifen und Fettsäure im Tierkörper und die Beziehungen intravenös eingeführter Seifenmengen zur Verfettung. Ziegler's Beit. 7 Suppl. Bd, 1905, S. 326. — 38) **布瀬七一郎** : 肝臓殊ニ其ノ含有脂肪體ノ形態學的研究, 慢性及亞急性疾患ノ際ニ於ケル肝臓ノ脂肪體ノ消長ニ就テ 附 肝臓脂肪量ト肝臓重量トノ關係, 十全會雜誌, 第32卷, 第3號別刷. — 39) 同人 : 肝臓殊ニ其ノ含有脂肪體ノ形態學的研究, 急性死ノ際ニ於ケル肝臓脂肪體ニ就テ, 附 急性死ノ肝臓組織像ニ對スル一二ノ知見, 十全會雜誌, 第32卷, 第5號別刷. — 40) 同人, 肝臓殊ニ其ノ含有脂肪體ノ形態學的研究, 急性黃磷中毒ノ肝臓脂肪分布ニ及ボス影響ニ就テ, 十全會雜誌, 第33卷, 第11號別刷. — 41) 同人 : 肝臓殊ニ其ノ含有脂肪體ノ形態學的研究, 「ラノリン」飼養家兔ニ於ケル肝臓及脾臓脂肪體ノ分布關係, 十全會雜誌, 第32卷, 第9號別刷. — 42) **Garschin**, Ueber einige Bedingungen für die Ablagerung doppeltlichtbrechender Lipide in den Zellen. Ref. Zentralbl. f. allg. Path. Bd. 35 1924, S. 75. — 43) **Genck**, Über das Vorkommen und die Bedeutung doppelbrechender Substanzen in Harn. Deut. Arch. f. klin. Med. Bd. 125, 1918, S. 333. — 44) **Gierke**, Das Glykogen in der Morphologie des Zellstoffwechsels, Ziegler's Beit. Bd. 37, 1905, S. 502. — 45)

- Goldberg**, Zur Frage der Verfettung. Klin. Wochenschr. 1923, Nr. 25, S. 1167. — 46) **Goldmann**, Ueber die Lipoidfärbung mit Sudan (ScharlachR.)- α -Naphthol. Zentralbl. f. allg. Path. Bd. 46, 1929, S. 289. — 47) **Golodetz**, Neue Reaktion für Cholesterin und Oxycholesterin. Chem. Zeit. 1908, Nr. 14, S. 160. — 48) **Gross**, Über die Bedeutung anisotroper Substanzen im Harn für die Diagnose der sogenannten „Lipoidnephrose“. Deut. Arch. f. klin. Med. Bd. 133 1920 S. 9. — 49) Derselbe, Das Cholesterin, sein Stoffwechsel und seine klinische Bedeutung. Klin. Wochenschr. 1923, Nr. 5, S. 217. — 50) **Grobe und Mosler**, Zur Kenntnis der Veränderungen innerer Organe bei acuter Arsenvergiftung. Virchow's Arch. Bd. 34, 1865, S. 206. — 51) **Hansemann**, Über die Fettinfiltration der Nierenepithelien, Virchow's Arch. Bd. 148, 1897, S. 355. — 52) **服部貞吉**：間質組織ノ脂肪變性, 日本病理學會々誌, 第7年, 53頁, 大正7年. — 53) 同人：腎臟ノ上皮細胞内コレステリンエステルノ一新所見ニ就テ, 日本病理學會々誌, 第11年, 228頁, 大正10年. — 54) 同人：中樞神經系統ノ色素ニ就テ, 日本病理學會々誌, 第4年, 293頁, 大正4年. — 55) 同人：全身ニ出現スル消耗性「メラニン」色素ノ比較的研究, 日本病理學會々誌, 第3年, 221頁, 大正3年. — 56) **Herxheimer**, Bemerkungen zu dem Aufsätze des Herrn Dr. B. Fischer „Über die Fettfärbung mit Sudan3 und ScharlachR“. Zentralblatt f. allg. Path. Bd. 14, 1903, S. 87. — 57) **Herxheimer, G.**, Ueber Fettfarbstoffe. Deut. med. Wochenschr. 1901, Nr 36, S. 607. — 58) **Heyn**, Über disseminierte Nephritis bacillaris Tuberculöser ohne Nierentuberkel. Virchow's Arch. Bd. 165, 1901, S. 42. — 59) **Holthusen**, Über den histologischen Nachweis verschiedener Fettarten mit Rücksicht auf das Verhalten des Fettes in dem Lymphknoten. Ziegler's Beit. Bd. 49, 1910, S. 595. — 60) **本田郁也**：燐中毒ニ因スル犬腎臟主管上皮ノ脂肪含有性消耗性色素(リホクローム)ニ就テ, 日本病理學會々誌, 第10年, 333頁, 大正9年. — 61) **星島壽**：特殊餌食ニ因スル腎臟ノ變化ニ就テ, 日本微生物學會雜誌, 第16卷, 979頁, 大正11年. — 62) **Huebschmann**, Die pathologische Anatomie und Pathogenese der gastrointestinalen Paratyphus-Erkrankungen. Ziegler's Beit. Bd. 56, 1913, S. 514. — 63) **Hueck**, Pigmentstudien. Ziegler's Beit. Bd. 54, 1912, S. 68. — 64) **Hürthle**, Ueber die Fettsäure-Cholesterin-Ester des Blutserums. Zeitschr. f. physiol. Chem. Bd. 21, 1896, S. 130. — 65) **Ignatowski**, Ueber die Wirkung des tierischen Eiweisses auf die Aorta und die parenchymatösen Organe der Kaninchen. Virchow's Arch. Bd. 198, 1909, S. 248. — 66) **池田誠一**：毒性物質ニヨリ惹起セラレタル實驗的腎臟炎特ニ其年齡の差異ニ就テ 附, 絲綫體變化ノ知見補遺. 京都醫學雜誌, 第19卷, 1209頁, 1249頁, 大正11年. — 67) **石原正次**：諸種細菌毒素ニ因ル腎臟ノ形態學的並ニ機能的變化(第1報告), 生體染色及血液殘餘窒素ノ測定法ニ由ル(バラチフス)B菌中毒ノ實驗的研究, 京都醫學雜誌, 第19卷, 1301頁, 大正11年. — 68) **糸川角次郎**：猫「イラズ」中毒ニ於ケル病理學的所見ニ就テ, 十全會雜誌, 第32卷, 第1號, 81頁, 昭和2年. — 69) **岩橋植松**：猫(いらす)中毒屍ノ剖檢例並ニ動物實驗成績, 病理學紀要, 第1卷, 第2號, 303頁, 大正13年. — 70) **Iwantscheff**, Die Bedeutung der Lipoidarten in Niere und Leber bei pathologischen Zuständen. Zeitschr. f. klin. Med. Bd. 101, 1925, S. 85. — 71) **Kaiserling**, Nachweis, Vorkommen und Bedeutung der Zell-Lipoid. Berl. klin. Wochschr. 1910, Nr. 47, S. 2156. — 72) Derselbe und **Orgler**, Über das Auftreten von

Myelin in Zellen und seine Beziehung zur Fettmetamorphose. Virchow's Arch. Bd. 167, 1902, S. 296. — 73) **Kahlden**, Ueber Nephritis bei Phthisikern. Zentralbl. f. allg. Path. Bd. 2, 1891, S. 97. — 74) **Kasarinoff**, Vergleichende Untersuchungen zur Histologie der Lipoide. Ziegler's Beit. Bd. 49, 1910, S. 490. — 75) **Kaufmann**, Über den histochemischen Fettnachweis im Gewebe. Virchow's Arch. Bd. 270, 1928, S. 360. — 76) Derselbe und **Lehmann**, Sind die in der histologischen Technik gebräuchlichen Fettdifferenzierungsmethoden spezifisch? Virchow's Arch. Bd. 261, 1926, S. 623. — 77) Dieselben, Kritische Untersuchungen über die Spezifitätsbreite histochemischer Fettdifferenzierungsmethoden. Zentralbl. f. allg. Path. Bd. 37, 1926, S. 145. — 78) **金子廉次郎**: 動脈壁弾力纖維ニ於ケル「リポイド物質」ニ就テ. 日本病理學會々誌, 第7年, 49頁, 大正7年. — 79) **川村麟也**: Die Cholesterinverfettung(Cholesterinsteatose). 1911, Jena. — 80) 同人: Morphologie und Physiologie der Cholesterinsteatose, 1927, Jena. — 81) 同人: 人體及動物體內ニ於ケル脂肪類ノ鑑別ニ就テ. 日本病理學會々誌, 第1年, 161頁, 明治44年. — 82) 同人: 重屈折性物質ニ就テ(コレステリンエステル). 日本病理學會々誌, 第1年, 173頁, 明治44年. — 83) 同人: 脂肪及ビ類脂肪. 日本病理學會々誌, 第7年, 1頁, 大正6年. — 84) 同人: 人體及動物ニ於ケル脂肪問題ニ就テ形態學的並ニ顯微化學的研究成驗. 日新醫學, 第7年, 第1號, 第1頁, 大正6年. — 85) 同人: コレステリン證明ノ一新法並ニ組織重屈折性物質ノ光學的性狀ニ就テ. 日本病理學會々誌, 第18年, 231頁, 昭和3年. — 86) **Kimmelstiel**, Zur Morphologie der Lipoide. Sonderdruck aus der "Krankheitsforschung" Bd. 5, II. 6. — 87) **Kirch**, Über tuberkulöse Leberzirrhose, tuberkulöse Schrumpfnieren und analoge Folgeerscheinungen granuliegender tuberkulöser Entzündung in Pankreas und Mundspeicheldrüsen. Virchow's Arch. Bd. 225, 1918, S. 129. — 88) **Klebs**, Zur pathologischen Anatomie der Phosphorvergiftung. Virchow's Arch. Bd. 33, 1865, S. 442. — 89) **Klemperer**, Ueber die Veränderung der Nieren bei Sublimatvergiftung. Virchow's Arch. Bd. 118, 1889, S. 445. — 90) Derselbe, Über Verfettung der Niere. Deut. med. Wochenschr. 1909, Nr. 3, S. 89. — 91) Derselbe, Ueber diabetische Lipämie. Deut. med. Wochenschr. 1910, Nr. 51, S. 2373. — 92) Derselbe und **Umber**, Zur Kenntnis der diabetischen Lipämie. Zeitschr. f. klin. Med. Bd. 61, 1907, (zit. nach. Löwenthal). — 93) **今裕**: 含脂肪及脂肪様物質ヲ以テ飼養セラレタル動物ノ解剖的知見補遺, 日新醫學, 第4年, 第9號, 1261頁, 大正4年. — 94) 同人, **山田芳夫**: 再ビ卵黃及肝臟粉末飼養試験, 日本病理學會々誌, 第5年, 205頁, 大正5年. — 95) **小山正道**: 動物體內ニ於ケル(コレステリン)新陳代謝, 日本病理學會々誌, 第18年, 229頁, 昭和3年. — 96) **Kraus und Sommer**, Ueber Fettwanderung bei Phosphorintoxikation. Zit nach Zentralbl. f. allg. Path. Bd. 14, 1903, S. 531. — 97) **久保久雄**: 猫ニ於テ服用ニ依ル急性磷中毒ノ病理解剖的所見, 日本病理學會々誌, 第12年, 48頁, 大正11年. — 98) **Landau**, Zur Morphologie der Sekretion und Resorption in den Nieren. Deut. Arch. f. klin. Med. Bd. 115, 1914, S. 326. — 99) **Landsteiner und Mucha**, Über Fettdegeneration der Niere. Zentralbl. f. allg. Path. Bd. 15, 1904, S. 752. — 100) **Lawrinowitsch**, Über Cholesterinesterurie im Zusammenhange mit der Ablagerung von anisotropen Fett in den Organen. Ref. Zentralbl. f. allg. Path. Bd. 25, 1914, S. 747. — 101) **Lebedeff**, Woraus bildet sich das

Fett in Fällen der akuten Fettbildung? Experimenteller Beitrag zur Kenntnis der Leber und Milchfette. Pflüger's Arch. Bd. 31, 1883, S. 11. — 102) **Leisering**, Phosphorvergiftung bei Hühnern. Virchow's Arch. Bd. 30, 1864, S. 478. — 103) **Lewin**, Studien über Phosphorvergiftung. Virchow's Arch. Bd. 21, 1861, S. 506. — 104) **Leyden**, Ueber Hydrops und Albuminurie der Schwangeren. Zeit. f. klin. Med. Bd. 11, 1886, S. 26. — 105) **Lindemann**, Über die Resorption in der Niere. Ziegler's Beit. Bd. 37, 1905, S. 1. — 106) **Löhlein**, Über die in pathologisch veränderten Nieren sichtbar werdende fettähnliche Substanz. Verhand. d. Deut. Path. Gesell. 8 Tag. 1904, S. 33. — 107) Derselbe, Über Fettinfiltration und fettige Degeneration der Niere der Menschen. Virchow's Arch. Bd. 180, 1905, S. 1. — 108) **Löwenthal**, Zur Frage der Lipoidnephrose. Virchow's Arch. Bd. 261, 1926, S. 109. — 109) **Lubarsch**, Ueber fetthaltige Pigmente. Zentralbl. f. allg. Path. Bd. 13, 1902, S. 881. — 110) Derselbe, Über die pathologischen Ablagerungen, Speicherungen und Ausscheidungen in den Nieren. Henke-Lubarsch, Handbuch d. speziel. path. Anat. Bd. 6, Teil. 1, 1925, S. 525. — 111) Derselbe, Die Puerperaleklampsie. Ergebn. d. allg. Path. u. path. Anat. 1 Jahrg. 1896, (zit. nach Fahr, Henke-Lubarsch, Handbuch d. speziel. path. Anat. Bd. 6, Teil. 1, S. 525) — 112) **Maass**, Zur Kenntnis des körnigen Pigmentes im menschlichen Körper. Arch. f. mikr. Anat. Bd. 34, 1889, S. 452. — 113) **松原良一**：蔗糖飼養ニ由ル家兎ノ病理解剖學的所見ニ就テ。日本微生物學會雜誌，第16卷，589頁，大正11年。 — 114) **Meyer**, Ueber Icterus in der Phosphorvergiftung. Virchow's Arch. Bd. 33, 1865, S. 296. — 115) **三浦守治**：Beiträge zur Pathologie der Kakke. Virchow's Arch. Bd. 111, 1887 S. 361. — 116) **Mühlmann**, Untersuchung über die lipoiden Pigment der Nervenzellen. Virchow's Arch. Bd. 202, 1910, S. 196. — 117) Derselbe, Weitere Untersuchungen über die Veränderungen der Nervenzellen in verschiedenem Alter. Arch. f. mikr. Anat. Bd. 58, 1901, S. 231. — 118) **Munk**, Nierenerkrankungen. 2. Auf. 1925. — 119) **中村八太郎**：猫イラズニ因ル急性中毒死ノ病理解剖的所見。十全會雜誌，第27卷，16頁，大正11年。 — 120) **中院孝園**：人工的コレステリンステアトーセ及ビ生體染色ニ於ケル知見補遺並ニ兩法ノ混用ニ就テ。北越醫學會雜誌，第32年，第3號，100頁，大正6年。 — 121) **長與又郎**：第二回病理學會宿題報告。日本病理學會々誌，第2年，33頁，大正2年。 — 122) 同人：火傷死(特ニ脂肪所見及網狀織細胞反應ニ就テ)。治療及處方，第88號，161頁，昭和2年。 — 123) 同人：糖尿病ノ3例特ニ脾臟及腎臟ノ變化。治療及處方，第89號，155頁，昭和2年。 — 124) **Nauer**, Über progressive pernicioöse Anämie. I.-D., Zürich, 1897(瀬川ニ據ル) — 125) **Neumann**, Zur Kenntnis der Lipochrome. Virchow's Arch. Bd. 170, 1902, S. 363. — 126) **Oberndorfer**, Beiträge zur Anatomie und Pathologie der Samenblase. Ziegler's Beit. Bd. 31, 1902, S. 325. — 127) **岡島敬治**：脂肪染色。京都醫學雜誌，第9卷，91頁，大正1年。 — 128) **奥岩吉**：諸種毒物ニ依ル「リベミー」特ニ之ニ對スル甲状腺物質ノ影響ニ就テ(第1回報告)，日本內科學會雜誌，第11卷，570頁，大正12年。 — 129) **Olshausen**, Über Eklampsie. Volkmann's Samml. klin. Vorträge 1892, Nr. 39 (zit. nach Fahr, Henke-Lubarsch, Handbuch Bd. 6, Teil 1) — 130) **大沼貞藏**：急性黃磷中毒ニ就テ。東京醫學會雜誌，第37卷，782頁，大正12年。 — 131) **Orth**, Über die Folgen der Gefäßtuberkulose in den Nieren. Verhandl. d. Deut. path. Gesell. 15 Tag. 1912, S.

129. — 132) **Pastau**, Ein Fall von acuter Phosphorvergiftung mit besonderer Bezugnahme auf das Zustandekommen des Icterus bei derselben. Virchow's Arch. Bd. 34, 1865, S. 450. — 133) **Paszkievicz**, Das Verhalten der Nieren bei der perniziösen Anämie. Virchow's Arch. Bd. 192, 1908, S. 324. — 134) **Petri**, Zur pathologisch-anatomischen Diagnose und Histologie der Phosphorvergiftung. Frankfurter Zeitschr. Bd. 25, 1921, S. 196. — 135) **Port**, Über Cholesterinämie bei Nephropathien. Deut. Arch. f. klin. Med., Bd. 128, 1919, S. 61. — 136) **Prym**, Die Lokalisation des Fettes im System der Harnkanälchen. Frankfurter Zeitschr. Bd. 5, 1910, S. 1. — 137) Derselbe, Fett im Markinterstitium der Niere. Virchow's Arch. Bd. 196, 1909, S. 322. — 138) **Ribbert**, Ueber die Lokalisation der fettigen Degeneration der Niere. Zentralbl. f. allg. Path. Bd. 3, 1892, S. 353. — 139) **Rosenfeld**, Fettbildung. Ergebnis. d. Physiol. 2. Jahrg. 1. Abteil. 1903, S. 50. — 140) Derselbe, Die Herkunft des Fettes. Verhandl. d. Congres. f. inn. Med. Kong. 17, 1899, S. 503. — 141) Derselbe, Gibt es eine fettige Degeneration? Verhandl. d. Congres. f. inn. Med. Kong. 15, 1897, S. 427. — 142) **Rosenstein**, (zit. nach. Fahr. Henke-Lubarsch Handbuch Bd. 6, Teil 1) — 143) **Rosin**, Ein Beitrag zur Lehre vom Bau der Ganglienzellen. Deut. med. Wochenschr. 1896, Nr. 31, S. 495. — 144) Derselbe und **Fenevessey**, Über das Lipochrom der Nervenzellen. Virchow's Arch. Bd. 162, 1900, S. 534. — 145) **Saikowsky**, Ueber die Fettmetamorphose der Organe nach innerlichen Gebrauch von Arsenik, Antimon und Phosphorpräparaten. Virchow's Arch. Bd. 34, 1865, S. 73. — 146) **佐伯信男**: 妊娠腎ノ病理組織學的研究. 日本病理學會々誌 第15年, 63頁, 大正15年. — 147) **Saltykow**, Zur Kenntnis der alimentären Krankheiten der Versuchstiere. Virchow's Arch. Bd. 213, 1913, S. 8. — 148) Derselbe, Experimentelle Arteriosklerose. Ziegler's Beit. Bd. 57, 1914, S. 415. — 149) **Scheube**, Weitere Beiträge zur pathologischen Anatomie und Histologie der Beriberi (Kakke). Virchow's Arch. Bd. 95, 1814, S. 146. — 150) **柴田長道**: 防腐的貯藏ニ對スル動物臟器ノ脂肪狀態, 中央醫學雜誌, 第10卷, 第18號, 1270頁, 大正3年. — 151) 同人, **遠藤繁清**: 腎臟及肝臟内脂肪類ニ關スル組織學的及化學的研究, 中央醫學雜誌, 第10卷, 第19號, 1348頁, 大正3年. — 152) **鹽谷不二雄**: Zur Kenntnis der Lipoiden im Centralnervensystem (Nerven und Gliazellen, Gefässwand). Mitteil. d. med. Fak. d. kaiserl. Universität zu Tokyo. Bd. 14, 1915, S. 121. — 153) 同人: Ueber die lipoiden Abbauprodukte bei der Degeneration des zentralen und peripheren Nervenstems. (zit. nach 川村). — 154) **Schmidt**, Über die Stoffwechselvorgänge bei akuter gelber Atrophie. Ziegler's Beit. Bd. 69, 1921, S. 222. — 155) **Schönberg**, Über tuberkulöse Schrumpfnieren. Virchow's Arch. Bd. 220, 1915, S. 85. — 156) **Schütz**, Die Epithelveränderungen am parietalen Blatt der Glomeruluskapsel beim Diabetes mellitus. Virchow's Arch. Bd. 251 1924, S. 669. — 157) **Schwalbe** und **Mücke**, Phosphorvergiftung auf mütterliches und foetales Lebergewebe. Frankfurter Zeitschr. Bd. 11. 1912, S. 249. — 158) **瀬川昌世**: Über die Fettarten der Niere mit besonderer Berücksichtigung des physiologischen und pathologischen Fettes. Ziegler's Beit. Bd. 58, 1914, S. 1. — 159) 同人: 腎臟ニ於ケル脂肪性色素ニ就テ. 東京醫學會雜誌, 第25卷, 731頁, 明治44年. — 160) **Schrt**, Zur Kenntnis der fetthaltigen Pigmente. Virchow's Arch. Bd. 177, 1904, S. 248. — 161)

- Simon, Walter Veit**, Über Pigmentierungen im Darm, mit besonderer Berücksichtigung des Wurmfortsatzes. Frankfurter Zeitschr. f. Path. Bd. 3, 1909, S. 180. — **162) Ssokoloff**, Experimentelle Untersuchungen über die Hypercholesterinämie. Virchow's Arch. Bd. 245, 1923, S. 201. — **163) Derselbe**, Zur Charakteristik der experimentellen Hypercholesterinämie beim Kaninchen. Ref. Zentralbl. f. allg. Path. Bd. 35, 1924 S. 75. — **164) Steinbiss**, Ueber experimentelle alimentäre Atherosklerose. Virchow's Arch. Bd. 212, 1913, S. 152. — **165) Stepp**, Über den Cholesteringehalt des Blutserum bei verschiedenen Formen der Brightschen Krankheit. Deut. Arch. f. klin. Med. Bd. 127, 1918, S. 439. — **166) 須藤憲三**：脂肪及ビ類脂肪ノ化學的方面ニ關スル報告, 日本病理學會々誌, 第7年, 37頁, 大正6年. — **167) 鈴木隆義**：ラエンネツク氏肝硬變ニ於ケル腎臟ノ變化ニ就テ, 京都醫學雜誌, 第21卷, 第6號, 64頁, 大正13年. — **168) 同人**：ラエンネツク氏肝硬變ノ統計的研究, 京都醫學雜誌, 第21卷, 第2號, 20頁, 大正13年. — **169) 同人**：廣大ナル肝臟切除ガ及ボス腎臟ノ變化ニ就テ, 機能的組織學的實驗研究. 日本病理學會々誌, 第14卷, 351頁, 大正13年. — **170) 鈴木立男**：Zur Morphologie der Nierensekretion, 1912, Jena. — **171) 同人**：腎炎ニ就テ. (宿題報告). 日本病理學會々誌. 第12年, 17頁, 大正11年. — **172) 同人**：腎ノ絲毬體ニ就テ. 東北醫學雜誌, 第5卷, 125頁, 大正15年. — **173) 竹内劍**：火傷及凍亙ノ病理ニ關スル實驗的竝ニ臨床的研究. 日新醫學, 第11年, 11頁, 大正11年. — **174) Thannhauser**, Über den Cholesterinstoffwechsel. Deut. Arch. f. klin. Med. Bd. 141, 1913, S. 290. — **175) Traina**, Über das Verhalten des Fettes und der Zellgranula bei chronischen Marasmus und akuten Hungerzuständen. Ziegler's Beit. Bd. 35, 1904, S. 1. — **176) 角田隆, 梅原信正**：動物體ニ於ケル液狀球形結晶ノ試驗的研究並ニ該物質ノ沈着ニ因スル病變ニ就テ. (第1回報告). 中外醫事新報, 第840號, 343頁, 大正4年. — **177) 同人等**：動物體ニ於ケル液狀球形結晶ノ試驗的研究並ニ該物質ノ沈着ニ因スル病變ニ就テ(第2回報告). 中外醫事新報, 第864號, 329頁, 大正5年. — **178) Tüngel**, Eine rasch tödliche Phosphorvergiftung ohne Gastroenteritis und ohne Icterus. Virchow's Arch. Bd. 30, 1864, S. 270. — **179) Versé**, Über die experimentelle Lipo-Cholesterinämie. Ziegler's Beit. Bd. 63, 1917, S. 789. — **180) Vorhald**, Über Wesen und Behandlung der Brightschen Nierenkrankheiten. Deut. med. Wochenschr. 1918, Nr. 15 & 16, S. 393, 428. — **181) Derselbe und Fahr**, Die Brightsche Nierenkrankheit (zit. nach Fahr, Henke-Lubarsch, Handbuch Bd. 6, Teil. 1) — **182) 和田龍俊**：實驗的肝硬變症ノ知見補遺, 十全會雜誌, 第31卷, 第12號別刷. — **183) 同人**：「ラノリン」飼養ニ因スル腎臟ノ變化, 十全會雜誌, 第30卷, 第10號別刷. — **184) Wail**, Veränderungen im Chemismus der Lipoide unter Einfluss reaktiver Vorgänge der umgebenden Gewebe. Virchow's Arch. Bd. 245, 1923, S. 219. — **185) Derselbe**, Die Synthese der phosphorhaltigen Lipoid in Gewebe. Ref. Zentralbl. f. allg. Path. Bd. 35, 1924, S. 75. — **186) Derselbe**, Über Veränderungen der Lokalisation und des Chemismus der Lipoide in den Tubuli contorti der Niere. Virchow's Arch. Bd. 249, 1924, S. 488. — **187) 脇元秀義**：諸種ノ細菌毒素注入ニ因ル脂肪物質ノ研究(第1回報告)第1編チフテリア毒素ヲ以テセル研究. 日本微生物學病理學雜誌, 第22卷, 2559頁, 昭和3年. — **188) 和久金藏**：糖尿病ニ於ケル腎臟絲毬體ノ變化ニ就テ. 日本病理學會々誌, 第18年, 413頁, 昭和3年. — **189) Wegelin**

und **Wildbolz**, Anatomische Untersuchungen von Frühstadien der chronischen Nierentuberkulose. Zeitschr. f. urol. Chirurg. Bd. 2, 1914, S. 201. — **190) Weltmann**, Zur klinischen Bedeutung des Cholesterinnachweises im Blutserum. (zit. nach 川村) — **191) Wolff**, Experimentell-pathologische Untersuchungen über den Fettstoffwechsel. Virchow's Arch. Bd. 252, 1924, S. 297. — **192) Wolff**, Beitrag zur Morphologie des Fettstoffwechsels. Ref. Zentralbl. f. allg. Path. Bd. 35 1924 S. 242. — **193) 山極勝三郎** : (瀬川 = 據ル) — **194) Zangemeister**, Der Hydrops gravidarum, seine Verlauf und seine Beziehungen zur Nephropathie und Eklampsie. Zeitschr. f. Geburtsh. u. Gynäkol. Bd. 81, 1919, S. 491. — **195) Ziegler und Obolonsky**, Experimentelle Untersuchungen über die Wirkung des Arseniks und des Phosphors auf die Leber und die Niere. Ziegler's Beit. Bd. 2, 1883, S. 291.

附 圖 說 明

第一圖 絲球體 = 於ケル脂肪沈着

- A. 血管蹄係壁ノ塊狀沈着
- B. 蹄係面上皮細胞核周邊ノ顆粒狀沈着
- C. 内被細胞核周邊ノ顆粒狀沈着
- D. 細尿管上皮細胞ノ脂肪沈着

第二圖

- A. 動脈細枝ノ内膜 = 於ケル脂肪沈着
- B. 小圓形細胞浸潤

第三圖 Smith-Dietrich 氏法「ズダン」後染色

- A. 主管上皮細胞基底部分 = 於ケル「リポイド物質」ノ沈着
- B. 潤管上皮細胞 = 於ケル「リポイド物質」ノ沈着

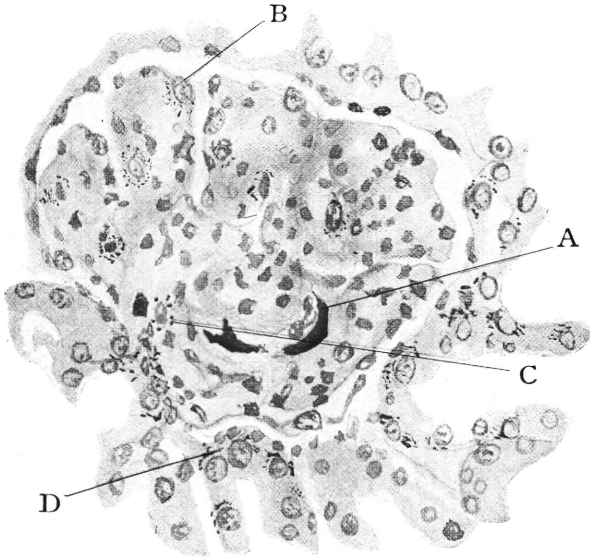
第四圖 子癩母體胎兒ノ腎臟皮質間質 = 於ケル顆粒狀脂肪沈着(A)

第五圖 腎臟皮質 = 於ケル曲細尿管ノ重屈折性脂肪ノ沈着

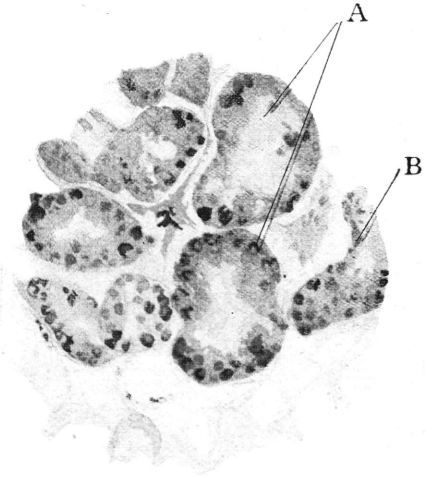
第六圖 腎臟髓質間質結締織内 = 於ケル重屈折性脂肪ノ索狀沈着竈

岡部論文附圖一

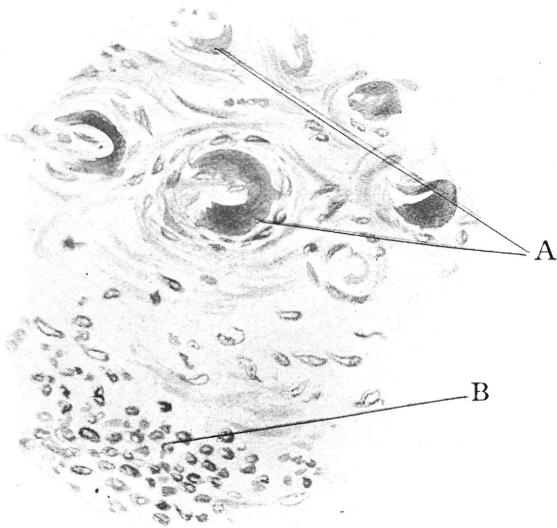
第一圖



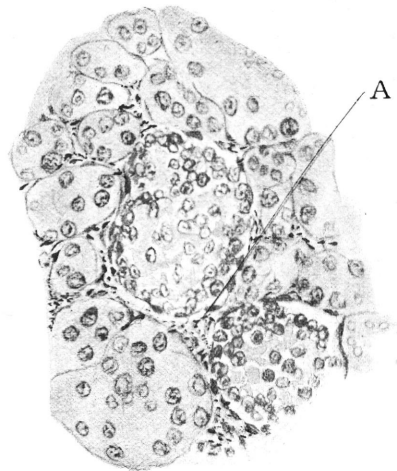
第三圖



第二圖

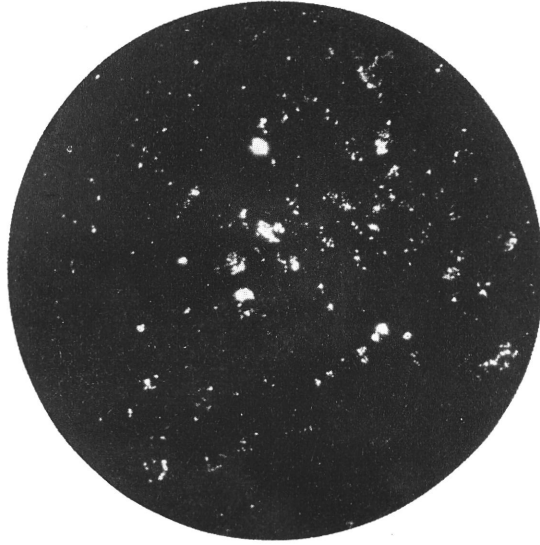


第四圖

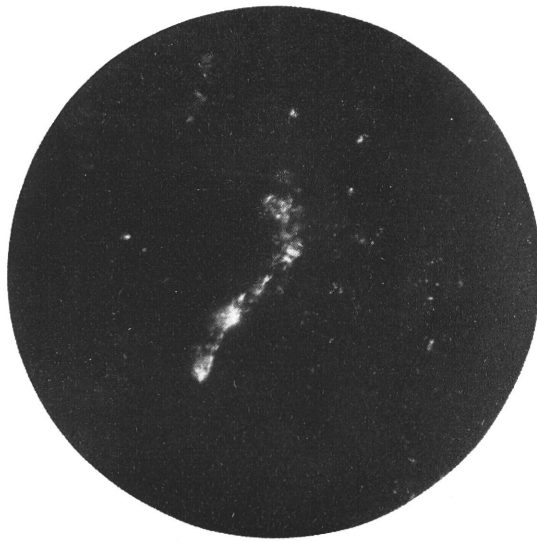


岡部論文附圖二

第 五 圖



第 六 圖



第一表

検査番號	年齢及性別	臨床的診斷	主要ナル病理解剖的診斷	脂肪體検査所見										組織所見摘要
				部位	染色	ズダンIII	ニールアラウズルフェート	ノイトラルロート	Fischler氏法	Smith氏法	Ciaccio氏法	重屈折	脂肪性色素顆粒	
1	25 ♂	肋膜炎 肺結核	左側滲出性肋膜炎 肺臟播種性粟粒結核性腸潰瘍 右側肋膜纖維性癒着痔瘻	絲絨體 主管管 潤管 蹄係 下行 上行 集合管 間質 血管壁	±(黃赤) — ±(黃赤) — + (黃赤) — — —	±(青) — ±(青) — +(青) — — —	— — ± — +	— — — — —	— — — — —	— — — — —	— — — — —	— — — — —	— — — — —	結核結節部ニ存スル 絲絨體死ニ陥リ血 管蹄係ハ其造構ヲ失 ヒ核ハ消滅又ハ崩壞 シ其部ニ存スル細尿 管亦同様壞死變テ於 呈ス、其他ノ部ニ於 テモ細尿管上皮ハ潤 濁腫脹ス
2	18 ♂	肺結核	兩側肺臟細葉性結核 右肺上葉破壞性及硬變性結核 肝、脾結核 腎臟變性	絲絨體 主管管 潤管 蹄係 下行 上行 集合管 間質 血管壁	— — — ±(褐赤) +(褐赤) — ++(黃赤) —	— — — ±(暗青) +(暗青) — ++(黃赤) —	— — ± +	— — — — —	— — — — —	— — — — —	— — — — —	— — — — —	— — — — —	絲絨體ハ其血管蹄係 壞死崩壞シテ蜂巢狀 觀ヲ呈シ細尿管上皮 細胞ハ一汎ニ潤濁腫 脹シ一部ハ變性萎小 シ間質結締織ノ增殖 ヲ認ム、腎被膜下ニ 於テ處々小圓形細胞 ノ集積ヲ認ム
3	32 ♂	肺結核兼喉頭、腹膜結核	右肺細葉性結節性結核 兩側肺臟潰瘍性結核 咽頭氣管結核性潰瘍	絲絨體 主管管 潤管 蹄係 下行 上行 集合管 間質 血管壁	— — ±(黃赤) ±(黃赤) ±(黃赤) — — —	— — ±(青) ±(青) ±(青) — — —	— — — — —	— — — — —	— — — — —	— — — — —	— — — — —	— — — — —	— — — — —	死後ノ變著シク細尿 管上皮ハ胞體潤濁シ 核消滅ス

【 1 】

8	19 ♂	肺結核兼喉頭結核	兩側細葉性結節性肺結核(空洞形成) 氣管咽頭喉頭結核性潰瘍 腸結核性潰瘍	絲絨體管 主潤管 蹄係 { 下行 上行 集合管 間質管 血管壁	-	-	-	-	-	-	-	-	-	組織的變ヲ認メズ
9	33 ♂	肺結核	兩側細葉性肺結核 右側漿液性肋膜炎 左側漿液纖維素性肋膜炎 腸結核性潰瘍	絲絨體管 主潤管 蹄係 { 下行 上行 集合管 間質管 血管壁	-	-	-	-	-	-	-	-	-	絲絨體血管蹄係ハ一汎ニ膨大シ Bowman氏囊腔内顆粒狀物質ヲ蓄溜シ又少數ニ於テ荒蕪シテ結締組織變テ呈ス主潤管上皮細胞ハ一汎ニ潤腫脹シ核ノ染色性弱シ直細尿管ニ於テ其上皮細胞ハ變性シ基礎膜ヨリ脱落シテ管腔内ニ膠樣又ハ顆粒狀物ト共ニ充填スルモノ存ス
10	39 ♂	肺結核	兩側細葉性結節性肺結核(空洞形成) 脾、腎、肝ノ結核増殖性結核性腹膜炎 腸結核性潰瘍	絲絨體管 主潤管 蹄係 { 下行 上行 集合管 間質管 血管壁	-	-	-	-	-	-	-	-	-	皮質ニ於テ定型的結核結節ヲ認ム其部ハ細尿管壞死崩解シ無造構乾酪樣變性ヲ呈セリ其他ノ部ハ細尿管上皮ハ潤腫脹ス
11	23 ♀	肺結核	右大葉性乾酪性肺炎(空洞形成) 左細葉性結節性肺結核 輕度腸結核 妊娠子宮	絲絨體管 主潤管 蹄係 { 下行 上行 集合管 間質管 血管壁	-	-	-	-	-	-	-	-	-	皮質ニ於テ定型的結核結節部ハ細尿管壞死崩壞シテ其造構ヲ失フ曲細尿管上皮細胞ハ一汎ニ潤腫脹ヲ呈ス

32	18 ♂	肺, 喉頭, 腸 結核症	兩側大葉性, 細 葉性乾酪性肺炎 (空洞形成) 肺粟粒結核 肝, 腎, 脾粟粒結 核	絲 毳 體 主 管 管 潤 管 管 蹄 係 { 下行 上行 集 合 管 間 質 質 血 管 壁	- - ±(黃赤) - ±(黃赤) - - -	- - ±(青) - ±(青) - - -	- - - - - - -	- - - - - - -	- - - - - - -	- - - - - - -	- - - - - - -	- - - - - - -	主管上皮細胞ハ一汎 ニ滲漏腫脹ス 毛細血管ハ一汎ニ充 盈擴張ス 兩質境界部ニ定型の 結核ヲ認ム
33	21 ♂	肺 結 核	小葉性結節性肺 結核 腸結核性潰瘍	絲 毳 體 主 管 管 潤 管 管 蹄 係 { 下行 上行 集 合 管 間 質 質 血 管 壁	- - - ±(黃赤) ±(黃赤) - - -	- - - ±(青) ±(青) - - -	- - - ± ± - - -	- - - - - - -	- - - ± ± - - -	- - - - - - -	- - - - - - -	- - - - - - -	血管ノ充盈擴張一汎 ニ著明
34	60 ♀	胃 癌	胃痛 肝, 肺, 腸間膜, 後腹膜, 右鎖骨 下淋巴腺轉移性 癌	絲 毳 體 主 管 管 潤 管 管 蹄 係 { 下行 上行 集 合 管 間 質 質 血 管 壁	+ (赤又ハ 黃赤) - + (赤) - + (赤) + (赤) ±(黃赤) + (黃赤)	+ (莖又ハ 莖赤) - + (莖青又 ハ青) - + (莖青又 ハ青) + (莖青又 ハ青) ±(莖赤) + (莖赤)	- - ± - ± + - -	± - + - + + - -	+ - - - - - - -	- - - - ± ± - -	+ (加温 消失) + (〃) ± (〃) - + (〃) + (〃) - -	- - - + - - - -	絲 毳 體 ハ 所々 荒蕪 シ テ 結締 織 様 ニ 變 シ 一 般 ニ Bowman 氏 囊 纖 維 ハ 増 殖 硝 子 様 ヲ 呈 シ 血 管 蹄 係 組 織 粗 ト ナリ 蜂 窠 狀 觀 ヲ 呈 ス 細 尿 管 上 皮 ハ 一 般 ニ 輕 度 ノ 滲 漏 腫 脹 ヲ 認 ム
35	64 ♀	肺 臟 癌	左側上葉性肺臟 癌 氣管支淋巴腺及 兩側副腎及腸轉 移性癌 心, 肝褐色萎縮	絲 毳 體 主 管 管 潤 管 管 蹄 係 { 下行 上行 集 合 管 間 質 質 血 管 壁	±(黃赤) - ±(黃赤) - ±(黃赤) - ±(黃赤) -	±(青) - ±(青) - ±(青) - ±(莖赤) -	- - - - ± ± - -	± - ± - ± ± - -	± - ± - ± ± - -	- - - - - - - -	- - - - - - - -	- - - + - - - -	絲 毳 體 血 管 蹄 係 及 一 汎 毛 細 血 管 ノ 輕 度 ノ 擴 張 充 盈 ヲ 認 ム 細 尿 管 ハ 所々 硝 子 圓 柱 ヲ 容 ル

36	49 ♂	胃 癌	膽汁性腹膜炎手術後(胃腸吻合、胃切除)肺水腫	絲 毬 體 主 管 管 潤 管 蹄係 { 下行 上行 集 合 管 間 質 血 管 壁	±(黃赤) — +(黃赤) — +(黃赤) — +(黃赤) — +(黃赤)	±(堇青) — +(堇青) — +(堇青) — +(堇青)	— — + — + — — —	— — — — — — — —	± — + — + — + — +	+ (加温消失) ++ (〃) + (〃) — + (〃) + (〃) + (〃) — + (〃)	— — — + — + — — —	絲 毬 體 ハ少數ノモノニ 荒蕪シテ結締組織様 變シ其他ノモノハ一 汎ニ水腫狀變ナリ血 其蹄係粗トナリ 液ノ充盈ヲ認ム 主管上皮細胞ハ一汎 ニ潤腫脹シ管腔内 ニ顆粒狀物ヲ容ル其 他細尿管ニ於テ所々 硝子様圓柱ヲ容ル
37	74 ♀	胃 癌	原發性肝臟癌 肝門淋巴腺轉移 性癌 胃、結腸轉移性 癌 全身性黃疸、動 脈硬化	絲 毬 體 主 管 管 潤 管 蹄係 { 下行 上行 集 合 管 間 質 血 管 壁	±(黃赤) 卅(黃赤) 卅(黃赤) 卅(黃赤) 卅(黃赤) + (黃赤) + (黃赤) —	±(堇赤) 卅(堇赤) 卅(堇赤) 卅(堇赤) 卅(堇赤) + (堇赤) + (堇赤) —	— — — — — — — —	— — — — — — — —	+ (加温消失) 卅(〃) ++ (〃) + (〃) 卅(〃) ++ (〃) — ±(〃)	— — — + + + — —	絲 毬 體 ハ多クノモノ ニ於テ荒蕪シ結締 樣變ナリ呈皮質ノ 著シク皮質ハ所々小 圓形細胞ノ浸潤及ビ 細尿管ノ萎縮消滅ヲ 認ム	
38	37 ♂	原發性肝臟 癌	原發性肝臟癌 肺、氣管支淋 腺轉移性癌、腹 水	絲 毬 體 主 管 管 潤 管 蹄係 { 下行 上行 集 合 管 間 質 血 管 壁	±(黃赤) 卅(黃赤) +(黃赤) +(黃赤) +(黃赤) +(黃赤) ±(黃赤) ±(黃赤)	±(堇赤) 卅(堇赤) +(堇赤) +(堇赤) +(堇赤) +(堇赤) ±(堇赤) ±(堇赤)	— — — — — — — —	— ± ± ± ± ± — —	+ (加温消失) 卅(〃) + (〃) ±(〃) + (〃) + (〃) — —	— — — + — — — —	皮質ニ於テハ間質結 締組織ハ粗トナリ水 腫狀觀ヲ呈シ髓質ニ 於テ毛細管ノ充盈擴 張著シク 主管上皮細胞ハ一汎 ニ輕度ノ潤腫脹ヲ ナセリ	
39	46 ♂	腹部腫瘍	後腹膜圓形細胞 性肉腫 腎臟變性 輕度胸水 輕度腹水	絲 毬 體 主 管 管 潤 管 蹄係 { 下行 上行 集 合 管 間 質 血 管 壁	±(赤) — ++(赤) +(黃赤) ±(赤) ±(赤) +(黃赤) —	±(青) — ++(青) +(青) ±(青) ±(青) +(青) —	± — ++ ± ± ± — —	— — + — ± ± — —	± (加温消失) ±(〃) + (〃) — + (〃) ±(〃) — —	— — — + — — — —	絲 毬 體 ハ所々荒蕪シ テ結締組織ニ變ジ其 周圍ニ小圓形細胞ノ 浸潤、間質ノ増殖明 ニシテ細尿管ハ萎縮 又細尿管ハ處々硝 子様圓柱ヲ容ル	

40	40 ♂	頭 部 痛	頭部痛 左側下葉慢性肺膿瘍 炭肺	絲 毳 體 主 管 潤 管 蹄係 { 下行 上行 集 合 管 間 質 血 管 壁	— — ++(黃赤) +(黃赤) +(黃赤) — ±(黃赤) ±(黃赤)	— — ++(堇青) +(青) +(青) — ±(堇青) ±(堇青)	— — — +	— — — — — — —	— — — — — — —	±(加温消失) +(%) — +(%) +(%) +(%) — —	— — — +	絲毳體血管蹄係及其他ノ毛細管ニ於テモ一汎ニ擴張充盈ヲ呈セリ
41	48 ♀	右脛骨肉腫 縱隔竇肉腫	手術後(左胸手術, 右下肢切斷)肺, 縱隔竇肉腫石樣變性	絲 毳 體 主 管 潤 管 蹄係 { 下行 上行 集 合 管 間 質 血 管 壁	±(淡黃赤) — +(赤) +(黃赤) +(赤) ±(赤) +(黃赤) +(黃赤)	±(淡堇青) — +(堇青) +(堇又ハ青) +(堇又ハ青) ±(堇青) +(堇青) +(堇赤)	— — — ±	— — — — — — —	— — ± — ± — — ±	+(加温消失) ++(%) +(%) — +(%) +(%) — ±(%)	— — — +	絲毳體 Bowman 氏囊結構織ハ肥厚硝子樣變性ヲ呈シ其血管蹄係モ變性ニ陥リ「エオジン」ニテ不平等ニ染色ス囊腔内膠様物ヲ容ル細尿管上皮ハ瀰濁腫脹セリ
42	58 ♂	腸 痛	S 字狀結腸癌 右肺水腫 左肺萎縮 動脈硬化 動脈硬化性萎縮腎	絲 毳 體 主 管 潤 管 蹄係 { 下行 上行 集 合 管 間 質 血 管 壁	— — +(黃赤) — +(黃赤) — +(淡黃赤) —	— — +(青) — +(青) — +(堇赤) —	— — — — — — —	— — — — — — —	— — — — — — —	— — — — — — —	— — — — — — —	絲毳體ノ荒蕪シテ結構ヲ呈セルモノニ於テハ其周圍小圓形細胞ノ浸潤及間質ノ増殖著シク細尿管ノ萎縮變性ヲ伴ヘリ毛細血管ハ一汎ニ充盈擴張シ細尿管内膜ハ肥厚變性セリ
43	30 ♂	胃 痛	胃硬性病 結腸穿孔性腐敗 性腹膜炎 漿液性肺炎 實質性腎炎	絲 毳 體 主 管 潤 管 蹄係 { 下行 上行 集 合 管 間 質 血 管 壁	— — +(黃赤) — +(黃赤) — — —	— — +(青) — +(青) — — —	— — +	— — — — — — —	— — — — — — —	— — — — — — —	— — — — — — —	絲毳體血管蹄係ハ充盈シ Bowman 氏囊腔ハ擴大シテ内ニ顆粒狀又ハ膠様物ヲ容ル細尿管上皮ハ其胞體一汎瀰濁腫脹シ毛細管ハ一汎ニ擴張充盈ヲ呈ス

44	27 ♀	直腸癌	直腸切除後、纖維性骨盤膜炎、全身貧血、右腎多發性筋腫(ハマルトーム)	絲主潤	毳管	體管	-	-	-	-	-	-	-	-	曲細尿管上皮ノ輕度ノ潤濁腫脹 皮質ニ於テハ結締纖維ノ網狀ナシ テ中ニ滑平筋ヲ圍繞セル限局性竈ヲ認ム
				蹄係	下行		-	-	-	-	-	-	-	-	
					上行		+(黄赤)	+(青)	+	-	-	+	-	-	
				集合	管		-	-	-	-	-	-	-	-	
				間質	管		-	-	-	-	-	-	-	-	
				血管	壁		-	-	-	-	-	-	-	-	
45	59 ♀	直腸癌	直腸癌、肝、腹膜後部淋巴腺轉移性癌「肝臟ヂストマ」寄生	絲主潤	毳管	體管	±(黄赤)	±(莖赤)	-	-	±	-	-	-	絲毳體ハ1-2荒蕪シテ結締纖維様變テ呈スルモノヲ認ム 細尿管上皮ハ一汎ニ輕度ノ潤濁腫脹ヲナセリ
				蹄係	下行		-	-	-	-	-	-	-	-	
					上行		+(黄赤)	+(莖赤又ハ青)	+	+	+	±	-	-	
				集合	管		-	-	-	-	-	-	-	-	
				間質	管		+(黄赤)	+(莖赤)	-	-	+	-	-	-	
				血管	壁		-	-	-	-	-	-	-	-	
46	35 ♂	肺臓肉腫	肺臓肉腫、右側鼠蹊部肉腫、硬膜轉移性肉腫	絲主潤	毳管	體管	±(黄赤)	±(青)	-	-	±	-	-	-	絲毳體血管蹄係其他一汎ニ毛細血管ノ充盈擴張ヲ認ム
				蹄係	下行		-	-	-	-	-	-	-	±	
					上行		+(黄赤)	+(青)	-	+	+	-	-	-	
				集合	管		-	-	-	-	-	-	-	-	
				間質	管		-	-	-	-	-	-	-	-	
				血管	壁		-	-	-	-	-	-	-	-	
47	68 ♂	胃癌	胃癌、肝、大彎部淋巴腺轉移性癌、續發性結腸癌、心臟褐色萎縮、腎、脾萎縮、膽石	絲主潤	毳管	體管	+(黄赤又ハ赤)	+(莖赤又ハ青)	-	-	+	±	-	-	肉眼上表面陷凹セル部ハ絲毳體一汎ニ荒蕪シテ細尿管亦萎小シ其内ニ「エオジン」ニ濃染セル膠様物ヲ容ル、其部ハ間質ノ著明ノ増殖小圓形細胞ノ浸潤ヲ伴フ
				蹄係	下行		-	-	-	-	-	-	-	-	
					上行		+(赤)	+(青)	-	-	-	+	-	-	
				集合	管		-	-	-	-	-	-	-	-	
				間質	管		+(黄赤)	+(莖赤)	-	-	-	-	-	-	
				血管	壁		+(淡黄赤)	+(莖赤)	-	-	+	-	-	-	

48	39 ♂	直腸癌	直腸膠様癌 肝, 肝門部淋 腺, 鼠蹊部淋 腺, 轉移癌 腹水, 胸水, 心臟 褐色色素沈着	絲毬體 主潤管 蹄係 { 下行 上行 集合管 間質 血管壁	卅(黃赤) — — — — — — — — — 卅(黃赤)	卅(莖赤) — — — — — — — — — 卅(莖赤)	— — — — — — — — — —	— — — — — — — — — —	卅 +	+	卅(加温 消失) — — — — — — — — — 卅(ノ)	— — — — — — — — — —	絲毬體 Bowman 氏 囊ハ擴張シ内ニ顆粒 狀物ヲ容ル 細尿管管腔亦擴大シ テ内ニ顆粒狀物ヲ瀦 溜ス	
49	68 ♂	肺臟癌	右側肺臟癌 氣管支, 後腹膜 淋腺, 肋膜轉 移癌 腸粘膜炎脂肪疝	絲毬體 主潤管 蹄係 { 下行 上行 集合管 間質 血管壁	+(黃赤) +(黃赤) 卅(黃赤) — 卅(黃赤) 卅(黃赤) +(黃赤) +(黃赤) +(黃赤)	+(莖青) +(莖青) 卅(莖青) — 卅(莖青) 卅(青) +(莖赤) +(莖赤) +(莖赤)	— — — — + + + — —	— — 卅 — + — — — —	— — + — + + — — —	— — — — — — — — — —	— — — — — — — — — —	— — — — — — — — — —	絲毬體ハ所々荒蕪シ テ結締組織ニ變ジ間 質ノ増殖細尿管ノ萎 縮ヲ呈シ細尿管内ニ 硝子樣物ヲ容ル葉間 腎動脈ノ細血管ニ於 テハ内膜ノ肥厚ヲ認 ム	
50	38 ♂	肩胛部及肺 臟肉腫	手術後 肩胛間部肉腫 肺臟轉移性肉腫	絲毬體 主潤管 蹄係 { 下行 上行 集合管 間質 血管壁	— — +(黃赤) — +(黃赤) — — — —	— — +(青) — +(青) — — — —	— — — — — — — — —	— — — — — — — — —	— — + — + — — — —	— — — — — — — — —	— — — — — — — — —	— — — — — — — — —	— — — — — — — — —	絲毬體血管蹄係ハ鬆 粗トナリ蜂巢狀ヲ呈 シ Bowman 氏囊ニ 纖維肥厚シ硝子樣ニ 變性シ囊腔内膠様物 ヲ充タス
51	35 ♂	直腸癌	直腸膠様癌 腸間膜淋腺轉 移癌 腹腔漿膜下癌性 浸潤 大動脈硬化	絲毬體 主潤管 蹄係 { 下行 上行 集合管 間質 血管壁	— — +(黃赤) +(黃赤) ±(黃赤) ±(黃赤) ±(黃赤) ±(黃赤)	— — +(青) +(青) ±(青) ±(青) ±(莖赤) ±(青)	— — — — ± ± — — —	— — — — — — — — —	— — — — ± ± — — —	— — — — — — — — —	±(加温 消失) +(ノ) +(ノ) — +(ノ) ±(ノ) — — —	— — — — — — — — —	特ニ記載スベキ組織 的變ヲ認メズ	

52	35 ♂	胃 癌	胃扁平性癌 胃小彎淋巴腺轉 移癌 右側肋膜續發性 痛 腹水	絲 毬 體 主 管 管 潤 管 管 蹄係 { 下行 上行 集 合 管 間 質 質 血 管 壁	- - ++(黃赤) +(黃赤) +(黃赤) - +(黃赤) -	- - +(青) +(青) +(青) - +(青) -	- - - - - - - -	- - + ± ± - - +	- - ++ + + - - -	- - - - - - - -	- - - + + - - -	- - - - - - - -	特ニ記載スベキ組織 的變ヲ認メズ
53	45 ♂	胃 幽 門 癌	胃切除及胃腸吻合手術後 加答兒性肺炎 萎縮腎	絲 毬 體 主 管 管 潤 管 管 蹄係 { 下行 上行 集 合 管 間 質 質 血 管 壁	+(黃赤) - +(黃赤) +(黃赤) ±(黃赤) ±(黃赤) ±(黃赤) +(黃赤)	+(堇青) - +(青) +(青) ±(青) ±(青) ±(堇青) +(堇青)	- - - - - - - -	- - - - - - - -	- - - - - - - -	- - - - - - - -	- - - - - - - -	絲毬體ハ所々荒蕪シテ 結締織樣ニ變ジ一 汎ニBowman氏囊 壁ノ纖維ハ肥厚増殖 シ血管蹄係内破細胞 ハ變性ヲ呈セリ 皮質間質結締織ハ一 汎ニ増殖シ細尿管ノ 萎小變性ヲ伴フ	
54	60 ♂	胃 癌 肝 臟 癌	胃癌 肝臟轉移癌 肺臟部分性石灰 樣變性	絲 毬 體 主 管 管 潤 管 管 蹄係 { 下行 上行 集 合 管 間 質 質 血 管 壁	+(黃赤) - +(黃赤) +(黃赤) ±(黃赤) ±(黃赤) -	+(堇青) - +(堇青) +(堇青) ±(堇青) ±(堇青) -	- - - - - - -	- - - - - - -	- - - - ± - - -	- - - - - - - -	- - - - - - - -	- - - - - - - -	絲毬體ハ散在性ニ荒 蕪シテ間質ハ輕度ノ 増殖ヲ呈ス
55	55 ♂	胃 癌	手術後(胃切除 胃腸吻合) 壓迫部上部結腸 擴大症 輕度萎縮腎 部分性氣管支肺 炎	絲 毬 體 主 管 管 潤 管 管 蹄係 { 下行 上行 集 合 管 間 質 質 血 管 壁	±(黃赤) - +(黃赤) +(黃赤) ++(黃赤) +(黃赤) ±(黃赤) +(黃赤)	±(堇青) - +(堇青) +(堇青) ++(堇青) +(堇青) ±(堇青) ±(堇青)	- - - - - - - -	- - - - - - - -	- - - - - - - -	- - - - - - - -	- - - - - - - -	死後ノ變強シ	

56	50 ♂	胃 肝 癌 癌	胃癌 胃上下淋巴腺、 後腹膜及縱隔、 淋巴腺轉移癌 肝臟褐色萎縮 心臟褐色萎縮	絲絨體 主 管 管 潤 管 管 蹄係 { 下行 上行 集合管 間質 血管 壁	++(黃赤) ±(黃赤) ++(黃赤) ±(黃赤) +(黃赤) +(黃赤) +(黃赤) +(黃赤) +(黃赤)	++(青) ±(青) ++(青) ±(青) +(青) +(青) +(青) +(青) +(青)	— — — — — — — — —	++ ++ ++ ++ ++ — — — —	++ ++ ++ ++ ++ — — — —	±(加温消失) ++(ノ) — — +(ノ) ±(ノ) — — —	— — — — — — — — —	絲絨體ハ2-3 荒蕪シテ 結締組織様無造構ヲ 呈シ 細尿管上皮ハ輕度ノ 潤腫脹ヲ呈ス
57	56 ♂	胃 癌	胃腺様癌 胃上部及腸間膜 淋巴腺轉移癌 高度ノ全身黃疸 心臟褐色萎縮 動脈硬化性萎縮 腎	絲絨體 主 管 管 潤 管 管 蹄係 { 下行 上行 集合管 間質 血管 壁	— — +(黃赤) ±(黃赤) +(黃赤) — ±(黃赤) +(黃赤)	— — +(青) ±(青) +(青) — ±(青) +(莖青)	— — — ± ± — — —	— — — — ± — — — —	— — — — — — — — —	— — — — — — — — —	— — — — — — — — —	絲絨體ハ荒蕪シテ結 締組織様ヲ呈スルモノ 散在ス 細血管ハ内膜ノ肥厚 變性ヲ認ム
58	57 ♂	胃 癌	胃腺様癌 腸間膜、後腹膜 胃小彎淋巴腺轉 移癌 心臟褐色萎縮 動脈硬化性萎縮 腎	絲絨體 主 管 管 潤 管 管 蹄係 { 下行 上行 集合管 間質 血管 壁	±(黃赤) — ++(黃赤) — ++(黃赤) — +(黃赤) +(黃赤)	±(青) — ++(青) — ++(青) — +(莖青) +(莖青)	— — — — + — — —	— — — — — — — — —	— — — — — — — — —	— — — — — — — — —	— — — — — — — — —	肉眼上表面陷凹セル 部ニ於テハ絲絨體ハ變 荒蕪シ結締組織様ニ變 シ 間質ノ増殖、小圓形 細胞ノ浸潤、細尿管 ノ萎縮ヲ呈シ 細血管ノ内膜ノ肥厚 ヲ認ム
59	43 ♂	躁 狂	左右心室擴張 肺動脈及水腫 腎臟實質變性 喉頭會厭部水腫	絲絨體 主 管 管 潤 管 管 蹄係 { 下行 上行 集合管 間質 血管 壁	— ±(黃赤) ±(黃赤) ±(淡黃赤) +(淡黃赤) — ±(淡黃赤) —	— ±(莖赤) ±(莖赤) ±(莖赤) +(莖赤) — ±(莖赤) —	— ± ± ± + — — —	— ± ± ± + — — —	— — — — — — — — —	— — — — — — — — —	— — — — — — — — —	絲絨體血管蹄係ノ充 血 主管上皮ノ潤腫及核 消滅(死後ノ變化)

60	28 ♂	麻痺性癡呆 症兼脚氣	肋膜及心內膜下 出血 大動脈發育不全 大動脈內膜變性 腎丸發育不全	絲 毬 體 主 管 管 潤 管 管 蹄係 { 下行 上行 集 合 管 間 質 血 管 壁	±(赤) — +(赤) — ±(黃赤) +(黃赤) — —	±(莖青) — +(莖青) — ±(莖青) +(莖青) — —	± — + — ± + — —	— — — — — — — —	± — ± — ± — — —	+(加温 消失) +(〃) ±(〃) — +(〃) +(〃) — —	— — — + — — — —	絲 毬 體 ハ 莖 蕪 シ テ 結 締 織 様 ナ 呈 ス ル モ ノ ヲ 少 數 ニ 認 ム 細 尿 管 上 皮 ノ 潤 濁 腫 脹
61	52 ♂	麻痺性癡呆 症	左側上葉性肺炎 兩側肋膜纖維性 癒着 膝臟出血 左側副腎皮質水腫	絲 毬 體 主 管 管 潤 管 管 蹄係 { 下行 上行 集 合 管 間 質 血 管 壁	±(黃赤) — ±(黃赤) — +(黃赤) +(黃赤) — ±(淡黃赤)	±(莖青) — ±(莖青) — +(莖赤) +(莖青) — ±(莖赤)	± — ± — + + — —	— — ± — ± ± — ±	± — + + ± ± — —	+(加温 消失) +(〃) +(〃) — +(〃) +(〃) — —	— — — + + — — —	肉 眼 的 外 面 陷 凹 セ ル 部 ニ 於 テ ハ 絲 毬 體 ハ 多 數 ニ 於 テ 莖 蕪 シ テ 結 締 織 様 ナ 呈 シ 小 圓 形 細 胞 ノ 集 積 間 質 結 締 織 ノ 增 殖 著 明 該 部 細 尿 管 ハ 萎 小 シ 其 上 皮 細 胞 ハ 扁 平 非 薄 ト ナ リ 內 「 エ オ ジ ン 」 ニ 濃 染 セ ル 硝 子 樣 物 ヲ 容 レ 其 他 ノ 部 ニ 於 テ ハ 絲 毬 體 蹄 係 ノ 擴 張 シ テ 血 球 ナ 含 ム コ ト 多 數 又 皮 質 毛 細 管 ノ 擴 張 充 盈 著 シ
62	38 ♂	麻痺性癡呆 症	心臟褐色色素沈 着 心筋變性 肺氣腫	絲 毬 體 主 管 管 潤 管 管 蹄係 { 下行 上行 集 合 管 間 質 血 管 壁	±(赤) — +(黃赤) +(黃赤) ±(黃赤) — —	±(莖青) — +(莖青) +(莖青) ±(莖青) — —	± — + + ± — —	— — — — — — — —	± — ± — ± — — —	±(加温 消失) ±(〃) — — +(〃) +(〃) — —	— + + — — — — —	特ニ記載スベキ組織 的變ヲ認メズ
63	33 ♂	麻痺性癡呆 症	心臟實質變性 左側加答兒性肺 炎 腎臟變性 胃腸加答兒 左側肋膜纖維性 癒着	絲 毬 體 主 管 管 潤 管 管 蹄係 { 下行 上行 集 合 管 間 質 血 管 壁	+ (赤) — ±(赤) — ±(赤) ±(赤) ±(赤) —	+ (莖青) — ±(莖青) — ±(莖青) ±(莖青) ±(莖青) —	— — — — — — — —	— — — — — — — —	±(加温 消失) +(〃) — — — ±(〃) — —	— — — — — — — —	絲 毬 體 ハ 2-3 莖 蕪 シ テ 結 締 織 様 ナ 呈 シ 蹄 係 內 血 球 ナ 含 ム コ ト 多 シ 細 尿 管 上 皮 細 胞 ハ 潤 濁 腫 脹 著 明 ニ シ テ 核 染 色 性 ナ 失 フ 皮 質 髓 質 ノ 毛 細 管 ハ 一 汎 ニ 中 等 度 ニ 擴 張 充 盈 ス	

68	64 ♂	麻痺性癡呆症	心臟肥大 微毒性動脈炎 輕度脾臟腫大 右側限局性肺炎 肺水腫	絲 毬 體 主 管 管 潤 管 管 蹄係 { 下行 上行 集 合 管 間 質 血 管 壁	- - ++(黃赤) - +(黃赤) - - - ±(黃赤)	- - +(青) - +(青) - - - ±(莖)	- - - - - - - -	- - + + + + - - -	+(加温消失) +(〃) - - +(〃) - - -	- - - - - - - -	絲 毬 體 ハー 汎ニ 稍腫 大シ 血管 蹄係ハ 退行 性變チ示シテ「エニ ジン」ニ 不平等ニ 染ハ 色シ 主管 上皮 細胞 其胞體 潤濁シ 核染色 性弱ク 消滅セリ
69	47 ♂	躁狂兼水腫性脚氣	肺臟膿瘍 甲状腺輕度腫大 腎, 肝, 脾充血 輕度腦膜出血	絲 毬 體 主 管 管 潤 管 管 蹄係 { 下行 上行 集 合 管 間 質 血 管 壁	±(赤) - ++(赤) ±(黃赤) ±(赤) ±(黃赤) - -	±(青) - ++(青) ±(青) ±(青) ±(青) - -	± - ++ - ± ± - -	- - ± - ± ± - -	- - - - - - - -	- - - - - - - -	絲 毬 體ハ 2-3 荒蕪シ テ 結締織樣ニ 變ズ
70	33 ♀	早發性癡呆症	腸加答兒 腎變性	絲 毬 體 主 管 管 潤 管 管 蹄係 { 下行 上行 集 合 管 間 質 血 管 壁	++(黃赤) ±(黃赤) +(黃赤) - +(黃赤) - ±(黃赤) +(黃赤)	++(青) ±(青) +(青) - +(青) - ±(青) +(青)	- - - - - - - -	- - - - - - - -	+(加温消失) - - - - - - +(〃)	- - - - - - - -	主管 上皮 細胞ハ 潤濁 腫脹シ 絲 毬 體 血管 蹄 係ハ 腫大シ 核ノ 增生 ヲ 認ム Bowman氏 囊壁 纖維 肥厚硝子樣變ヲ 呈ス
71	39 ♂	麻痺性癡呆症	腎充血	絲 毬 體 主 管 管 潤 管 管 蹄係 { 下行 上行 集 合 管 間 質 血 管 壁	±(黃赤) - ±(黃赤) - +(黃赤) ±(黃赤) - ±(黃赤)	±(莖赤) - +(青) - +(青) ±(青) - ±(莖赤)	- - - - - - - -	- - - - - + ± - ±	- - - - - - - -	- - - - - - - -	絲 毬 體 血管 蹄係ハ 一 汎ニ 擴張 充盈ス

80	80 ♀	老 衰 死	動脈硬化 左側肺炎程度ノ 癥瘕 子宮纖維腫 子宮水腫 膽石 蛔蟲寄生	絲 毬 體 主 管 管 潤 管 管 蹄係 { 下行 上行 集 合 管 間 質 血 管 壁	+ (黃赤) — + (黃赤) — + (黃赤) + (黃赤) + (黃赤) + (黃赤)	+ (黃赤) — + (黃赤) — + (黃赤) + (黃赤) — + (黃赤)	— — — — — — — —	— — — — — — — —	— — — — — — — —	± (加溫 消失) + (〃) ++ (〃) — ++ (〃) ++ (〃) — —	— — — + — + — —	絲 毬 體 ハ 2-3 荒蕪シテ 結締織樣ニ變ジ管腔 細尿管ニ於テシテ中ニ 著シク擴大シテ溜ス、 顆粒狀物ヲ滯溜ス、ハ 葉間腎動脈細血管、ハ 其内膜ノ肥厚變性ヲ 認ム
81	54 ♀	腦 溢 血	左側腦出血 動脈硬化 左側下葉加答兒 性肺炎	絲 毬 體 主 管 管 潤 管 管 蹄係 { 下行 上行 集 合 管 間 質 血 管 壁	++ (黃赤) ± (黃赤) ++ (黃赤) — + (黃赤) ± (黃赤) + (黃赤) ++ (黃赤)	++ (莖赤) ± (莖赤) ++ (莖赤) — + (莖赤) ± (莖赤) + (莖赤) ++ (莖赤)	— — + — + — — —	+ ± + — + ± — +	++ — + — + ± — +	— — — — + (〃) + (〃) — + (〃)	— — — + + + — —	絲 毬 體 ハ 所々荒蕪シテ 結締織樣ヲ呈シ其他ノ モノニ於テハ Bowman 氏囊壁纖維増殖肥厚シ テ硝子樣變性ヲセリ 皮質表面ニ接シ限局性 ニ小圓形細胞ノ浸潤、 間質ノ増殖、細尿管ノ 萎小セル部ヲ認ム 細血管内膜ハ一汎ニ著 明ナル肥厚變性ヲナス
82	62 ♀	腦 溢 血	左側腦軟化 大動脈硬化 子宮筋腫 全身老人性萎縮	絲 毬 體 主 管 管 潤 管 管 蹄係 { 下行 上行 集 合 管 間 質 血 管 壁	± (淡黃赤) ± (黃赤) + (黃赤) — + (黃赤) ± (黃赤) ± (黃赤) ++ (黃赤)	± (莖赤) ± (莖青) + (莖青) — + (莖青) ± (莖青) ± (莖赤) ++ (莖赤)	— — — — — — — —	— ± + — ± ± — —	— ± + — — — — +	± (加溫 消失) ± (〃) + (〃) — + (〃) — — + (〃)	— — — — — — — —	絲 毬 體 ハ 所々荒蕪シ テ結締織樣ヲ呈シ皮 質表面ニ接シ間質ノ 著明ノ増殖小圓形細 胞ノ浸潤細尿管ノ萎 小ヲ認メ 細血管内膜ハ一汎ニ 肥厚變性ヲ呈ス
83	70 ♂	老 衰 死	腦、脾、腎、肝萎 縮 胃萎縮及筋腫 慢性腸加答兒 動脈硬化	絲 毬 體 主 管 管 潤 管 管 蹄係 { 下行 上行 集 合 管 間 質 血 管 壁	+ (黃赤又 赤) ++ (黃赤) ++ (黃赤) + (黃赤) ++ (黃赤) ++ (黃赤) ++ (黃赤) — (莖赤)	+ (莖赤) ++ (莖赤) ++ (青) + (青) ++ (莖赤) ++ (莖赤) ++ (莖赤) —	— — — — — — — —	+ — ++ — + — — —	— — — — — — — —	± (加溫 消失) ++ (〃) — — — ++ (〃) ++ (〃) — —	— — — + — + — —	絲 毬 體 ハ 2-3 荒蕪シ テ結締織樣ニ變ジ毛 細血管及血管蹄係ハ 一汎ニ充盈擴張シ主 管上皮ハ一汎ニ其胞 體滯溜ノ度強ク核染 色力弱シ其他所々ニ 内壁ニ單層圓柱上皮 細胞ヲ破覆セル囊胞 ヲ認ム

84	75 ♂	老 衰 死	肋膜纖維性癒着 胃腸加答兒 直腸擴張	絲 毬 體 主 管 管 潤 管 管 蹄係 { 下行 上行 集 合 管 間 質 血 管 壁	- ++(黃赤) ++(黃赤) - ++(黃赤) +(黃赤) +(黃赤) +(淡黃赤)	- ++(青) ++(青) - ++(青) +(青) +(莖青) +(淡莖青)	- - - - - - -	- + + + + + +	- + + + + + +	- +(加溫消失) - +(%) +(%) - -	- - - + - - -	絲毬體ハ所々荒蕪シテ結締織様ニ變シモノヲ認ム 血管蹄係ハ輕度ノ擴張充盈ヲ認ム
85	51 ♂	不 明	大動脈硬化及血栓 直腸擴張 腎變性 腸加答兒	絲 毬 體 主 管 管 潤 管 管 蹄係 { 下行 上行 集 合 管 間 質 血 管 壁	±(赤) ++(黃赤) ++(黃赤) +(黃赤) ++(黃赤) ++(黃赤) ±(黃赤) -	±(青) ++(青) ++(青) +(青) ++(青) ++(青) ±(莖) -	- - - - - - - -	± + + + + + + -	- + + + + + + -	±(加溫消失) +(%) - - +(%) +(%) ±(%) -	- - - + - - - -	絲毬體ハ2-3荒蕪シテ結締織様ニ變ジ其他ノモノニ於テハ血管蹄係ノ充盈及腫大變性ヲ認メBowman氏囊壁纖維ノ増殖肥厚ヲ呈ス、主管上皮ハ著明ノ潤濁腫脹ヲ呈シ細尿管ニ於テ雲狀又ハ粒狀ノ石灰沈着ヲ認ム
86	78 ♀	老 衰 死	輕度ノ心臟肥大 腎臟萎縮及囊腫 腸加答兒	絲 毬 體 主 管 管 潤 管 管 蹄係 { 下行 上行 集 合 管 間 質 血 管 壁	+(黃赤) ++(黃赤) ±(黃赤) +(黃赤) +(黃赤) +(黃赤) +(黃赤)	+(莖赤) ++(莖赤) ±(青) +(青) +(青) +(青) ±(莖青) +(莖青)	- - - ± ± - - -	- - - - - - - -	- - - ± + - - -	- - - - - - ±(加溫消失)	- - ± + - - - -	肉眼的表面凹陷セル部ニアリテハ絲毬體ハ荒蕪シテ結締織様ニ變シ間質ノ増殖、小圓形細胞ノ浸潤、細尿管ノ萎縮ヲ認ム 主管上皮細胞ハ潤濁腫脹ヲ呈シ皮質細尿管ノ内膜ハ肥厚變性ヲ呈ス其他内壁ハ單層圓柱上皮細胞ニヨリテ被覆サル、囊胞數個ヲ認ム
87	73 ♀	老 衰 死	兩側加答兒性肺炎 動脈硬化 加答兒性及囊膜性腸炎 腎臟顆粒狀萎縮	絲 毬 體 主 管 管 潤 管 管 蹄係 { 下行 上行 集 合 管 間 質 血 管 壁	±(黃赤) ++(黃赤) - ±(黃赤) ++(黃赤) - +(淡黃赤) +(赤)	±(莖青) ++(莖青) - ±(莖青) ++(莖青) - +(莖青) +(莖青)	- - - ± ++ - - -	± ± + + + + +	- - - ±(%) +(%) - - -	- - - + - - - -	絲毬體ハ所々荒蕪シテ結締織様ニ變ジ其他ノモノニ於テハ血管蹄係ノ擴張充盈ヲ認ム 表面癢痕狀ヲ呈セル部ハ間質ノ増殖、細尿管ノ萎縮、小圓形細胞ノ浸潤ヲ認ム 主管上皮細胞ハ輕度ノ潤濁腫脹ヲ呈シ皮質細尿管ハ一汎ニ内膜ノ肥厚變性ヲ認ム	

88	76 ♂	老 衰 死	輕度ノ動脈硬化 腦、心、肝、腎ノ 萎縮 肝臟ヂストマ」 腎生 膽石	絲 毬 體 主 管 管 潤 管 管 蹄係 { 下行 上行 集 合 管 間 質 血 管 壁	+ (黃赤) 卅 (黃赤) — + (黃赤) + (黃赤) + (黃赤) ± (黃赤) ± (黃赤)	+ (莖赤) 卅 (莖赤) — + (青) + (莖赤又 青) + (青) ± (莖赤) ± (莖赤)	— — — + + ± — —	— — — — — — — — —	— — — — — — — — —	— — — — — — — — —	— — — — — — — — —	— — — — — — — — —	— — — — — — — — —	絲毬體ハ其表層ニ近ク 存在スルモノハ一汎ニ變 性ニシテ結締織ニ變 シ絲毬體周圍ニ於テ小 圓形細胞ノ集積及間質 ノ増殖、細尿管ノ萎縮 ヲ伴フ主管上皮細胞ハ 其細胞變性病變シ核染 色性弱シ又直細尿管及 集合管ハ管腔擴大シ内 腔ニ膠球物質脱落シ上皮 細胞ヲ含ム皮質細血管内 膜ノ肥厚變性ヲ認ム
89	78 ♂	老 衰 死	全身性動脈硬化 冠狀動脈石様變 性 腎臟老人性萎縮 左側加答兒性肺 炎 化膿性加答兒性 氣管支炎	絲 毬 體 主 管 管 潤 管 管 蹄係 { 下行 上行 集 合 管 間 質 血 管 壁	± (黃赤) 卅 (黃赤) + (黃赤) — 卅 (黃赤) + (黃赤) + (黃赤) + (黃赤)	± (青) 卅 (青) + (青) — 卅 (青) + (青) + (莖青) + (莖青)	— — — — + + — —	— — — — + + — —	— — — — — — — —	— — — — — — — —	— — — — — — — —	— — — — — — — —	— — — — — — — —	絲毬體ハ所々ニ於テ 荒無シテ結締織様ヲ 呈スルモノアリ肉眼 上表面凹陷セル部ハ 小圓形細胞ノ集積、 細尿管ノ萎縮、間質 ノ増殖ヲ認メ細血管 ニ於テハ内膜ノ肥厚 變性ヲ認ム
90	72 ♀	老 衰 死	右側上葉大葉性 肺炎 護膜腫性萎縮腎 大動脈高度ノ硬 化 輕度ノ膽石症	絲 毬 體 主 管 管 潤 管 管 蹄係 { 下行 上行 集 合 管 間 質 血 管 壁	+ (黃赤) 卅 (黃赤) + (黃赤) — 卅 (黃赤) + (黃赤) + (黃赤) + (黃赤)	+ (莖青) 卅 (莖青) + (莖青) — 卅 (莖青) + (莖青) + (莖) + (莖又ハ 莖青)	— — — — + + — —	— — — — + + — —	— — — — — — — —	— — — — — — — —	— — — — — — — —	— — — — — — — —	— — — — — — — —	皮質表層ニ接シ内壁 ハ單層上皮細胞ヨリ ナル大小ノ囊胞ヲ認 ム、肉眼の腎表面ノ 凹陷セル部ハ小圓形 細胞ノ浸潤細尿管ノ 萎縮ヲ呈シ細尿管壁 及 Bowman 氏囊纖 維ハ肥厚増殖シ細血 管内膜ノ肥厚ヲ認ム
91	53 ♂	腦 溢 血	心臟肥大及擴張 兩側下葉肺炎 動脈硬化 彌漫性潰瘍性腸 炎 心筋褐色色素沈 着	絲 毬 體 主 管 管 潤 管 管 蹄係 { 下行 上行 集 合 管 間 質 血 管 壁	+ (黃赤) + (赤) + (赤) — 卅 (赤) 卅 (赤) ± (黃赤) 卅 (黃赤)	+ (莖赤) + (青) + (青) — 卅 (青) 卅 (青) ± (青) 卅 (莖赤)	— — — — — — — —	+ + + + + + + +	— — — — — — — —	— — — — — — — —	— — — — — — — —	— — — — — — — —	— — — — — — — —	絲毬體ハ荒蕪シテ纖 維性ニ變セルモノハ一 在シ又血管蹄係ハ一 汎ニ充盈擴張シ間質 結締織ハ増殖シ細尿 管ハ萎縮ス其他ノ主 管上皮細胞ハ瀰漫性 腹ヲ呈シ核具染色ナ リ失ヒ又ハ不良ナリ 皮質内細血管ノ内膜 ハ肥厚變性ヲ認ム

92	83 ♂	老 衰 死	動脈硬化 腎, 肝, 脾萎縮 胃脂肪斑 心臟褐色萎縮	絲 毳 體 主 管 管 潤 管 管 蹄係 { 下行 上行 集 合 管 間 質 血 管 壁	±(黃赤) ±(黃赤) ++(黃赤) — +(黃赤) — ±(淡黃赤) +(黃赤)	±(莖青) ±(莖青) +(莖) +(莖) — ±(莖赤) ±(莖赤)	— — — — — — —	— — ++ — ± — — ±	— — + — ± — — —	+(加溫消失) ++(〃) ++(〃) — ++(〃) +(〃) — —	— — — + + + — —	絲 毳 體 = 變 セルモノ限局性 = 巢 簇シ輕度ノ小圓形細 胞ノ浸潤及間質結締 織ノ増殖、細尿管ノ 萎縮ヲ認ム、主管上 網膜ハ一汎ニ死後ノ 變著明ナリ葉間腎動 脈ノ細尿管ハ内膜肥 厚變性ヲ認ム、又細 尿管内所々ニ硝子樣 圓柱ヲ容ル
93	67 ♂	不 明	動脈硬化 心筋褐色色素沈 着 左側下葉性肺炎 腎, 脾, 肝, 腦萎 縮	絲 毳 體 主 管 管 潤 管 管 蹄係 { 下行 上行 集 合 管 間 質 血 管 壁	±(黃赤) ++(黃赤) ±(黃赤) — +(黃赤) — +(黃赤) +(黃赤)	±(莖赤) ++(莖赤) ±(青) — +(莖青又 一部分青) — +(莖赤) +(莖赤)	— — ± — + — — —	— — ± — + — — —	— — ± — — — — ±(〃) — ±(〃)	— — — + — — — — — —	絲 毳 體ハ2-3維維 = 變シ尿管上皮ハ呈 輕度ノ浸潤、脾ヲ呈 シ細尿管ハ擴大シテ 内ニ「エオツシ」ニ濃 染セル硝子樣物質ヲ 容ルニ認ム	
94	76 ♂	老 衰 死	大動脈硬化及血 栓 全身性動脈硬化 腸粘膜色素沈着 腎, 脾, 肝萎縮 大葉性肺炎	絲 毳 體 主 管 管 潤 管 管 蹄係 { 下行 上行 集 合 管 間 質 血 管 壁	+ (黃赤) + (黃赤) ++ (黃赤) — ++ (黃赤) ++ (黃赤) + (黃赤) + (黃赤)	+ (莖赤) + (莖赤) ++ (青) — ++ (大部分莖青 一部分青) ++ (〃) + (莖赤) + (莖赤)	— — + — + + — —	— — + — + + — — + +	— — — — — — — — ±(加溫消失) —	— — — + + + — — — —	絲 毳 體ハ所々荒蕪シ テ纖維樣ニ變シ其他 ノ絲 毳 體モ一汎ニ萎 縮シテ容積ヲ減ジ細 尿管殊ニ主管ニ於テ ハ其管腔ハ擴大シ葉 間腎動脈ハ其内膜ノ 肥厚變性ヲ認ム	
95	72 ♀	老 衰 死	輕度ノ動脈硬化 右側下葉性肺炎 動脈硬化性萎縮 腎 肝萎縮 胃脂肪斑	絲 毳 體 主 管 管 潤 管 管 蹄係 { 下行 上行 集 合 管 間 質 血 管 壁	±(黃赤) +(黃赤) +(黃赤) — ++(黃赤) +(黃赤) — +(黃赤)	±(莖赤) +(莖赤) +(青) — ++(青) +(青又ハ 莖青) — +(莖赤)	— — + — ++ + — —	— — + — ++ + — — — —	— — — — — — — — — —	— — — + + ± — — — —	絲 毳 體ハ一汎ニ萎小シ 一部ニ荒蕪シ纖維樣 變セルモノヲ認ム、間 質ノ増殖ハ處ニヨリ極 著明ニシテ其部ニ於 ル細尿管ノ萎縮ヲ認 又萎縮セル細尿管腔 ニ「エオツシ」ニ濃 染セル硝子樣物及血 管内膜ハ著明ノ肥厚 變性ヲ呈ス	

96	78 ♀	老衰死	動脈硬化 腎、脾、心ノ老 人性萎縮	絲絨體 主 管 潤 管 蹄係 { 下行 上行 集 合 管 間 質 血 管 壁	+ (黃赤) + (黃赤) + (黃赤) — + (黃赤) + (黃赤) + (黃赤) + (黃赤) + (黃赤)	+ (莖赤) + (莖青) + (莖青) — + (莖青又 ハ青) + (莖青) + (莖赤) + (莖赤)	— — — — + — — — —	— — — — + — — — —	— — — — + — — — —	± (加温 消失) + (〃) ± (〃) — + (〃) + (〃) + (〃) + (〃) + (〃)	— — — + + — — — —	絲絨體ハ一沉ニ萎小 シテ一部ニ於テハ荒蕪 シテ結締組織ニ變シ 間質ノ限局性ノ所々 増殖シ其細尿管 ハ萎縮シ小圓形細胞 ノ浸潤ヲ認ム葉間腎 動脈ノ管壁ハ肥厚變 性セリ
97	71 ♀	動脈硬化症	動脈硬化 動脈硬化性萎縮 腎慢性增殖性腫管 炎加答兒 腎臟貧血	絲絨體 主 管 潤 管 蹄係 { 下行 上行 集 合 管 間 質 血 管 壁	± (黃赤) — + (黃赤) — + (黃赤) + (黃赤) + (淡黃赤) + (黃赤)	± (青) — + (青) — + (青) + (青) + (淡莖赤) + (莖青)	± — + — + + — —	— — — — — — — —	— — + — — — — —	± (加温 消失) + (〃) — — + (〃) + (〃) ± (〃) —	— — — + — — — —	絲絨體ハ所々ニ於テ 荒蕪シテ結締組織ヲ 呈シ其他ノモノニ變 テモ其血管蹄係ハシ 性ニ陥リ「エオジン」 ニテ不平等ニ染色シ 蜂巢狀觀ヲ呈ス又間 質ノ増殖、細尿管萎 縮ヲ認メ硝子樣圓柱 ヲ其内ニ容ル 血管内膜ハ肥厚變性 著シ
98	78 ♀	老衰死	大動脈硬化 脾、腎ノ老人性 萎縮肉荳蔻肝	絲絨體 主 管 潤 管 蹄係 { 下行 上行 集 合 管 間 質 血 管 壁	± (黃赤) + (黃赤) + (黃赤) — + (黃赤) + (黃赤) + (淡黃赤) + (淡黃赤)	± (莖青) + (莖赤) + (青一部) — + (青一部) + (莖青) + (〃) + (淡莖赤) + (深莖赤)	± — + — + + — —	— — — — — — — —	— — + — — — — —	— — — — ± (加温 消失) + (〃) — —	— — — + — — — —	絲絨體ハ荒蕪シテ結 締組織ヲ呈シ間質ノ萎 縮、上皮細胞ノ萎縮、 血管壁ノ肥厚等 前例ト同シ
99	61 ♂	動脈硬化症	右腦顱類葉軟化 大動脈硬化	絲絨體 主 管 潤 管 蹄係 { 下行 上行 集 合 管 間 質 血 管 壁	± (黃赤) — + (黃赤) — + (黃赤) — + (黃赤) + (黃赤)	± (莖赤) — + (莖赤) — + (莖赤) — + (莖赤) + (莖赤)	— — — — + — — —	— — — — — — — —	± ± ± ± ± ± ± ±	— — — — — — — —	— — — — — — — —	絲絨體ハ荒蕪シテ結 締組織ヲ呈シ間質ノ萎 縮、上皮細胞ノ萎縮、 血管壁ノ變性肥 厚等著明ナリ

108	14 ♀	心臟瓣膜病	肺動脈瓣口狹窄 動脈管現存 心臟中隔部分性 缺損 卵圓孔現存 腎，脾，肝，胃 鬱血 全身浮腫	絲 毳 體 主 潤 管 蹄係 { 下行 上行	±(堇赤) — — — — — — — —	±(黃赤) — — — — — — — —	— — — — — — — — —	— — — — — — — — —	— — — — — — — — —	±(加溫 消失)	— — — — — — — — —	細尿管珠ニ主管上皮膚 細胞ハ胞體滲圍ニ核 染色性弱シ皮質ニ於 テ所々ニ其細尿管上 皮細胞内及間質結締 織ニ「ヘマトキシル ン」ニ濃染セル粒狀 ノ石灰沈着ノ塊ヲ 認ム 毛細管ハ一汎ニ擴張 充盈ナ呈ス	
109	51 ♂	心臟瓣膜病	大動脈瓣閉鎖不全 及會厭喉頭蹼 ノ水腫 脾，腎ノ鬱血 動脈硬化性萎縮 腎 肉荳蔻肝	絲 毳 體 主 潤 管 蹄係 { 下行 上行	±(黃赤) — — — — — — — —	±(堇赤) — — — — — — — —	— — — — — — — — —	— — — — — — — — —	— — — — — — — — —	— — — — — — — — —	— — — — — — — — —	肉眼的ニ表面陷凹セル 部ハ絲毳體ハ荒蕪シ シテ結締織ニ變シ細尿管 間質ノ増殖ヲ伴フ	
110.	41 ♂	心臟瓣膜病	僧帽瓣及大動脈 瓣閉鎖不全及狹 窄 腎，肝，脾鬱血 全身浮腫 胸水，腹水 腎，脾梗塞性癥 痕	絲 毳 體 主 潤 管 蹄係 { 下行 上行	卅(黃赤) 卅(黃赤) 卅(黃赤) — 卅(黃赤) 卅(黃赤) ±(黃赤) ±(黃赤)	卅(堇青) 卅(堇青) 卅(堇赤) — 卅(堇青) 卅(堇青) ±(堇赤) ±(堇赤)	— — — — — — — — —	± ± ± — ± ± — —	— — — — — — — — —	— — — — — — — — —	— — — — — — — — —	— — — — — — — — —	絲毳體ハ荒蕪シテ結 締織ヲ呈スルモ血管蹄 ト一方ニ於テハ増殖生 係内被細胞核ノ増スル ヲ伴ヒ肥大ヲ呈スル モノト交錯ス其癥痕 部ハ間質ノ増殖，細尿管 尿管萎縮ヲ伴フ細尿管 管腔内硝子樣物質ヲ 容ル細尿管壁ノ肥厚 變性ヲ認ム
111	48 ♀	Banti氏病	脾剝出後 肝變性，肝結節 性増殖 心筋脂肪變性 右側萎縮腎	絲 毳 體 主 潤 管 蹄係 { 下行 上行	±(黃赤) — 卅(赤) — — — — —	±(堇赤) — 卅(青) — — — — —	— — — — — — — — —	— — — — — — — — —	— — — — — — — — —	— — — — — — — — —	— — — — — — — — —	— — — — — — — — —	肉眼的ニ腎表面ノ顆 粒狀ヲ呈スル陷凹セル 部後ニ於テハ絲毳體 ハ荒蕪シテ結締織 樣ヲ呈スルモノ多ク 存在シ間質ノ増殖細尿管 尿管上皮細胞ノ萎縮ハ ヲ伴フ葉間腎動脈著 血管壁ノ肥厚變性著 明ナリ

116	25 ♂	骨髓性白血病	白血病 肝臟變性及脾腫大	絲 毳 體 主 管 管 潤 管 管 蹄 係 { 下行 上行 集 合 管 間 質 質 血 管 壁	- + (黃赤) + (黃赤) - + (黃赤) + (黃赤) +	- + (莖赤) + (莖赤) - + (莖赤) + (莖赤) -	- ± ± - +	- ± ± - +	- +	- +	- +	- +	絲 毳 體ハ2-3葉ヲシテ結締組織ニ變シテ尿管上皮細胞シテ體腔内ニ散在シテ多シク見ユ 尿管ハ萎縮シテ管腔ノアリ
117	17 ♂	白血病	白血病 脾腫大, 心筋變性	絲 毳 體 主 管 管 潤 管 管 蹄 係 { 下行 上行 集 合 管 間 質 質 血 管 壁	- + (黃赤) - ± (黃赤) + (黃赤) +	- + (青) - ± (青) + (青) +	- - - - -	- + + ± ±	- +	- +	- +	- +	細尿管殊ニ主管ヲ容ルハ擴大シテ顆粒狀物ヲ認ム
118	22 ♂	再生不能性貧血兼腎臟炎	普汎性貧血 脾腫大 肝臟多發性腺樣性增殖慢性絲毳體尿管腎炎	絲 毳 體 主 管 管 潤 管 管 蹄 係 { 下行 上行 集 合 管 間 質 質 血 管 壁	± (黃赤) ± (黃赤) + (黃赤) - + (黃赤) +	± (青) ± (青) + (青) - + (青) +	± ± + - +	- - - - +	- +	- +	- +	- +	絲 毳 體ハ散在シテ尿管内ニ存在シテ尿管壁ニ侵入シテ尿管腔内ニ脱落セルモノヲ認ム 尿管壁ハ變性シテBowman氏囊壁ニ變性シテ尿管腔内ニ脱落セルモノヲ認ム 尿管壁ハ多量ニ肥厚シテ呈スルシテ著明ニリンパ細胞及白血球ノ集積ヲ認ム
119	35 ♂	再生不能性貧血	腦點狀出血 肋膜炎, 心外膜出血斑 心筋脂肪變性 肺水腫	絲 毳 體 主 管 管 潤 管 管 蹄 係 { 下行 上行 集 合 管 間 質 質 血 管 壁	- ± (黃赤) - + (黃赤) ± (黃赤) ± (黃赤)	- ± (莖赤) - + (青) ± (青) ± (莖青) ± (莖赤)	- - - - -	- - ± ± -	- +	- +	- +	- +	絲 毳 體血管蹄係ノ輕度ノ充血及間質組織ハ鬆組下ナリ水腫狀ノ觀ヲ呈ス

120	♀	再生不能性 貧血	普汎性貧血 間質性肺炎 纖維性肝變 輕度肝硬變 先天性微毒?	絲絨體 主潤管 蹄係 集合管 間質管 血管壁	±(黃赤) 卍(黃赤) ±(黃赤) — 卍(黃赤) 卍(黃赤) — —	±(莖赤) 卍(莖赤又 ハ莖赤) ±(莖赤) — 卍(莖赤又 ハ莖赤 〃) 卍(〃) — —	— — — — — — — —	— ± — — — — — —	— — — — — — — —	— — — — — — — —	— — — — — — — —	— — — — — — — —	— — — — — — — —	— — — — — — — —	絲絨體周圍ニハ著明ノ 小圓形細胞ノ集積ヲ認 メ Bowman氏囊壁上皮 細胞ハ著明ニ胞體ノ脾 脹セルモノヲ認メタリ 主管上皮細胞ハ潤濁腫 脹ヲ呈シ管腔擴大シテ 内ニ顆粒狀物ヲ容ル 間質ハ一汎ニ多少ノ度 ニ増殖シ兩質境界ニ細 血管周圍ノ組織ニ小圓 形細胞ノ浸潤ヲ認ム	
121	36 ♀	再生不能性 貧血	普汎性貧血 心臟脂肪變性 大動脈發育不全 肝臟褐色色素沈 着	絲絨體 主潤管 蹄係 集合管 間質管 血管壁	±(黃赤) ±(黃赤) ±(黃赤) — 卍(黃赤) 卍(黃赤) ±(黃赤) —	±(莖青) ±(莖青) ±(莖青) — 卍(莖青) 卍(莖青) ±(莖青) —	— — — — — — — —	— — — — — — — —	— — — — — — — —	— — — — — — — —	— — — — — — — —	— — — — — — — —	— — — — — — — —	— — — — — — — —	— — — — — — — —	主管上皮細胞ノ輕度 ノ潤濁腫脹ヲ認ム
122	17 ♂	出血性紫斑 病 (肺及腹膜 結核症)	皮膚出血斑 右側肺癆, 右側 細葉性肺炎 腎, 脾結核 腸結核 肉豆蔻肝	絲絨體 主潤管 蹄係 集合管 間質管 血管壁	— ±(黃赤) +(黃赤) — +(黃赤) +(黃赤) +(黃赤) —	— ±(莖赤) +(青) — +(青) +(青) +(莖青) —	— — — — — — — —	— — — — — — — —	— — — — — — — —	— — — — — — — —	— — — — — — — —	— — — — — — — —	— — — — — — — —	— — — — — — — —	— — — — — — — —	曲細尿管上皮ノ潤濁 腫脹及境界部ニ定型 的結核ヲ認ム
123	57 ♂	黃疸及膽石 症	全身性黃疸 出血性纖維性心 外膜炎 慢性癒着性纖維 性腹膜炎 脾壞疽, 慢性膽 囊炎 膽石	絲絨體 主潤管 蹄係 集合管 間質管 血管壁	±(黃赤) 卍(黃赤) +(赤) — 卍(黃赤) +(黃赤) +(赤) +(黃赤)	±(莖青) 卍(莖青) +(莖赤) — 卍(莖青) +(莖青) +(莖赤又 ハ莖青) +(莖赤)	— — — — — — — —	— — — — — — — —	— — — — — — — —	— — — — — — — —	— — — — — — — —	— — — — — — — —	— — — — — — — —	— — — — — — — —	— — — — — — — —	絲絨體ハ2-3號葉シ テ結締組織ニ變セルメ モノヲ散在性ニ認ム 主管上皮細胞ハ潤濁 腫脹ヲ呈セリ主管 潤管 Henle氏蹄係上 皮細胞中ニ著シク膽 汁色素顆粒ヲ認ム細 尿管腔内顆粒狀物ト 共ニ膽汁色素ノ存在 ヲ證セリ, 細血管壁 ノ肥厚ヲ認ム

124	49 ♂	黄疸及膽石症	全身性黄疸 化膿性膽道炎 膽石	絲 毬 體 主 管 管 潤 管 管 蹄係 { 下行 上行 集 合 管 間 質 血 管 壁	±(黃赤) ++(赤) +(赤) — ++(黃赤) +(黃赤) — —	±(堇青) ++(堇青) +(堇青) — ++(堇青) +(堇青) — —	— — — — — — — —	— — — — — — — —	± ++ + — ++ + — —	— — — — — — — —	— — — — — — — —	— — — — — — — —	絲 毬 體ノ荒蕪シテ結 締樣ニ變セルモノノ テ散在性ニ認ム一汎 ニ死後ノ變強シ
125	52 ♂	肝硬變症	全身浮腫 兩側胸水 輕度心囊水腫	絲 毬 體 主 管 管 潤 管 管 蹄係 { 下行 上行 集 合 管 間 質 血 管 壁	+ (淡黃赤) ±(赤) ++(赤) — ++(赤) ±(淡黃赤) +(淡黃赤) +(淡黃赤)	+ (堇赤又青) — ++(青) — ++(堇赤又青) ±(堇赤) +(堇赤) +(堇赤)	— — — — + — — —	— — — — — — — —	— ± — — + — + —	± (加溫消失) ±(〃) ++(〃) — ++(〃) — + ++(〃)	— — — — — — — —	— — — — — — — —	絲 毬 體ハ 2-3 荒蕪シ テ結締樣ニ變シ其 血管蹄係及其他ノ毛 細管ニ於テ擴張充盈 著明ナリ細血管內膜 ノ肥厚變性ヲ認ム
126	54 ♂	肝硬變症	肝硬變 腹水皮下水腫 輕度脾腫大	絲 毬 體 主 管 管 潤 管 管 蹄係 { 下行 上行 集 合 管 間 質 血 管 壁	±(黃赤) ±(黃赤) ++(黃赤) ±(黃赤) ++(黃赤) ++(黃赤) +(黃赤) +(黃赤)	±(堇青) ±(堇青) ++(堇青) ±(堇青) ++(堇青) ++(堇青) +(堇赤) +(堇赤)	— — — — — — — —	— — — — + — — —	— — + — — — — —	± (加溫消失) +(〃) ++(〃) ±(〃) ++(〃) — — ±(〃)	— — — — — — — —	— — — — — — — —	皮質ニ於テ限局性ニ 其部ノ絲毬體ハ荒蕪 シテ結締樣ヲ呈シ 間質ノ増殖小圓形ノ 浸潤、細尿管ノ萎縮 ヲ認ム
127	82 ♀	肝硬變症	肝硬變, 膽石	絲 毬 體 主 管 管 潤 管 管 蹄係 { 下行 上行 集 合 管 間 質 血 管 壁	±(黃赤) ±(黃赤) +(黃赤) +(黃赤) +(黃赤) ++(黃赤) ++(黃赤) +(黃赤)	±(青) ±(青) +(堇青) +(青) +(青堇青) ±(青) ++(堇赤) +(堇赤)	— — — — — — — —	— — — — + — — —	— — — — — — + —	— — — — — — — —	— — — — — — — —	— — — — — — — —	肉眼上皮質ニ於テ楔 狀ニ癩痕ヲ形成セル 部ハ絲毬體ハ荒蕪シ テ結締樣ヲ呈シ 間質ノ増殖及細尿管 ノ萎縮ヲ伴フ、細血 管ハ一汎ニ其內膜 ノ肥厚ヲ認ム

128	49 ♀	肝硬變症 腹水	肝硬變 左右開放性結核 空洞及周圍ノ組 織化 胃, 結腸, 結核 性潰瘍	絲 毬 體 主 潤 管 蹄 係 { 下行 上行 集 合 管 間 質 質 血 管 壁	+ (黃赤) 冊 (黃赤) + (黃赤) ± (黃赤) 冊 (黃赤) 冊 (黃赤) —	+ (薑赤) 冊 (薑赤) + (青) ± (青) 冊 (薑赤) 冊 (薑赤) —	—	—	—	± ± — — ± ± —	+(加温) 冊(〃) 冊(〃) +(〃) 冊(〃) 冊(〃) —	—	絲 毬 體 縮 樣 = 荒 蕪 シ テ 結 ル モ ノ 其 變 ジ 然 ラ ザ 氏 囊 纖 維 膜 ハ 肥 厚 シ 小 圓 形 細 胞 ノ 浸 潤 間 質 結 締 織 ノ 増 殖 細 尿 管 ノ 萎 縮 テ 伴 フ 主 管 上 皮 細 胞 ハ 一 汎 其 胞 體 潤 濁 シ 細 血 管 ハ 一 汎 = 其 壁 肥 厚 シ 輕 度 ノ 內 膜 ノ 變 性 ヲ 認 ム
129	67 ♂	糖 尿 病 肺 結 核	肺 結 核 (空 洞 形 成) 大 葉 性 乾 酪 性 肺 炎 心 筋 脂 肪 變 性 腸 結 核 性 潰 瘍	絲 毬 體 主 潤 管 蹄 係 { 下行 上行 集 合 管 間 質 質 血 管 壁	— ± (黃赤) 冊 (黃赤) + (黃赤) 冊 (黃赤) 冊 (黃赤) 冊 (黃赤)	— ± (青) 冊 (薑青) + (薑青) 冊 (薑青) 冊 (薑赤) 冊 (薑赤)	—	—	—	— ± 冊 冊 冊 冊 冊	— — — — — — —	—	肉 眼 的 所 見 ニ 於 テ 表 面 凹 陷 シ テ 暗 赤 ナ 早 セ ル 部 = 於 テ ハ 絲 毬 化 セ ル モ ノ 存 在 シ 質 ノ 浸 潤 及 細 尿 管 ノ 縮 ヲ 認 メ 細 尿 管 腔 內 亦 硝 子 樣 物 質 ノ 容 積 內 腎 動 脈 ハ 肥 厚 シ 管 狹 窄 閉 塞 ヲ 認 ム
130	39 ♀	糖 尿 病 肝 臟 腫 瘍 遊 走 腎	手 術 後 (脾 一 部 別 出) 肝 硬 變 脾 硬 變	絲 毬 體 主 潤 管 蹄 係 { 下行 上行 集 合 管 間 質 質 血 管 壁	— ± (黃赤) + (黃赤) — + (黃赤) — — —	— ± (青) + (青) — + (青) — — —	—	—	—	— ± + — + — — —	— — — — — — — —	—	細 尿 管 殊 = 主 管 上 皮 性 弱 シ 細 胞 ハ 潤 濁 シ 核 染 色
131	20 ♂	尿 崩 症	輕 度 ノ 腦 水 腫 及 腦 脊 髓 炎 肝, 脾, 腎 變 血	絲 毬 體 主 潤 管 蹄 係 { 下行 上行 集 合 管 間 質 質 血 管 壁	— ± (黃赤) + (黃赤) — + (黃赤) — — —	— ± (青) + (青) — + (青) — — —	—	—	—	— ± + — + — — —	+(加温) 冊(〃) — — — + (〃) + (〃) —	—	皮 質 毛 細 血 管 ノ 著 明 ノ 擴 張 充 盈 ヲ 認 ム

140	45 ♂	脊 髓 癆	脊髓癆 全身水腫 胸水 動脈硬化性萎縮腎	絲 毳 體 主 管 管 潤 管 管 蹄係 { 下行 上行 集 合 管 間 質 質 血 管 壁	(+赤又ハ赤) — ++(赤) — +(赤) ++(赤) ++(黃赤) ++(黃赤)	(+青又ハ赤) — ++(青) — +(青) ++(青) ++(莖赤) ++(莖赤)	— — — — — — — —	+	+	+	±	—	—	絲 毳 體 シテ 結 締 織 樣 ルモ ノ チ 認 ム 表面 凹陷 セル ノ 増 殖, 細 尿 管 ノ 萎 縮 ル 部 ハ 細 血 管 ノ 擴 張 ニ 於 テ 上 皮 ノ	荒 蕪 變 上 小 質 皮 セ 肉 眼 ハ 間 質 ニ 於 テ 充 盈 ノ 細 尿 管 ノ 腫 脹 存 ス
141	70 ♂	脊 髓 癆	動脈硬化症 増殖性膽管炎	絲 毳 體 主 管 管 潤 管 管 蹄係 { 下行 上行 集 合 管 間 質 質 血 管 壁	±(赤) 卅(黃赤) ++(黃赤) — ++(黃赤) +(黃赤) +(黃赤) +(黃赤)	±(青) 卅(莖青) ++(莖青) — ++(莖青) +(莖青) +(莖青) +(莖赤)	— — — — — — — —	±	+	+	—	±(加溫消失) ++(〃) +(〃) ++(〃) +(〃)	— — — +	所ニヨリテハ絲毳體 ハ纖維樣ヲ呈シ其周 圍ニ小圓形細胞ノ浸 潤ヲ認ム 細尿管上皮細胞ハ潤 濁腫脹ヲ呈ス	
142	42 ♂	脊 髓 癆	右側大葉性肺炎 眞性萎縮腎 動脈硬化	絲 毳 體 主 管 管 潤 管 管 蹄係 { 下行 上行 集 合 管 間 質 質 血 管 壁	+ (黃赤) — + (黃赤) — + (黃赤) — ± (黃赤) ± (黃赤)	+ (青) — + (青) — + (青) — ± (青) ± (莖赤)	— — — — — — — —	—	+	+	—	—	—	所々ノ絲毳體ハ荒蕪 シテ纖維樣變ヲ呈ス 又其他ノモノニ於テ モ Bowman 氏囊壁 維ノ肥厚ヲ認ム一汎 ニ血管蹄係ハ擴張充 盈ス、肉眼ニ於テハ 間隙セル部ニ於テハ 細尿管萎縮シ間質 増殖ヲ認ム、カ、ル 部ニ石灰沈着ヲ呈ス	
143	61 ♂	腎 臟 炎	全身水腫 心筋實質變性 質質性腎炎 十二指腸蟲寄生 肉豆蔻肝	絲 毳 體 主 管 管 潤 管 管 蹄係 { 下行 上行 集 合 管 間 質 質 血 管 壁	— ±(黃赤) ±(黃赤) — +(黃赤) ±(黃赤) +(黃赤) +(黃赤)	— ±(莖赤) ±(莖赤) — +(莖赤) ±(莖赤) +(莖赤) +(莖赤)	— — — — — — — —	—	—	—	—	—	—	2-3ノ絲毳體ハ荒蕪 シテ結締織樣ニテシ 其他ノモノニ於テモ 血管蹄係ハ變性退縮 シ Bowman 氏囊腔 顆粒狀物ヲ滲留ス主 管上皮細胞ハ一汎ニ 潤濁腫脹ヲ呈シ核ハ 多ク崩解ス間質ハ著 明ニ増殖シ小圓形細 胞ノ浸潤ヲ認ム	

144	27 ♂	腎 臟 炎	慢性實質性腎炎 腰椎炎及周圍膿瘍 全身水腫 輕度ノ慢性間質性肺炎	絲 毳 體 主 潤 管 蹄 係 管 集 合 管 間 質 質 血 管 壁	±(莖赤) ±(莖赤) ±(莖赤) — ±(莖赤) +(莖赤) +(莖赤) —	±(莖青) ±(莖青) ±(莖青) — ±(莖青) +(莖青) +(莖青) —	— — — — — — — —	— — — — — — — —	— — — — — — — —	— — — — — — — —	— — — — — — — —	— — — — — — — —	絲 毳 體 ハ 所 々 荒 蕪 蕪 維 維 性 變 ナ 早 ス ル モ ノ テ 認 ム 其 他 周 圍 ノ 小 圓 形 細 胞 集 積 其 行 性 變 小 ニ 於 テ モ 一 汎 退 行 性 性 變 シ 血 管 蹄 係 ハ 腎 蕪 蕪 維 維 性 變 胞 核 ハ 一 部 崩 壞 ス テ 顆 粒 狀 物 脫 落 上 皮 テ 包 含 ス 間 質 ハ 萎 縮 セリ
145	43 ♂	慢性腎炎 二次性萎縮 腎	全身水腫 慢性間質性腎炎 肺水腫及充血 胃加答兒	絲 毳 體 主 潤 管 蹄 係 管 集 合 管 間 質 質 血 管 壁	++(黃赤) — +(黃赤) — — +(黃赤) ±(黃赤) +(黃赤)	++(莖赤) — +(莖赤) — — +(莖赤) ±(莖赤) +(莖赤)	— — — — — — — —	— — — — — — — —	— — — — — — — —	— — — — — — — —	— — — — — — — —	— — — — — — — —	絲 毳 體 ハ 荒 蕪 シ 織 維 變 ナ 早 ス ル モ ノ テ 認 ム 其 他 周 圍 ノ 囊 モ ノ ニ 於 テ モ 其 他 之 腎 囊 上 壁 纖 維 ハ 肥 厚 腫 脹 シ 核 染 色 性 皮 細 胞 ハ 一 部 間 質 ノ 増 殖 セ ル 部 テ 失 フ 一 部 萎 縮 ノ 増 殖 セ ル 部 ハ 細 尿 管 ノ 萎 縮 柱 状 性 其 他 子 樣 圓 柱 状 性 尿 管 腔 內 所 々 ニ 於 テ 認 ム
146	56 ♂	腎 臟 炎	微毒性大動脈炎 慢性腎臟炎 腎、甲狀腺、副 甲狀腺、脾臟ノ 澱粉樣及硝子樣 變性	絲 毳 體 主 潤 管 蹄 係 管 集 合 管 間 質 質 血 管 壁	+(黃赤) +(黃赤) +(黃赤) — — +(黃赤) +(黃赤) +(黃赤)	+(莖赤) +(莖赤) +(莖赤) — — +(莖赤) +(莖赤) +(莖赤)	— — — — — — — —	— — — — — — — —	— — — — — — — —	— — — — — — — —	— — — — — — — —	— — — — — — — —	絲 毳 體 ハ 一 汎 退 行 性 變 陷 リ 其 血 管 蹄 係 ノ 一 部 或 ハ 全 ニ 巨 リ 硝 子 樣 物 質 ノ 沈 着 セ ル モ ノ テ 多 數 認 ム 其 他 之 腎 囊 上 壁 纖 維 ハ 肥 厚 腫 脹 シ 核 染 色 性 テ モ ル 同 樣 硝 子 樣 物 質 ノ 沈 着 認 ム 尿 管 腔 內 硝 子 樣 物 質 ノ 増 殖 著 明 ナ ル 部 存 在 シ 尿 管 腔 一 汎 萎 縮 シ 又 所 々 部 存 在 著 シ ク 管 腔 ノ 擴 張 基礎膜及周 硝 子 樣 物 質 ハ 其 基 礎 膜 及 周 結 締 織 於 テ 沈 着 認 ム 間 質 ハ 一 汎 退 行 性 變 著 シ 小 圓 形 細 胞 ノ 浸 潤 テ 認 ム 血 管 ハ 小 動 脈 及 細 血 管 於 テ 肥 厚 及 硝 子 樣 變 性 著 明 ナリ
147	48 ♂	腎 臟 炎 ？	全身水腫 心臟實質變性 慢性腎炎 慢性間質性辜丸 炎 陳舊性及粟粒性 肺結核 腸結核性潰瘍	絲 毳 體 主 潤 管 蹄 係 管 集 合 管 間 質 質 血 管 壁	±(黃赤) ++(黃赤) ++(赤) ±(黃赤) ++(黃赤) ++(黃赤) —	±(莖青) ++(莖青) ++(莖青) ±(莖青) ++(莖青) ++(莖青) —	— — — — — — —	— — — — — — —	— — — — — — —	— — — — — — —	— — — — — — —	— — — — — — —	2-3ノ絲 毳 體 ハ 荒 蕪 シ 結 締 織 樣 ナ 早 ス 其 他 一 汎 退 行 性 變 氏 囊 腔 ハ 擴 張 管 腔 內 顆 粒 狀 物 ヲ 充 滿 ス タ ス 主 管 腔 滯 留 ス 其 ニ 顆 粒 狀 物 滯 留 ス 上 皮 細 胞 ハ 濁 濁 シ 扁 平 ナリ 核 染 色 性 ヲ 失 フ 髓 質 於 テ 硝 子 樣 圓 柱 状 性 尿 管 腔 內 所 々 ニ 充 盈 擴 張 ス

148	27 ♂	慢性ネフロ 一七	腎變性 右側下葉ノ輕度 ナル無氣肺	絲 毬 體 主 管 管 潤 管 管 蹄係 { 下行 上行 集 合 管 間 質 血 管 壁	+ (黃赤) 卅 (黃赤) 卅 (黃赤) — 卅 (黃赤) 卅 (黃赤) + (黃赤) + (赤黃)	+ (莖赤) 卅 (莖赤) 卅 (莖赤) — 卅 (莖赤) 卅 (莖赤) + (莖赤) + (莖赤)	± — — — ± — ± ±	— — — — — — — —	+	+	—	± (加溫 消失) + (〃)	— — — — — — — —	Bowman氏囊壁ノ纖維ハ増殖 シ小圓形細胞ノ集積ヲ認メ陷 管蹄係モ一汎ニ退行性變ニ階 リ全ク荒蕪シテ結構無造 構ヲ呈スルモノ存ス主上皮 ハ一汎ニ滲獨腫脹シ核染色性 ヲ失フ
149	27 ♂	腎 臟 炎	心臟肥大 肺水腫 全身性動脈內膜炎 肥厚及脂肪變性 左側血管性萎縮 腎右側腎脂肪變性 胸水、腹水	絲 毬 體 主 管 管 潤 管 管 蹄係 { 下行 上行 集 合 管 間 質 血 管 壁	卅 (黃赤) 卅 (黃赤) 卅 (黃赤) ± (黃赤) 卅 (黃赤) ± (黃赤) ± (黃赤) 卅 (黃赤)	卅 (莖赤又 青) 卅 (〃) 卅 (〃) ± (青) 卅 (莖赤又 青) ± (青) ± (青) 卅 (莖赤)	— — — — — — — —	+	+	+	± (加溫 消失) + (〃) + (〃) ± (〃) + (〃) ± (〃) ± (〃) + (〃)	— — — ± ± — — —	絲毬體ハ萎小セルモノト腫大セル モノト交錯シテ存在シ血管蹄 係內被細胞ハ著シク退行性變ニ 陥リ內被細胞核ハ染色性ヲ失 又核崩解ス Bowman氏囊壁上皮 細胞ハ所々不規則ナル増生ヲ示 ス又輸入管ニ接スル部ニ於テ蹄 係內ニ血栓形成ヲ認ム其下部ハ 一汎ニ蹄係ノ擴張充盈著明ナリ 細尿管ハ皮質表層ニ於テハ一汎 ニ萎縮シ原形質ハ淡明ナルモノ 多シ間質ノ滲蔓性増殖、毛細血 管ノ擴張充盈著シ葉間腎動脈ノ 細血管ニ於テハ其內膜ハ著明ニ 肥厚變性ヲ呈シ稍大ナルモノニ 於テハ壁ニ石灰沈着ヲ認ム而シ テ一汎ニ內腔ノ閉塞サレシ如キ 觀ヲ呈ス	
150	50 ♀	慢性腎臟炎	化膿性心外膜炎 及心筋炎 腎動脈血栓 腎臟壞疽 脾臟腫大 化膿性氣管支炎 皮下水腫	絲 毬 體 主 管 管 潤 管 管 蹄係 { 下行 上行 集 合 管 間 質 血 管 壁	— — 卅 (黃赤) — + (黃赤) + (黃赤) + (黃赤) + (黃赤)	— — 卅 (青) — + (青) + (青) + (莖青) + (莖青)	— — — — — — — —	— — ± — ± ± — —	—	—	+	— — — — — — — —	細尿管腔ハ擴大シテ上皮細胞ハ 著シク扁平トナリ管腔內顆粒狀 物ヲ潴溜ス絲毬體 Bowman氏囊 膜纖維ハ肥厚變性シ囊腔內ニ白 血球及脱落上皮細胞ヲ充タス皮 質細血管周圍ニ小圓形細胞ノ浸 潤轉質ニ於テモ小圓形細胞ノ浸 潤電ヲ認ム	
151	36 ♀	慢性腎炎 分娩後出血 死	產褥子宮 肝臟部分性實質 變性及壞死 脾臟充血 心臟外膜及內膜 下出血 慢性絲毬體腎炎 膽石	絲 毬 體 主 管 管 潤 管 管 蹄係 { 下行 上行 集 合 管 間 質 血 管 壁	+ (赤) 卅 (赤) 卅 (赤) — 卅 (赤) 卅 (赤) + (黃赤) —	+ (莖青) 卅 (莖赤) 卅 (莖青) — 卅 (莖赤) 卅 (莖赤) + (莖赤) —	— — — — +	— — — — — — — —	—	—	+	± (加溫 消失) + (〃) — — — — ± (〃)	— — — — — — — —	皮質表層ニ於テハ絲毬體ハ荒 蕪纖維性變ヲ呈シ間質ノ増殖、 細尿管ノ萎縮ヲ伴フ 其他ノ絲毬體ニ於テハ一汎ニ 腫大シ血管蹄係核ハ増生ス細 尿管內所々硝子樣圓柱ヲ認ム

158	9月 ♀	敗血症 (種痘後)	左側上膊壞疽 纖維素性化膿性 腹膜炎 漿液性腦膜炎 腎臟實質變性	絲 毬 體 主 管 管 潤 管 管 蹄 係 { 下行 上行 集 合 管 間 管 質 血 管 壁	- +(黃赤) +(黃赤) - ++(黃赤) +(黃赤) - -	- +(青) +(青) - ++(青) +(青) - -	-	-	-	-	-	-	-	絲 毬 體 ハ Bowman氏 囊 壁 細胞 ノ 増 生 チ 認 メ 血 管 蹄 係 擴 張 充 盈 チ 認 ム 主 管 上 皮 細胞 ハ 著 明 ニ 潤 濁 腫 脹 シ 毛 細 血 管 ハ 一 汎 ニ 擴 張 充 盈 ス
159	13 ♂	腸チフス」	腸チフス」 脾腫大 腎、肝、心臟ノ 實質性變性 腎臟多發性膿瘍	絲 毬 體 主 管 管 潤 管 管 蹄 係 { 下行 上行 集 合 管 間 管 質 血 管 壁	- +(黃赤) - +(黃赤) +(黃赤) - -	- +(青) - +(青) +(青) - -	-	-	-	-	±	-	-	皮 質 所々ニ 散 在 性ニ 限 局 セル 多 核 及 多 形 核 白 血 球 及 小 淋 巴 球 ノ 集 在 セル 化 膿 菌 チ 認 ム 其 部 ニ 存 ス ル 細 尿 管 ハ 其 原 形 チ 失 セ 上 皮 細胞 モ 一 汎 ニ 壞 死ニ 陥 レリ、 主 管 上 皮 細胞 ハ 一 汎 ニ 潤 濁 腫 脹 シ 核 ハ 著 シク 染 色 性 チ 失 フ
160	26 ♂	腸チフス」	腸チフス」 脾腫大 腸ノ「チフス性 潰瘍 腎及心臟ノ變性 腎膿瘍	絲 毬 體 主 管 管 潤 管 管 蹄 係 { 下行 上行 集 合 管 間 管 質 血 管 壁	- ±(黃赤) - ±(黃赤) - -	- ±(青) - ±(青) - -	-	-	-	-	-	+	-	絲 毬 體 血 管 蹄 係 ハ 一 部 擴 張 充 盈 シ 細 尿 管 上 皮 細胞 ハ 脫 落 セ ル モ ノ 多 ク 僅 ニ 存 ス ル モ ノ 潤 濁 腫 脹 チ 呈 シ 核 染 色 性 チ 失 フ
161	16 ♀	腸チフス」	腸チフス」 脾腫大 心臟及腎臟實質 變性	絲 毬 體 主 管 管 潤 管 管 蹄 係 { 下行 上行 集 合 管 間 管 質 血 管 壁	- ++(黃赤) +(黃赤) - +++ (黃赤) ++(黃赤) ±(黃赤) -	- ++(堇赤) +(堇赤) - +++ (堇赤) ++(堇赤) ±(堇青) -	-	-	-	-	+	+	-	細 尿 管 上 皮 細胞 ハ 一 汎ニ 潤 濁 腫 脹 シ 核 染 色 性 チ 失 フ、 組 織 一 汎ニ 死 後ノ 變 強シ

166	19 ♀	腸チフス」	腸チフス」 脾腎臓質變性 脾腎臓質變性	絲 毬 體 主 管 管 潤 管 管 蹄係 { 下行 上行 集 合 管 間 管 質 血 管 壁	±(黃赤) — — — — — —	±(堇青) — — — — — —	— — — — — — —	— — — — — — —	— — — — — — —	— — — — — — —	— — — — — — —	— — — — — — —	— — — — — — —	— — — — — — —	絲毬體 Bowman氏囊 腔尿管腔ハ著明ニ 擴大シ 尿管上皮細胞ハ一 汎ニ潤濁腫脹ヲ呈ス
167	19 ♂	腸チフス」	腸チフス」性腸 潰瘍穿孔性汎發性腹 膜炎 脾腫大	絲 毬 體 主 管 管 潤 管 管 蹄係 { 下行 上行 集 合 管 間 管 質 血 管 壁	— — — — — — —	— — — — — — —	— — — — — — —	— — — — — — —	— — — — — — —	— — — — — — —	— — — — — — —	— — — — — — —	— — — — — — —	— — — — — — —	曲尿管上皮細胞ノ 潤濁ヲ認ム
168	43 ♀	腸チフス」	腸チフス性潰瘍 脾腫大	絲 毬 體 主 管 管 潤 管 管 蹄係 { 下行 上行 集 合 管 間 管 質 血 管 壁	+ (黃赤) + (黃赤) 卅 (黃赤) — — 卅 (黃赤) ± (黃赤) —	+ (堇赤) + (堇) 卅 (堇) — — 卅 (青) ± (堇赤) —	— — — — — — — — —	— — — — — — — — —	± — + — — — — — —	— — — — — — — — —	— — — — — — — — —	— — — — — — — — —	— — — — — — — — —	+ (加温消失) — 卅 (〃) — — + (〃) — — —	絲毬體ハ1-2ノモノ 荒蕪シテ纖維様ニ變 ズ、皮質表層ニ近キ 血管ハ著シク擴張充 盈ス 尿管上皮ハ死後ノ 變強ク胞體ハ一汎ニ 崩解セリ
169	67 ♀	腸チフス」	腸チフス」 脾腫大 心臟質變性 腦膜水腫	絲 毬 體 主 管 管 潤 管 管 蹄係 { 下行 上行 集 合 管 間 管 質 血 管 壁	— — 卅 (黃赤) — 卅 (黃赤) 卅 (黃赤) ± (黃赤) 卅 (黃赤)	— — 卅 (青) — 卅 (青) 卅 (青) ± (青) 卅 (堇赤)	— — — — — — — — —	— — — — — — — — —	— — + — — ± ± ± +	— — — — — — — — —	— — — — — — — — —	— — — — — — — — —	— — — — — — — — —	— — — — — — — — —	絲毬體 Bowman氏囊 腔ハ多少擴大シ内ニ 分泌物ヲ滯溜スル所 ノアリ間質ニ於テ所 々限局性ニ著明ナル 淋巴細胞ノ浸潤竈ヲ 認メ多數ノ造結締織 細胞、固定結締織細 胞ノ核分割ヲ認ム亦 間質結締織ノ増殖ヲ 示セリ

174	26 ♂	急性腦膜炎	急性漿液性軟腦膜炎 兩側肺臟陳舊性結核及空洞形成 兩側性纖維性肋膜癒着	絲絨體 主管管 蹄係 下行 上行 集合管 管質壁 間管 血管	- - - - +(黃赤) +(黃赤) - +(黃赤)	- - - - +(堇青) +(堇青) - +(堇青)	- - - - - - - -	- - - - - - - -	- - - - - - - -	±(加溫消失) +(〃) - - +(〃) +(〃) - -	- - - - - - - -	曲細尿管上皮細胞ハ 瀾濁シ核染色性ヲ失フ	
175	43 ♂	破傷風	動脈內膜及肋膜出血斑	絲絨體 主管管 蹄係 下行 上行 集合管 管質壁 間管 血管	- +(黃赤) +(黃赤) - ±(黃赤) ±(黃赤) +(黃赤) -	- +(堇青) +(堇青) - ±(堇青) ±(堇青) +(堇青) -	- - - - - - - -	- ± ± - ± ± ± ±	- ± ± - ± ± ± ±	+(加溫消失) +(〃) - - +(〃) - - -	- - - - - - - -	毛細血管ノ擴張充盈ヲ認ム	
176	1週 ♀	破傷風	臍帶糜爛 肺, 脾, 腎, 肝 鬱血 肺, 肝出血 心外膜下出血斑 腦膜及腦ノ鬱血 初生兒黃疸	絲絨體 主管管 蹄係 下行 上行 集合管 管質壁 間管 血管	- - - - - - - -	- - - - - - - -	- - - - - - - -	- - - - - - - -	- - - - - - - -	- - - - - - - -	+(加溫消失) +	- - - - - - - -	Bowman氏囊腔ノ著明ノ擴大ヲ認メ皮質ノ毛細血管及細血管ノ著シキ充血及所々ニ出血電ヲ認ム
177	25 ♀	子癇	產褥子宮 肺鬱血及水腫 腸氣腫 腎變性 出血性腦軟化 脾腫大, 腎靜脈, 門靜脈血栓形成	絲絨體 主管管 蹄係 下行 上行 集合管 管質壁 間管 血管	- +(黃赤) - +(黃赤) +(黃赤) - - - -	- +(堇赤) - +(堇赤) +(堇赤) - - - -	- ± ± - ± ± - -	- - - - - - - -	- - - - - - - -	+(加溫消失) +(〃) - - - - - +(〃) -	- - - - - - - -	絲絨體 Bowman氏囊ハ肥厚シ主管及Henle氏蹄係上皮細胞ハ瀾濁腫脹シ核染色性不良ナリ細血管ノ擴張充盈ヲ認ム	

182	38 ♀	急性出血 (人工分娩後)	脊柱側彎 全身貧血 子宮別出後	絲 毬 體 主 管 管 潤 管 管 蹄係 { 下行 上行 集 合 管 間 質 血 管 壁	++(赤) +(赤) 卅(赤) +(赤) 卅(赤) ++(赤) +(黃赤) +(赤)	++(青) +(青) 卅(青) +(青) 卅(青) ++(青) +(青) +(青)	- - ++ - - ++ - -	- - - - - - - -	± ± ++ ± ± ± ± ±	(加温 保存) +(〃) - - +(〃) + - -	- - - ± - - - -	絲毬體ハ1-2荒蕪シ テ結締織様ニ變ジ細 尿管上皮細胞ノ輕度 ノ潤濁腫脹ヲ認ム
183	35 ♀	急性汎發 性腹膜炎	子宮別出後 骨盤穿孔 脊柱後側彎	絲 毬 體 主 管 管 潤 管 管 蹄係 { 下行 上行 集 合 管 間 質 血 管 壁	- +(黃赤) ++(黃赤) +(黃赤) ++(黃赤) ++(黃赤) - -	- +(莖赤) ++(莖赤) +(莖赤) ++(莖赤) ++(莖赤) - -	- + ++ + ++ + - -	- - - - - - - -	- - - - - - - -	- - - - +(加温 消失) - +(〃) -	- - - + ± ± - -	細尿管上皮ハ一汎ニ 潤濁腫脹シ核染色性 ヲ失フ間質結締織ハ 鬆粗水腫狀ヲ呈シ、充 毛細管及小血管ノ充 盈擴張ヲ認ム
184	29 ♂	穿孔性腹膜 炎	蟲様突起炎 蟲様突起穿孔性 腹膜炎 義膜性腸炎 胃擴張 腎實質變性	絲 毬 體 主 管 管 潤 管 管 蹄係 { 下行 上行 集 合 管 間 質 血 管 壁	- - - - - +(黃赤) - -	+ - - - - +(莖青) - -	- - - - - + - -	- - - - - - - -	- - - - - + - -	- +(加温 消失) - - +(〃) - -	- - - - - - - -	絲毬體血管蹄ハ著明 ニ充盈擴張ヲ係スル 部アリ細尿管殊ニ主 管上皮細胞ハ潤濁シ 核染色性ニ乏シ細血 管ハ兩質トモ充盈擴 張著シ
185	53 ♀	廻腸捻轉性 閉塞	腸一部切除 急性腹膜炎 大動脈發育不全	絲 毬 體 主 管 管 潤 管 管 蹄係 { 下行 上行 集 合 管 間 質 血 管 壁	±(黃赤) - +(黃赤) - ++(黃赤) +(黃赤) - +(黃赤)	±(莖赤) - +(莖赤) - ++(莖赤) +(莖赤) - +(莖青)	- - - - + - - -	- - - - - - - -	- +(加温 消失) ++(〃) - - +(〃) +(〃) - -	- - - + - - - -	絲毬體血管蹄係ハ充 盈擴張シ、其内膜ノ肥 厚變性ヲ認ム	

194	11日 ♂	初生兒鞏硬 浮腫症	初生兒鞏硬浮腫 症 出血性並 = 加答 兒性肺炎 副甲狀腺實質性 出血 尿酸硬塞	絲 毬 體 主 管 潤 管 蹄 係 { 下行 上行 集 合 管 間 質 血 管 壁	-	-	-	-	-	-	-	-	著シキ組織的變ヲ認 メズ
195	59 ♀	火 傷	部分性第四度火 傷 多發性肝臟出血	絲 毬 體 主 管 潤 管 蹄 係 { 下行 上行 集 合 管 間 質 血 管 壁	+(赤) -	+(青) -	-	-	-	-	-	-	1-2ノ絲毬體ハ荒蕪 シテ硝子様ニ變シ其 他一汎ニ其血管蹄係 ハ擴張充盈シ細尿管 上皮膚細胞ハ一汎ニ潤 濁腫脹ヲ呈シ集合管 腔内ニ硝子様圓柱ヲ 多數ニ認メ皮質表層 ニ於テ内面ニ圓柱上 皮ヲ被覆スル囊胞存 シ周圍ニ圓形細胞ノ 浸潤ヲ認ム

第 三 表

検査 番 號	年齢及 性別	毒物 種類	死亡時 迄ノ經 過時日	主要ナル病理 解剖的診斷	脂 肪 體 檢 査 所 見										組織所見摘要
					部位	染色	ズダンIII	ニールアラウ ズルファート	ノイトラ ルロート	Fischler 氏法	Smith 氏法	Ciaccio 氏法	重風折	類脂肪性 色素顆粒	
196	26 ♂	黄磷	約 11時間	腸、肺臓、膈 膜ノ出血斑 肋膜出血斑 腎臟實質變性 輕度黄疸 膈血管 胃加答兒	絲 毳 體 主 管 潤 管 蹄係 { 下行 上行 集 合 管 間 質 血 管 壁	±(黄赤) — ++(黄赤) +(黄赤) ++(黄赤) ±(黄赤) ±(黄赤) ±(黄赤)	±(堇青) — ++(堇青) +(堇青) ++(堇青) ±(堇青) ±(堇青) ±(堇青)	— — — + ++ — — —	— — — — — — — —	± — + ± + — ± ±	— — — — — — — —	+ (加温 消失) ++(〃) +(〃) ±(〃) ++(〃) ±(〃) ++(〃) ±(〃)	— — — — — — — —	絲毳體血管蹄係ハ迂曲ノ度 強ク其内被細胞面ハ所々「 エオジン」ニ濃染シテ肥厚 セル觀ヲ呈ス、Bowman氏 囊壁上皮細胞ハ其厚徑ヲ増 シ又血管蹄係内被細胞核ノ 「ピクノーゼ」ヲ呈スルモノ ヲ認メ一汎ニ皮質間質結締 織ノ輕度ノ増殖ヲ認ム、主 管上皮細胞ハ其胞體ハ變性 ニ陥リ潤濁ヲ呈シ核染色性 弱シHenle氏蹄係上行脚及 潤管移行部ニ於テ粗大ナル 膽汁色素ノ沈着ヲ認メ體質 ニ於テハ毛細血管ノ充盈擴 張著明ナリ	
197	38 ♂	黄磷	約3日	「サフラン肝 心筋及腎臟脂 肪變性 肺臓、胃、心内 外膜出血	絲 毳 體 主 管 潤 管 蹄係 { 下行 上行 集 合 管 間 質 血 管 壁	+ (赤) +++ (黄赤) ++ (黄赤) + (黄赤) +++ (黄赤) ++ (黄赤) ± (黄赤) ± (黄赤)	+ (青) +++ (堇赤) ++ (青) + (堇青又 ハ青) +++ (〃) ++ (青) ± (堇青) ± (堇青)	— — — — — — — —	— — — — — — — —	— ++ + ++ ++ ++ ± ±	— — ++ — — ++ — —	+ (加温 消失) +++ (〃) ± (〃) — ++ (〃) — + (〃) —	— — + — — — — —	絲毳體血管蹄係ハ著シク 擴張充盈セリ、細尿管殊 ニ主管上皮細胞ハ著シク 變性ニ陥リ潤濁腫脹ヲ呈 シ細尿管上皮細胞核ハ一 汎ニ染色性弱シ 皮髓兩質ノ血管ハ著明ニ 擴張充盈ヲ認ム	
198	32 ♂	黄磷	約7日	全身性黄疸 肋膜、心外膜、 膈實質、縱隔 竇、腸網膜出 血 心筋變性及斷 裂 「サフラン肝 腎臟脂肪變性 胃腸出血	絲 毳 體 主 管 潤 管 蹄係 { 下行 上行 集 合 管 間 質 血 管 壁	+ (黄赤) +++ (黄赤) ++ (黄赤) ++ (黄赤) +++ (黄赤) ++ (黄赤) + (黄赤) —	+ (堇赤) +++ (赤) ++ (堇青) ++ (堇青) +++ (堇青) ++ (堇青) + (堇青) —	— — — — — — — —	— — — — — — — —	— ++ ++ ++ ++ ++ + —	— — — — — — — —	± (加温 消失) — — — — — — —	— — + — — — — —	絲毳體血管蹄係ハ一汎ニ 水腫狀ヲ呈シ稍々腫大セリ 細尿管殊ニ主管上皮ハ著 明ノ潤濁腫脹ヲ呈シ核消 失セリ、其細胞基底部分 ニ於テ膽汁色素ノ沈着ヲ認 ム 細尿管蹄係殊ニ上行脚ニ 於テハ其上皮細胞潤濁シ 核染色性弱シ間質結締織 ハ一汎ニ其組織鬆軟トナ リ水腫狀ヲ呈セリ	

199	31 ♀	砒素	約2週	心筋變性，肺 出血及水腫， 肋膜炎，咽 氣管支並，喉 頭氣管加答兒，喉 食道加答兒，癆 輕度ノ胃潰瘍性 部分性義膜性 腸炎，細尿管 腎炎，腦神經 節細胞變性肝 細胞離解	絲 毬 體 主 管 潤 管 蹄 係 { 下行 上行 集 合 管 間 質 血 管 壁	+(黃赤) ±(黃赤) +(黃赤) ±(黃赤) +(黃赤) ++(黃赤) +(黃赤) —	+(堇青) ±(堇青) +(堇青) ±(堇青) +(堇青) ++(堇青) +(堇青) —	— — — — — — — —	— — — — — — — —	— — — — — — — —	— — — — — — — —	— — — — — — — —	— — — — — — — —	絲毬體ハ一汎ニ多少ノ度ニ 腫大シ其血管蹄係ハ水腫狀 ヲ呈シ核染色性ヲ失フ其蹄 係面及 Bowman 氏囊壁上皮 細胞ハ腫大シ變性ニ陥リ核 染色性ヲ失ヒ脱落シテ囊腔 内ニ存在スルモノヲ認ム 而シテ血管蹄係ハ一汎ニ擴 張充盈ヲ認ム 細尿管上皮細胞ハ一汎ニ著 シク腫大シ細胞體ハ潤濁シ核 ハ染色性不良トナリ胞體內 空泡形成ヲ認ム，血管ハ一 汎ニ擴張充盈著明ナリ
200	59 ♂	砒素	數時間	出血性中毒性 胃腸炎 肺氣腫 腎臟實質變性	絲 毬 體 主 管 潤 管 蹄 係 { 下行 上行 集 合 管 間 質 血 管 壁	±(黃赤) — ++(黃赤) — ±(黃赤) +(黃赤) +(黃赤) +(黃赤)	±(青) — ++(青) — ±(青) +(青) +(堇赤) +(堇赤)	— — — — — — — —	— — — — — — — —	— — — — — — — —	— — — — — — — —	— — — — — — — —	— — — — — — — —	絲毬體ハ一汎ニ退縮シテ Bowman 氏囊腔ハ擴大シ 所々顆粒性物質ヲ容ル血 管蹄係ハ「エオジン」ニ不 平等ニ染色シ空泡狀ヲ呈 シ内被細胞核ハ萎縮性變 ヲ呈ス 曲細尿管殊ニ主管部上皮 細胞ハ著明ニ潤濁腫脹シ テ一部ハ壊死性變ヲ呈シ テ核染色性ヲ失フ